令和6年度

大野地区地域課題解決検討事業

実績報告書

令和７年３月

大野地区地域課題解決検討会

～ 目 次 ～

【第１部－地区座談会の開催】

（１）地区座談会 …… 1

１）趣旨・目的

２）開催概要

３）プログラムの流れ

４）意見交換のまとめ

５）成果と課題

参考資料１：地区座談会 資料

参考資料２：参加者アンケート

【第２部－住民等参加推進】

（１）プロジェクトチーム会議 …… ４３

１）趣旨・目的

２）メンバー構成

３）開催概要

４）成果と課題

参考資料１：会議資料

参考資料２：ニュースレター

【第３部－地域住民の意識啓発】

（１）大野の資源を活かした地域交流イベント …… ６７

１）大野の水を活かした流しそうめんイベント

２）雪を活かした雪だるま・ミニ灯ろうづくりイベント

３）成果と課題

参考資料１：高校生へのイベント周知・実施報告

参考資料２：イベントの掲示物

参考資料３：参加者アンケート結果

参考資料４：雪のイベントの会場レイアウト

参考資料５：雪のイベントの高校への開催案内

【第４部－行政区再編モデル事業】

（１）行政区再編モデル事業の概要 …… ８１
１）事業の目的と対象
２）関係協議の経緯
３）協議に用いた資料
（２）行政区再編意向調査（アンケート）の結果 …… ９３
１）調査結果
２）地区区長会での意見
（３）今後の行政区再編の推進に資する調査 …… ９４
１）ヒアリング調査概要
２）ヒアリング調査結果
（４）成果と課題 …… ９９
１）今年度の取り組みの成果
２）今後の課題

資料編

（１）令和６年度大野地区地域課題解決検討会役員名簿
（２）大野地区地域課題解決検討会会則

【第１部－地区座談会の開催】

（１）地区座談会

１）趣旨・目的

・人口減少や少子高齢化、行政の財源縮小に伴う生活サービスの維持が今後困難になる恐れがある中で、大野地区でいつまでも住み続けられるためには、「地域の事は地域で考えて自ら行動する」姿勢を持って、住民主体のまちづくりを推進するための体制を整えることが重要です。
・全国的にも生涯学習が中心の「公民館」から地域づくりの拠点である「コミュニティセンター」へと移行し、施設の管理運営や事業実施を住民自らが担うようになってきている背景を踏まえ、地区座談会では、日頃気になることや困りごと、その解決策等について話し合い、住民自らが行動していくための一歩をみんなで考えていくことが目的です。また、これまでに実施した基礎調査や中学生以上全住民アンケート調査の結果等についても広く住民に周知しました。

２）開催概要

日時	第 1 回目：令和 6 年 7 月 16 日（火）～ 令和 6 年 8 月 8 日（木） 午後 7 時 00 分～午後 8 時 30 分 第 2 回目：令和 6 年 10 月 10 日（木）～ 令和 6 年 11 月 12 日（火） 午後 7 時 00 分～午後 8 時 30 分 第 3 回目：令和 6 年 12 月 9 日（月）～ 令和 7 年 1 月 22 日（水） 午後 6 時 30 分～午後 8 時 00 分 （第 6 地区のみ：午後 7 時 00 分～午後 8 時 30 分）
場所	第 1 地区：秋葉集会所 第 2 地区：結とぴあ(有終会館)3 階　305、306 第 3 地区：文化会館 1 階　名水の間（1 回目）、 文化会館 2 階　鳳凰の間（2、3 回目） 第 4 地区・第 5 地区・第 6 地区：学びの里「めいりん」1 階 ランチルーム
参加者対象	区長、一般住民（特に若い世代や女性の方）、 プロジェクトチームメンバー
参加者数	469 名 ※全 3 回累計 （第 1 地区：92 名、第 2 地区：82 名、第 3 地区：75 名、 第 4 地区：87 名、第 5 地区：68 名、第 6 地区：65 名）
広報	チラシ、館報、ホームページ、大野市公式 LINE

3）プログラムの流れ

月	プログラムの流れ（各回のテーマ、周知・報告）
5 6	**全プログラム・第 1 回目の企画検討** 区長会理事会、大野地区地域課題解決検討会理事会、プロジェクトチーム会議の実施 **開催周知** 館報（2 回）、チラシの全戸配布　等
7 8 9	**第 1 回目：地区の魅力・課題の共有** **①全国的なまちづくりの潮流、現状・課題の報告** 各地区の基礎データ、中学生以上全住民アンケート調査結果等の報告 **②意見交換** ①を踏まえた、地区の魅力と課題の抽出・共有 **第 1 回目の開催報告・第 2 回目の企画検討** 大野地区地域課題解決検討会理事会の実施 **第 1 回目開催報告・第 2 回目の開催周知** 館報、ホームページ　等
10 11 12 1	**第 2 回目：優先的に取り組むテーマの設定・具体的な対策の検討** **①第 1 回目のまとめの報告・まちづくり事例の紹介** 住民主体のまちづくり活動の事例紹介 （山形県川西町、愛知県長久手市、富山県富山市） **②意見交換** 地区の魅力と課題の中から地域で優先的に取り組むテーマの選定（3 つ）、各テーマについて自分たちでできる具体的な取組の検討 **第 2 回目の開催報告・第 3 回目の企画検討** 大野地区地域課題解決検討会役員会、理事会の実施 **第 2 回目開催報告・第 3 回目の開催周知** 館報、ホームページ　等 **第 3 回目：若者や女性などの担い手の参加・交流促進の検討** **①第 2 回目のまとめの報告・まちづくり事例の紹介** まちづくりの受け皿・担い手確保の事例紹介（石川県羽咋市・白山市） **②意見交換** 自分たちでできることを実践していくための担い手となる若者や女性等の地域への参加や交流促進の検討
2 3	**地区別座談会の成果報告（全 3 回の総括）** 大野地区地域課題解決検討会役員会、理事会の実施 **第 3 回目の実施報告** 館報、ホームページ **実績報告書の概要版の全戸配布**

4）意見交換のまとめ

ⅰ）総括

大野地区全体のまとめ

第１回目：地区の魅力・課題の共有

・過年度調査結果（基礎調査・中学生以上全住民アンケート調査等）を共有するとともに、**各地区の魅力や課題を把握・共有**することができました。

第２回目：優先的に取り組むテーマの設定・具体的な対策の検討

・地域で優先的に取り組むテーマに関して、良いところや地区のシンボル・宝などの**魅力については各地区によって特性に違いがあることを把握**することができました。

・**課題についてはどの地区も「少子高齢化の問題」「地域の担い手不足」「空き家・空き地問題」「除雪・排水の問題」が多い傾向にあることが把握**できました。特に、「空き家・空き地」は管理不全による危険性や衛生の問題、所有者の把握や交渉が困難であることから、空き家になる前に地域で声掛けや体制づくりが重要であること、また「除雪・排水の問題」は河川や水路の水量の問題があり、管理者などの関係者と連携する必要があることを参加者と共有しました。

第３回目：担い手の参加・交流促進の検討

・春の祭礼やみこし、夏の祭りやラジオ体操、秋の防災訓練や運動会により**参加・交流が図られていることが把握**できました。

・一方で、**高齢者が多く、世帯数が少ない行政区**では、青年会などの**地域団体の解散**、**地域行事の減少**、**担い手や参加者の固定化**など、**地域コミュニティの衰退が深刻化していることを把握**することができました。また、**隣接行政区との連携の可能性がある地域行事についても把握**することができました。

地区別のまとめ（今後各地区で取り組むことが考えられる活動）

◆第１地区

・地域で優先的に取り組むテーマのうち「自然が豊富・良い」（魅力）が最も多くなっており、特に**「フジバカマ・フクジュソウのプロジェクト」は今後進めていきたい**という意見が多くありました。また、**有終南小学校の芝生を活用したイベントの実施**についても多くの意見やアイデアがありました。

・有終南小学校と連携した「南っ子イルミネーション」の実行委員会発足、３町内合同の青年会や壮年会を中心とした「ムラサキ組」など、複数町内との連携が図られ、子育て世代や現役世代が多く活動していることから**若い世代を中心としたプロジェクトやイベントの実施**が望まれます。

◆第２地区

・地域で優先的に取り組むテーマのうち「災害に強い」（魅力）は他の地区との違いが見られたとともに、**「災害が少ないので災害への意識づけが必要」「家庭用消防設備の点検の声掛けが必要」「災害時の避難先を確認する」**といった防災に関する意見やアイデアが多くありました。

・第２地区では、若い世代や現役世代がいる行政区とそうでない行政区とで、地域行事の内容に差があることから、**第２地区内の行政区の連携**（篠座神社での交流イベント）や、**第１地区との合同によるイベントの実施**（有終南小学校での防災キャンプなど）が望まれます。

◆第３地区

・地域で優先的に取り組むテーマのうち「生活環境が良い」（魅力）が最も多く選ばれており、特に**「公園の管理や活用」**に関する意見が多くありました。駅東公園など**広い公園を活用した近隣行政区による合同での地域行事やイベント等の実施**が望まれます。

・**女性有志の会（すみれサークル）が地域行事の実施や他の行事をサポート**していることから、今後も**地区内でのより一層の連携**が望まれます。

・日頃からの世代間での交流も少ないといった意見もあることから、**時間がある人や特技がある人を登録して若者と高齢者同士が助け合える機会づくり**も望まれます。

◆第４地区

・地域で優先的に取り組むテーマのうち「駅のにぎわいがない」（課題）は他の地区との違いが見られたとともに、**「自転車を列車に乗せられると良い」「イベント列車の運行」「駅前にイルミネーションやキッチンカーの設置」**などの**駅のにぎわい創出に向けた意見やアイデア**が多くありました。

・第４地区の中でも特に明倫地区は高齢者世帯が多いため、世代を越えて住民同士が交流できる地域行事が少ない状況となっています。**第４地区全体や近隣の地区との合同によるイベントの実施**などが望まれます。

◆第５地区

・地域で優先的に取り組むテーマのうち「風景が良い」（魅力）や「空き家や空き地が増えている」（課題）に関する意見やアイデアが多くありました。特に「風景が良い」では**「昔の町名を残す」「古民家や廃校の宿泊施設への活用」「看板や表示など観光客が利用しやすい・使いやすい環境整備」「観光客にお金を落としてもらう仕組みづくりが必要」**といった意見が多く、**地域の歴史や資源の更なる活用**が望まれます。また、第５地区では管理不全の空き家が多いことから、**空き家・空き地になる前からの地域での声掛けや連絡体制づくり**が望まれます。

◆第６地区

・地域で優先的に取り組むテーマのうち「城下町の町並みがある」（魅力）に関する意見やアイデアが多くありました。特に**「碁盤の目のウォークラリー」「動画・インスタグラム・AR の活用」「まちのことを気軽に聞ける仕組み」**など**まちの魅力発信・PR に関する意見やアイデア**が多くありました。第６地区では、歴史資源が多くあり来訪者なども多く訪れる地区であるものの、少子高齢化や地域の担い手不足、空き家の増加などの問題が深刻化していることから、**まちなかの資源を活用した住民・来訪者が一体となった交流・魅力発信**が望まれます。

ⅱ）地区別まとめ

①第１地区

地区の魅力・課題の共有（第１回目）

魅　　力

○**自然が豊富・良い**（水・空気・山菜・野菜がおいしい、本願清水がある、イトヨが生息している）
○**子育て環境が良い**（地域の見守り活動や子どもに関する相談窓口が充実している）
○**生活環境が良い**（のどか、緑が多い、混雑がなく快適である、夜は静か）
○**利便性が良い**（学校・市役所・お店・銀行・公園などが近い、子どもが遊べる大きな公園がある）
○**除雪が早くて、きれい**（道路の除雪が早くきれいにしてもらえるようになった）
○**住民同士の交流がある・地域行事が盛ん**（清掃活動に協力的である、住民同士の挨拶や声掛けがある）
○**安全・地域防災の取組がある**（水害の心配がない、自主防災の取組を進めている、ハザードマップがある）

課　　題

○**地域の担い手が不足している**（役のなり手がいない、青年会の参加が少ないためアピールが必要、子どもが減って育成会の維持が困難）
○**空き家や空き地の管理の問題がある**（空き家・空き地が多い、空き家の雑草が気になる、通学路に危険な空き家がある、空き家に動物が棲みつき衛生の問題がある、空き地が放置されている）
○**住民同士の交流する機会が少ない、減ってきている**（地域活動の認知や関心・関わりが低い、価値観が多様化している、若者世代とのつながりがない、高齢者の地域行事への参加も低い）
○**除雪や排水の問題がある**（交差点や通学路など歩道の除雪を進めて欲しい、流雪溝の用水路はトラブルに発展しやすい）
○**道路や公園の維持管理が大変である**（雑草で景観が悪くなっている、弥生公園は広くて草取りが大変）
○**移動がしづらい**（バスの減便になり高齢者にとって都合が悪い、タクシーが少ない）
○**安全に通行できない**（横断歩道や街灯がない、車の危険な運転をしている人がいる）
○**防災活動が不十分**（近くに公園がないため倉庫がない、自主防災活動がない）
○**その他**（ゴミステーションが設置できない、地区の歴史に関心のある人が少ない、若者が帰って来れる、定着できる魅力的な仕事が必要）

地域で優先的に取り組むテーマの選定（第２回目）

※地区の「魅力」から１つ、「課題」から２つのテーマを選定

取組のテーマ	選択数
自然が豊富・良い	18
子育て環境が良い	10
生活環境が良い	9
利便性が良い	8
除雪が早くて、きれい	7
住民同士の交流がある・地域行事が盛ん	6
安全・地域防災の取組がある	1

◆自分たちで出来ることは何か？

＜自然を活用した交流機会づくり＞
・イトヨを発信する（年間パスポート、イトヨの会）。
・四季の花をプランターから育て、町内清掃を定期的に行う。
・耕作放棄地や空き地を活用したフジバカマと蝶が見える景色づくり。
・木瓜川を活かした水遊び・舟流し競争・ダックレース・魚のつかみ取り。
・地下水を酒づくりやまちづくりに活用する。
・雪像づくりや雪まつりの実施。
・星と月の観察会の実施。
・有終南小学校や公園を活用したキャンプ、グラウンドでの炊事の実施。
・有終南小学校の芝生を活用した青空ヨガやコンサート、盆おどりの実施。
・山菜や野菜を交換または販売したコミュニティの場所を作る。

取組のテーマ	選択数
地域の担い手が不足している	17
空き家や空き地の管理の問題がある	14
住民同士の交流する機会が少ない、減ってきている	11
除雪や排水の問題がある	7
道路や公園の維持管理が大変である	5
移動がしづらい	5
その他	1
安全に通行できない	0
防災活動が不十分	0

◆自分たちで出来ることは何か？

＜交流会などの場づくり＞
・子どもの好きなものをリサーチ、小さい子どもをターゲットにする。
・子どもが行きたいイベントの実施（子ども向けのビンゴゲーム、昔の子どもの遊び、ハレの日）。
・親同士の交流を増やす。
・若い人などの意見を出せる場が必要。
・キッチンカーなど今どきの催しをする。

＜担い手づくり（青年会）＞
・誰が何の担い手になっているか現状を整理する。
・出身者で青年会を立ち上げるのはありだと思う（おためし青年会）。
・よその地区合同での青年会。
・地区のルールを戻してみる。

◆自分たちで出来ることは何か？

＜地域での空き家活用のアイデア＞
・地域の倉庫、ごみ置き場、コミュニケーションの場にできる。

＜地域で取り組めそうなこと＞
・市を通じて空き家所有者に空き家の状況を伝えられるといい。
・空き家の情報管理を行う。使える空き家の情報がないので、情報を掴めるようにする。

＜地域で取り組むのが難しいこと＞
・空き家の所有者把握。所有者不明の場合がある。
・地権者との交渉。
・空き家・空き地の管理は、自治会では難しい。
・空き家の家財の片付け、建て壊し。

令和７（2025）年度　町内会の年間行事スケジュール

町内会・地区の行事

行政区名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第１地区全体			一分団運動会	体育協会がしっかりとしている。大事にしたい取り組み。			一分団運動会 有終南小学校　南っ子イルミネーション（実行委員会）			昨年から若い人を入れた実行委員をつくった。場所が学校で良かった（児童や保護者が関われる）。		
春日１丁目中区		春日神社みこし				レクリエーション フェスティバル					町法事	
春日１丁目下区											町法事	
春日２丁目東区		春日神社みこし		ふくべ子ども会 おはようマラソン ラジオ体操	夏祭り		町内レクリエーション 地区運動会 防災訓練				町法事 新年拝賀式	
春日２丁目西区		子どもみこし		ラジオ体操	お楽しみ会（夏祭り）							
春日３丁目上区		春日神社みこし 町内レクリエーション(1年おき)		公園清掃・社会奉仕	夏祭り					総会	町法事	
国時町				社会奉仕	３町合同レクリエーション・ＢＢＱ（ムラサキ組）						左義長	
若杉町	花いっぱい運動		公園・河川清掃				町内レクリエーション 防災訓練	公園・河川清掃		どんど焼き	町法事	
上篠座１区				ラジオ体操（育成会）								
上篠座２区	篠座神社まつり 子どもみこし	春日神社みこし		ラジオ体操	夏まつり（和光園・大野荘）							

対象は子どもからシニアまでで、大野近隣の温泉巡りなどバスを借りてお出かけ。

青年会や壮年会を中心に幅広い年代が集まり、若い人同士のつながりができている。新型コロナウイルス感染症の流行が落ち着いてから実施している。世帯数が少ないため、合同で実施しやすい。

秋吉の出張を行った。若い人の参加が増えた防災訓練を工夫して子どもが楽しめるイベントにすると若いお父さん、お母さんも参加してくれる（キッチンカーを呼ぶなど）。

担い手との交流・近隣町内との連携、取組の実現に向けて

○フジバカマ・フクジュソウのプロジェクトは、今後進めていきたい。
○炊き出し訓練は、口コミでたくさんの人が来てくれた。行政とタイアップして備蓄の食料で鍋をつくった。行政と日赤と食生活の改善を連携する。地区でもできるのではないか。
○各町内で若い人を出すのは難しい。第１地区としてできると良い。
○若い人が若い人に声を掛ける。体育協会や青年会を土台に体制づくりを行う。
○スポーツレクリエーションは、若い人も含め世代を越えて交流できる。
○キッチンカーなど子どもが楽しめるイベントにすると、若い世代の親は来てくれるのではないか。

②第２地区

地区の魅力・課題の共有（第１回目）

魅　　力

○**災害に強い**（水害の心配があまりない、100 年に一度の雨でも大丈夫）
○**自然が豊か**（夜空がきれい、本願清水がありイトヨが生息している、昔はホタルがいっぱいいた）
○**利便性が良い**（市の中心地であり公共施設やお店が近い、急患センターが近く高齢者にやさしい）
○**住民同士の交流がある、地域行事が盛ん**（近所の声かけがあって安心、距離が近い、地域活動が活発、除雪は地域で助け合っている）
○**地区のシンボルがある**（篠座神社を中心とした一体感がある）
○**公園がある**（公園の四季の花がきれい、近くに競技場や大きい公園がある）
○**その他**（子どもの数が一定数いる、除雪が割と円滑）

課　　題

○**少子高齢化の問題がある**（核家族世帯が多い、高齢者が増えて町内に子どもが少ない）
○**除雪や排水の問題がある**（除雪や排雪の場所の問題がある、高齢者の雪かき・雪下ろしの問題がある）
○**地域の担い手が不足している**（高齢化により徐々にできない人が増えている、町内の神社の運営が困難）
○**空き家や空き地の管理の問題がある**（空き家が多い、空き地の雑草がひどい、法定相続人がいないので今後が不安、通学路の空き家や壊れかけの空き家が危ない、壊すのに値段が高く固定資産税も上がる）
○**住民同士の交流する機会が少ない、減ってきている**（近所のつながりがない、アパートに誰が住んでるか分からない、人が集まるイベントが少ない、世代間交流をもっとやっていく）
○**情報共有が未整備**（情報交換や連絡ツールが未整備、ＩＴ化が遅れている、防災・防犯のＩＴ化が必要）
○**道路や公園の維持管理が大変である**（公園の老木が危険、公園の樹木剪定が必要、公園のフェンスが破損している、落葉樹の問題がある）
○**移動がしづらい**（バス・タクシーが利用しにくい、夜にタクシーがない、高齢者の急病時の移動手段が少ない、今は車で移動できるが 10 年後や 20 年後が不安）
○**医療施設がない**（病院が少ない、総合病院が欲しい）
○**その他**（新しく家を建てる場所がない、水路にゴミがあり流れ悪い、働く場所が少ない、魅力が乏しい）

地域で優先的に取り組むテーマの選定（第２回目）

※地区の「魅力」から１つ、「課題」から２つのテーマを選定

取組のテーマ	選択数
災害に強い	11
自然が豊か	11
利便性が良い	11
住民同士の交流がある、地域行事が盛ん	9
地区のシンボルがある	4
公園がある	2
その他	0

※「自然が豊か」「利便性が良い」と同数だが、他地区との違いがある「災害が強い」に選定

◆自分たちで出来ることは何か？

・災害が少ないゆえに安心という意識があるため、意識づけが必要。
・一緒にやってくれる風土が必要。
・家庭用消防設備の点検の声かけが必要。キーマンや頼れる人を探す。
・どこに避難するかを決める。避難所を決めている町内もある。
・障がい者がどこに逃げるのか把握しておく必要がある。
・町内に防災倉庫がないところの方が多い。市からの補助金や情報提供が必要。集会所を使えると良い。
・住居の耐震化が必要。
・体育館にエアコンが必要。

取組のテーマ	選択数
少子高齢化の問題がある	17
除雪や排水の問題がある	12
地域の担い手が不足している	11
空き家や空き地の管理の問題がある	9
住民同士の交流する機会が少ない、減ってきている	3
情報共有が未整備	2
道路や公園の維持管理が大変である	1
移動がしづらい	1
医療施設がない	1
その他	0

◆自分たちで出来ることは何か？

・若者にはデジタルツールが効果的ではないか。
・若者がいかに帰ってきてもらえるかが重要。そのためには、子どもの時からの楽しい経験が必要（親子でのイベント参加、BBQ・キャンプ）。
・町内会での声掛けなど、長生会に入る機会が必要。参加しない人にどう呼びかけるかが課題。
・周知はデジタルだけではなく、紙での案内も必要。

◆自分たちで出来ることは何か？

＜若い世代の活躍促進＞
・集会所で屋根雪下ろしの訓練をしてはどうか。若い人に参加してもらう。雪かき以外の出役も若い人に出てもらうルールにする。
・自分がやらないと子どもが屋根雪を下ろす。
・各家庭にそれぞれの事情があるので、配慮しないといけない。
・地域の輪（つながり）を強くすることが大事。

＜排雪・流雪の改善＞
・流雪溝の土砂浚渫整備をする必要がある。
・排水溝の水をバランスよく流してほしい。東西方向が流れていない。
・水量を確保するためには水利問題の解決に取り組む必要がある。
・水を多く流せない、端末の処理が上手くいっていない。

町内会・地区の行事

令和７（2025）年度　町内会の年間行事スケジュール

行政区名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第２地区全体			スポーツ大会 親善スポーツ大会（2 分団・10 町内）			球技大会 彼岸祭り	親善ソフトバレー大会（2 分団・10 町内）					
篠座神社									もちまき(12/31)			
高砂１区	みこし				ラジオ体操 夏祭り		防災訓練				総会	
高砂２区	熊野神社祭礼					納涼会					総会	
高砂３区	草刈		側溝の清掃	草刈	BBQ						総会	
高砂５区	草刈（神社）		草刈（神社）				防災訓練					総会
春日野	桜サロン 篠座神社：春の祭礼後の清掃 みこし 公園の清掃	篠座神社の清掃 こいのぼり	公園の清掃	ラジオ体操 公園の清掃	BBQ	防災訓練 公園の清掃		サロン	公園冬仕度	どんど焼き 出初式 （新年会は昔は実施していた）	総会	
	見守り活動（通年）											
糸魚町	みこし （子ども会）				夏祭り （第１日曜日）	イトヨサロン						
	キッチンカー（不定期）											
天神町	花見会 モルックス大会 （長生会）				納涼祭（みこし）		クリーンアップ （清掃）	そば会 親善球技大会		新年会	総会	
					ラジオ体操							
	エコ活動（有志で資源活動を実施：偶数月）											
新庄	地区清掃			地区清掃								地区清掃

参加しない町内もある。若い人に声をかけるが参加してもらえない。子どもの競技を組み込んでいる。

子ども向けのビンゴ大会も実施している。若い人が出てくれるイベントにしたい。各町内では少ないので、集まって考えるべき。なるべく段取りや片付けの負担を小さくする。高砂地区全体でやるなら熊野神社でできるのではないか。

消火栓の点検も実施している。

大人のみこしを子どもが付いて歩いている。3～5 区はなくなっている。

町内ごとに防災訓練を実施しており、参加率は良好だが、若い人の参加率が低い。世代交代が進んでいない。キッチンカーを呼んではどうか。

秋吉を呼んでいる。以前は真夏に実施していたが話し合って９月にずらした。

青壮年会は、45 歳までの青年と 65 歳までの壮年の男女で構成され、20～30 年前からある。30 歳代の子育て世代などの参加は少ない。

地区清掃の参加率は約９割で、１世帯から２～３名出席してもらっている（市の補助あり）。

昔は９月に秋祭り（みこし）をしていた（八幡神社）。復活しても良いのではないか。

担い手との交流・近隣町内との連携、取組の実現に向けて

○長続きするための秘訣は、軸（方針）をしっかりと持つこと、キーマンは区長であり、いかに協力できる雰囲気をつくるかである。
○課題が多く、合併も視野に入れる。コロナ後の減退を盛り返すエネルギーが必要。改革したことを必ず実施する。
○分かりやすい回覧・広報を発行する（毎月）。少しでも情報が伝わるように子どもの顔を載せ、行事ごとにレポートや広報誌を配布する。
○令和７年度に、篠座神社での住民の交流イベント（９月）、有終南小学校の芝生を活用した第１地区・第２地区合同の防災キャンプを実施したい。

③第３地区

地区の魅力・課題の共有（第１回目）

魅　　力

○**生活環境が良い**（全体的にまちがきれい、大きな事故や事件がなく安心安全な町、教育施設が多く静かで過ごしやすい、公園に子どもが多く遊んでいる、高齢者が集まる喫茶店がある）
○**利便性が良い**（鉄道駅が近く徒歩圏内、学校や文化会館が近い、買い物ができる場所が多い、おいしいお店や飲食店が多い）
○**自然が豊か**（豊かな自然、木瓜川にホタルが生息している、地下水がおいしい、米や酒がおいしい）
○**住民同士の交流がある・地域行事が盛ん**（近所・町内のつながりは良い、除雪は協力している、町内行事が充実している）

課　　題

○**若者の流出や高齢化の問題がある**（町内で世代間の隔たりが大きい、同じ世代の住民が高齢化、独居高齢世帯や高齢者夫婦世帯が多い、子どもがいない）
○**除雪や排水の問題がある**（雪溜めの場所が少ない、流雪溝の水が流れない）
○**住民同士の交流する機会が少ない、減ってきている**（隣接する町と交流がない、若い世代の参加や交流が少ない、行事を計画しても参加者が少なく中止になる）
○**賑わいが減ってきている**（昔のにぎわいない、子どもの数が年々少なくなっている）
○**移動がしづらい**（鉄道・バスの便数が激減して利用しにくいため（運転免許証は）返せない、鉄道の運行本数を増やし駅員も常駐して欲しい）
○**道路や公園の維持管理が大変である**（公園は世帯数の減少や高齢化により管理できる人が少ない、公園利用がなくなっている）
○**河川の維持管理や改修が必要**（木瓜川の草刈りは地区だけでは難しい、大規模改修が必要）
○**空き家や空き地の管理の問題がある**（空き家が多い、空き地の雑草の問題がある、空き家の解体が必要）
○**交通の安全性の問題や危険な場所がある**（文化会館前の横断歩道が危ない、踏切の遮断機がない）
○**公共施設の利用の問題がある**（気楽に使える公共施設がない、避難所の収容人数が不安）
○**防災上の不安がある**（避難場所が離れている）
○**その他**（個人の医院が多く市外の通院が中心、働く場所を増やして欲しい、駅前開発を進めるべき）

地域で優先的に取り組むテーマの選定（第２回目）

※地区の「魅力」から１つ、「課題」から２つのテーマを選定

取組のテーマ	選択数
生活環境が良い	17
利便性が良い	12
自然が豊か	10
住民同士の交流がある・地域行事が盛ん	7

◆自分たちで出来ることは何か？

<公園や集会所の維持管理>
・第３地区全体で芝刈り機を買う。
・３町合同で公園の美化活動を実施する。
・公園の掃除が負担であるため、人工芝や天然芝（防草シート）にする。
・公園のきれいな所と、汚い所の差が激しい。土を入れ替える。
・毎月集会所の掃除をする。

<交通安全>
・危ない道はグリーンロードをつくって交通安全に取り組む。
・雪が積もった時の歩道を除雪して通れるようにする。除雪機械が必要。
・道路を時間帯によって一方通行にする。

取組のテーマ	選択数
若者の流出や高齢化の問題がある	12
除雪や排水の問題がある	12
住民同士の交流する機会が少ない、減ってきている	9
賑わいが減ってきている	5
移動がしづらい	5
道路や公園の維持管理が大変である	4
河川の維持管理や改修が必要	3
空き家や空き地の管理の問題がある	3
交通の安全性の問題や危険な場所がある	1
公共施設の利用の問題がある	1
その他	1
防災上の不安がある	0

◆自分たちで出来ることは何か？

<若者世代>
・夏まつりは大野から出た人も参加可能。大野から出た人と何かやってみる価値はある。
・若いリーダーが育っていない。若い人に火をつける人が必要。お金渡して好きにやってもらう。
・アパート住民を取り込んでいく。

<高齢者>
・人を乗せて移動するライドシェアが出来ると良い。
・高齢者が集まる喫茶店がある。コーヒーチケットがあると利用しやすい。
・一人暮らしの高齢者を集めて意見交換を検討したが、普段から交流してないため難しい。
・デジタル化しすぎると、高齢者を把握できない。

<住民同士の助け合い>
・時間がある人や特技がある人を登録して、若者と高齢者同士で助け合えると良い。登録する際には手を挙げる機会があると良い。

◆自分たちで出来ることは何か？

<地域での除雪や排水>
・水の流量の調整、雪を流す時間帯の調整が必要。
・融雪のためのメーターを上手に使う。
・地域で除雪機を買う。除雪機を扱う人が足りない。
・高齢化の進み方が違う、町内会の枠を越えて助け合いを考える必要がある。

<地域の担い手づくり>
・壮年会と青年会を合併している。
・壮年層・青年層はいるが地域の活動に協力が得られない。
・町内会をなくすくらいのショックが必要。
・全世代みんなが協力し合って、役割分担して、特定の人たちの負担が大きくならないようにする。

令和７（2025）年度　町内会の年間行事スケジュール

町内会・地区の行事

行政区名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第３地区全体						運動会（有終東小学校）						
幸町	公園花苗	子どもみこし	作業奉仕	夏祭り 公園の清掃	ラジオ体操	公園の清掃			もちつき大会	新年会 町法事	お焚き上げ	総会
有明町		子どもみこし	河川の清掃	草刈	サマーフェスタ（8月末）	草刈				新年会	どんど焼き（駅東公園）	総会
美里町			ゴミステーション（青年会）	ラジオ体操（育成会・長生会）	夏祭り・夕涼み会						どんど焼き（美里公園）	総会
	長生会サロン（年 10 回）											
美川町２区					ラジオ体操						町法事	
弥生２区	公園の草刈掃除	子どもみこし 公園の草刈掃除	公園の草刈掃除	公園の草刈掃除	ラジオ体操 BBQ 公園の草刈掃除	公園の草刈掃除				総会 新年会		
月美町	新役員会	山王神社祭礼	清掃奉仕	ラジオ体操		かがやきの会レクリエーション（青年会・壮年会）		役員会		新年会 左義長祭り	町法事	総会
吉野町		祭りのみこし		ラジオ体操	夏祭り					新年会		

・左義長祭りの代わりに３年前から女性有志で始まった。ミニゲームなどがあり親子連れで参加している。すみれサークル、青年会・壮年会で 120 名くらい参加。
・すみれサークルは 20 数名で上手く組織されており、女性のリーダーがいる。他の行事をサポートしている。次の世代をどう入れるのかが課題。

子ども中心に青年会・壮年会が段取りしている。

育成会と女性部会で、ヨーヨー釣り、ビンゴ大会を実施している。

合同でできると良い。駅東公園なら十分な広さがあるのではないか。まずは一緒にできることから行う。あまり大がかりな事を提案すると受け入れてもらいにくい。

花火あり、子どもが参加している（小学生未満 2 名、小学生 2 名、中学生 1 名）。

弥生２区には任意の女性の会（7～8名）があり、年に１回、県外旅行を実施している。すみれサークルも参加している。

老人会の参加者数が減少、雪の影響を避けるために秋にしている地区もある。

育成会中心に実施している。高齢者も参加している。

出身者も参加可能。

40 人参加のうち、現役世代は 10 名参加している。

担い手との交流・近隣町内との連携、取組の実現に向けて

○育成会や青年会の奥様の交流ができると良いが、奥様・女性は外に出やすいのか？女性が参加しやすいように家庭や地域のサポート・環境づくりが必要。
○地区別座談会に女性も参加してもらう。地区外から女性を派遣する団体はないのか。
○若い人が声を出せる場がない。ニーズを拾うことが大切だが、中学生以上全住民アンケートの回答率が低い行政区もあるなど、そもそも地域に興味のない人も多いのではないか。
○吉野町・清和町・美里町はなじみがある。清和町と月美町も関連性がある。
○奉仕作業の出席者には粗品を出している。夕方に作業してその後、BBQ をしてはどうか。
○みこしは若い人中心で実施している。他のイベントもやってもらえると良いが、子どもがいる世代は忙しい。また、月美町では 50 周年のイベントを実施したが毎年は続けられない。やり方が分かっている・マニュアル化されているなど、ずっと続けられるような企画にする。

④第４地区

地区の魅力・課題の共有（第１回目）

魅　　力

○**歴史がある**（碁盤の目の町並みや城下町がある、寺町通りがある、旧美濃街道など歴史的な場所がある）
○**自然が豊か**（豊かな大自然がある、素晴らしい、地下から湧き出る名水がある）
○**人柄が良い**（穏やかな人が多い）
○**景観が良い**（結ステーションの時計台からのお城の景観が良い）
○**生活環境が良い**（昼夜通して静か）
○**観光地や資源がある**（観光地がたくさんある、良縁の樹がある）
○**子育て環境が良い**（学校で子どものサポートをしっかりとしてもらえる、子どもが勉強できる場所が多い）
○**住民同士の交流がある、 コミュニケーションが活発**（昔から住んでいる住民が多くつながりがある）

課　　題

○**子どもや若い人が減っている高齢者の問題がある**（活気がない、子どもの行事ができない、独居高齢者の対策が必要）
○**駅のにぎわいがない**（駅前が寂しい、お店がない、ＪＲの利用者が少なくなっている）
○**地域の担い手が不足している**（町内の役員のなり手が少ない、町内のコミュニケーションが取れない）
○**空き家や空き地の管理の問題がある、危険な空き家がある**（老朽空き家の壁が道路に落ちてきて不安、大雪時の対策が必要、地主が遠方にいて連絡が取れない）
○**情報発信・ＰＲが不十分**（観光は勝山止まりで大野まで来ない、アピールが不十分）
○**住民同士の交流する機会が少ない､減ってきている**（住人や若い人と話す機会があまりない）
○**除雪や排雪、排水の問題がある**（高齢者のみの家庭の除雪が問題、自宅前の用水路の改修が必要）
○**移動がしづらい**（タクシー・電車・バスの本数が少ない、車がないとどこにも行けない）
○**災害時に不安がある**（防災対策をしっかりとして欲しい、家の耐震が心配、補助が必要）
○**交流や情報共有が難しい**（現役世代とまちづくりの交流ができずコミュニケーションが難しい）
○**その他**（夜は通りが暗い、街灯が必要、新しく施設をつくるより既存施設のメンテナンスが大事、総合病院がない、若者の仕事場が少ない）

地域で優先的に取り組むテーマの選定（第２回目）

※地区の「魅力」から１つ、「課題」から２つのテーマを選定

取組のテーマ	選択数
歴史がある	12
自然が豊か	10
人柄が良い	9
景観が良い	5
生活環境が良い	3
利便性が良い	2
観光地や資源がある	1
子育て環境が良い	1
住民同士の交流がある、コミュニケーションが活発	1

◆自分たちで出来ることは何か？

・天空の城の霧の予報や確率が分かるようにする。
・大野城に泊まれるようにする。
・大野城までの高齢者のアクセスを改善する。トロッコや別のルートも検討する。
・星空をメインとするなど核となるテーマをみんなで取り組む。
・平家平など地元の穴場スポットを紹介する。
・ＰＲ不足している。イベントと一緒に行ったり、本やパンフレットをつくったりする。

取組のテーマ	選択数
子どもや若い人が減っている高齢者の問題がある	12
駅のにぎわいがない	9
地域の担い手が不足している	7
空き家や空き地の管理の問題がある、危険な空き家がある	5
情報発信・ＰＲが不十分	4
住民同士の交流する機会が少ない、減ってきている	3
除雪や排雪、排水の問題がある	3
移動がしづらい	3
災害時に不安がある	1
交流や情報共有が難しい	0
その他	0

◆自分たちで出来ることは何か？

・子どもの頃から担い手意識を持たせることが大切（勝山市の左義長まつりなど）。
・若い人に大野での暮らしやすさをインスタ動画でアピールする。
・若い人が住むにも下水道や総合病院などのインフラや施設整備が大切。
・若い人が帰ってくれば、文化的な祭りも盛り上がる。

◆自分たちで出来ることは何か？

・自転車を列車に乗せられると良い（ふくチャリ）。ツアーを企画したらどうか。
・イベント列車の運行。
・イルミネーションを駅前まで延伸する。
・まちかどに案内看板や駅に案内する人がいると良い。
・駅前ビルを活用すべき。
・駅前におにぎりなどのキッチンカーを置く。

町内会・地区の行事

令和７（2025）年度　町内会の年間行事スケジュール

行政区名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第４地区全体												
日吉町１区					盆踊り（横町）		BBQ		もちつき	新年会		
日吉町２区			町内会の食事会							新年会		総会
日吉町３区				BBQ						町法事		
日吉町４区	役員会			草刈 BBQ			役員会	役員会			総会・町法事・新年会	
日吉町５区					防災訓練（8月か11月）			防災訓練（8月か11月）				総会
日吉町６区		日吉神社祭礼・みこし	河川の清掃				防災訓練 BBQ			町法事 新年会		
明倫２区			明友会 花見の会					明友会 忘年会		総会		
明倫３区			BBQ（中区）								BBQ 町法事 総会	
明倫５区											町法事	

ラジオ体操（４月～12月）

ラジオ体操

ラジオ体操

卓球教室（週１回）

他の町内からも来ている。

大学生が中心でウェルカムな雰囲気がある。広く周知して参加してもらうために、行事を書く掲示板があると良い。

お寺を会場に１区全体で実施している。

女性中心で実施している。

今年から１班は５世帯になる。そろそろの班の統合をしたら良いのでは。

・来年も赤ちゃんから高齢者まで幅広く実施したい。子ども対象の抽選会を開催した。テント張りなどの段取り・片付けが大変だったが頑張った。子どもの感想をメッセージにして親に頑張ってもらってはどうか。大人を連れてきた子どもにお土産を渡すなど多世代を集める。
・区長一人に任せず、みんなで苦労も楽しみも分け合って取り組まないと続かない。

高齢者が対象である。

４区・５区・６区と合同の実施や、子どもと親が参加できれば良いのではないか。午前で終わるので午後の予定を立てやすい。

若い人は出てこない。

３区・４区・５区と連携して実施。子どもと親が参加している。

担い手との交流・近隣町内との連携、取組の実現に向けて

○みこしがなくなった行政区があり、合同で一箇所で実施してはどうか。
○年齢に関係なく参加できるビッグイベントを実施する。講師やゲストを呼ぶ。大きいと来るのが大変。
○人と人との交流が生まれると別のイベントが生まれるのではないか。
○同じ行政区の中でも会計が異なる（明倫３区の上・中・下など）。
○第４地区の中で明倫は人口が少なく、子どももいない。
○金沢からの６名の移住者があった。
○高齢者対象のサロンは頭になってくれる人が欲しい。
○五番商店街の若い人は福井市に行ってしまう。
○Popolo.5（ポポロファイブ）では様々なイベントを実施しているが、町内と連携が取れているわけではない。インスタで発信しているが、地域には開催間際にお知らせがくる。

⑤第５地区

地区の魅力・課題の共有（第１回目）

魅　　力

○**風景が良い**（亀山の眺め、雪景色がきれい、古い家並みが美しい、空がきれい、四方の山に四季を感じる）
○**水や作物がおいしい**（お清水の湧き水や豊富な地下水がある、水・野菜・果物がおいしい）
○**亀山は地区の宝となっている、沢山の資源がある**（観光資源であり地区の宝、お地蔵さん（文化財）・桜・城・亀山湯がある、海外や大野市外から遊びに来る人がいる、地元の健康増進や運動できる場所になっている）
○**生活環境が良い**（閑静、治安がいい、静かで住みやすい、住民同士が協力する心がある）
○**賑わいがある**（観光施設が多い、県内外からの観光客が多く素晴らしい）
○**利便性が良い**（施設が近く歩いて行ける）
○**その他**（映画のロケ地、実直な人が多い）

課　　題

○**少子高齢化の問題がある**（高齢者の１人暮らしが多い、人口減少、少子高齢化が進行している）
○**空き家や空き地が増えている**（美化環境に悪影響、空き家の倒壊が危険、高齢者の１人暮らしが多くて今後空き家が増える）
○**地域の担い手が不足している**（役員のなり手不足や活動費の問題がある、地域活動への参加者が固定化、若い世代や女性の参加が少ない）
○**除雪や排水の問題がある**（水の流れが悪く流雪溝から道路に溢れて困る、浚渫が必要）
○**水害の危険がある**（新堀川は水害の危険性がある、自主防災組織が機能していない）
○**移動がしづらい**（買い物をするのに不便な高齢者がいる、ライドシェアや白タクの検討が必要）
○**交通の安全性の問題がある**（道路の停止線が消えていて危険、スピードの抑制が必要）
○**インフラ整備が必要**（下水整備ができていない、地下水がいつまで安心して使えるのか）
○**住民同士の交流する機会が少ない､減ってきている**（住民同士の交流が少ない、区ごとにやり方が異なる）
○**観光がしづらい**（亀山に来た方が市の中心へ行くことができない、観光客などまとまった人数で飲食する場所がない）
○**その他**（町内に店がなくなった、子どもが楽しめる遊具がたくさんある公園があると良い､働く場所がない）

地域で優先的に取り組むテーマの選定（第２回目）

※地区の「魅力」から１つ、「課題」から２つのテーマを選定

取組のテーマ	選択数
風景が良い	11
水や作物がおいしい	10
亀山は地区の宝となっている、沢山の資源がある	9
生活環境が良い	8
賑わいがある	1
利便性が良い	1
その他	0

◆自分たちで出来ることは何か？

・新堀川はゴミや藻があり見栄えが悪い。社会奉仕で取り組む必要がある。
・川やまちの掃除はすぐにできる取り組みである。
・看板の設置など昔の町名を残す。
・築 100 年の古民家や廃校を活用して宿泊施設にする。
・天空の城が見れたら宿泊施設無料にする。
・亀山周辺の道の由来が分かると良い。
・観光客に分かりやすい看板や表示が必要。利用しやすい・使いやすい環境を整備する必要がある。
・地域だけでは手が届いてない。お金が足りないため資金集めが必要。
・売店・自販機・キッチンカーなど観光客にお金を落としてもらうための仕組みづくりが必要。

取組のテーマ	選択数
少子高齢化の問題がある	9
空き家や空き地が増えている	9
地域の担い手が不足している	6
除雪や排水の問題がある	6
水害の危険がある	5
移動がしづらい	3
交通の安全性の問題がある	1
インフラ整備が必要	1
住民同士の交流する機会が少ない、減ってきている	0
観光がしづらい	0
その他	0

◆自分たちで出来ることは何か？

・行事で若い人を集める。参加したらお土産やポイントをつけるなどして活性化させる。
・隣の町内と一緒に行事を行う。
・女性の会や女性のネットワークをつくる。女性が活躍できるようにする。
・コミュニケーションの場に空き家を活用する。
・外出しにくいシニアの声を聞き取りに行く（シニアの声を聞き取る活動、井戸端会議をする）。

◆自分たちで出来ることは何か？

・地域で危ない空き家は市に伝えている。
・地域で連絡が取れる所有者とはやり取りをしている。
・地域で空き地の草刈りをしている。
・所有者と交渉して空き地を雪置き場（２箇所）にしている。その代わりに草刈りなどの維持管理は、社会奉仕活動の際に地域でやっている。
・観光地であるため、空き地・空き家、ごみなど見栄えが悪くならないように地域で意識している。
・空き家は個人所有であるため、地域からは所有者に言いづらい。所有者の意向が分からない、どこに相談していいか分からない問題がある。
・所有者不明の場合は対応が困難となるため、相談先を情報発信する必要がある。空き家・空き地になる前に地域で声かけを行う。
・いざという時の連絡体制を地域でつくる。

令和７（2025）年度　町内会の年間行事スケジュール

町内会・地区の行事

行政区名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第５地区全体		これまで５回くらい開催。若者が結構来てくれている（子どもとその親）。大人はワンコインで参加できる。										
泉町１区	古紙回収	BBQ・懇親会 清瀧神社祭り みこし 社会奉仕	１区と３区が一緒におみこしをしている。	レクリエーション ラジオ体操 （夏休み：育成会）	古紙回収		社会奉仕		古紙回収		安全祈願祭・懇親会	総会
	お清水の清掃（通年：毎週日曜日）					地区外に住んでいる子どもも参加可能。小中学生になると子どもも忙しくなり参加しなくなる。						
泉町２区		子どもみこし 公園清掃 新堀川清掃	新堀川清掃	公園清掃	納涼会・子ども祭り（育成会） 新堀川清掃		公園清掃 新堀川清掃					
城町２区	定期総会	春季祭礼・子どもみこし（育成会）	社会奉仕	お楽しみ会・BBQ		亀山観音祭礼	社会奉仕			新年会・鎮火祭		
	子どもが沢山くる。			昔は育成会が主体だったが、今は町内の行事になっている。		町内や関係者だけの参加になっている。						
城町３区	子どもがおらず、みこしは処分している。		社会奉仕		夕涼み会 （亀山集会所）		地域の交流の場になっている。ゲームを実施しており、子どもも参加している。					
水落２区		祭り			BBQ				雪囲い	新年会	町法事 火伏	
				ラジオ体操 （長生会）		子どもの参加は１人くらい。			雪落とし			

担い手との交流・近隣町内との連携、取組の実現に向けて

○若い世代はゴールデンウイークと８月（夏季休暇）以外は仕事などで手いっぱいであり、これ以上に行事を増やすのは難しい。
○お盆の里帰りに合わせてのイベントの実施は難しい。8/13：城まつり（花火・山車・櫓など）あり。
○子どもたちも、地域活動よりもスポーツ少年団などの活動が優先になる。
○とんちゃんまつりは良かったが、イベントが長続きしない。
○コロナ禍で育成会の活動が低調になってしまった。
○コロナ後に花見の会などやらなくなった行事がある。
○亀山公園の道路沿いの桜がきれい、高齢者には坂が大変。
○最近は市役所周辺でのイベントが増えてきたが、亀山周辺でイベントを実施して欲しい。
○地域行事やイベントに来る人が固定化されている。交通安全協会に呼びかけてイベントを実施したが参加者が少ない。
○高齢者の集まりなど地域サロンの参加者を増やしたい。

⑥第６地区

地区の魅力・課題の共有（第１回目）

魅　　力

○**城下町の町並みがある**（城下町の碁盤の目の道路がある、静かで落ち着いた・背割水路のある町並みがある）
・静かで落ち着いた町並みがある。）
○**住民同士のつながりがある**（町内行事の参加者や協力者が多い、小さい地区なので全員の顔が分かって良い）
○**自然が豊か**（山や川などの自然が豊か、地下水・空気・酒・味噌が良い）
○**観光施設やイベントがある**（城下町の歴史がある、観光客がよく通る）
○**生活環境が良い**（夜は静か、災害が少ない）
○**利便性が良い**（店や鉄道駅が近い、コンパクトなまちにバス路線が通っている）
○**インフラや施設が整備されている**（三番・五番は流雪の設備が良い、石灯篭会館で行事が行いやすい）

課　　題

○**少子高齢化の問題がある・地域の担い手が不足している**（町内行事に壮年層やファミリー層の参加が低調、役員になる人が少ない、川掃除の作業が困難になってきている、若手の人手不足）
○**空き家や空き地が増えている**（空き地・空き家が多い、崩れて危険な空き家がある、空き家の整備が必要、地主が管理していない、空き地が多く排雪が困難）
○**除雪や排水の問題がある**（地区の高齢者の除雪の問題がある、流雪溝・背割水路の水が少ない）
○**住民同士の交流する機会が少ない、減ってきている**（町内の交流がない、コロナ以降は行事が少なくなり希薄になっている、活動団体同士の連携が途絶えた）
○**道路や交通の安全の問題がある**（道の劣化が多い、街灯が暗い、交通マナーが悪い）
○**移動がしづらい**（電車・バスの運行数が少ない、高齢者の免許返納後の移動支援が必要）
○**地域のにぎわいが必要**（商店街だけでは活性化は難しい、地域の事が地域だけでは解決できない）
○**水害の危険がある**（大雨や雪が降ると側溝が溢れる、赤根川のいつも氾濫する箇所を改修する、三番の水は溢れやすい）
○**その他**（再編への具体的取り組みが必要、近くに公園がなく、子どもを連れていけるところがない、七間朝市は活気がなくなった、市内に若者が働く場所が少ない、鳥害獣の問題がある）

地域で優先的に取り組むテーマの選定（第２回目）

※地区の「魅力」から１つ、「課題」から２つのテーマを選定

取組のテーマ	選択数
城下町の町並みがある	9
住民同士のつながりがある	6
自然が豊か	6
観光施設やイベントがある	4
生活環境が良い	4
利便性が良い	2
インフラや施設が整備されている	0

◆自分たちで出来ることは何か？

・まちあるきビデオ動画、インスタグラムで発信、ＡＲで歴史を見せる。
・商店街のお店で「ガイド 110 番」ののぼり・ステッカーがあると良い。
・常にガイドがいるとありがたい。困っていそうな人に声をかけてあげる。
・予約が必要な専門的な観光ガイドさんだけでなく、ちょっとしたことを気軽に聞ける仕組みが必要。
・よそから来る人への案内が至るところにあると良い。
・もう少しパンフレットを配置する。
・石灯篭の「謂われ書き」を小学生が書き写す学習をしている。文字だけでなく、絵でわかりやすくすると良い。
・碁盤の目を踏破するウォークラリーイベントがあると良い。
・お城が見えるのは良い。天空の城スポットもいくつかあるのでは。

取組のテーマ	選択数
少子高齢化の問題がある	12
地域の担い手が不足している	9
空き家や空き地が増えている	8
除雪や排水の問題がある	4
住民同士の交流する機会が少ない、減ってきている	1
道路や交通の安全の問題がある	1
移動がしづらい	1
地域のにぎわいが必要	0
水害の危険がある	0
その他	0

※近いテーマであるため合わせて意見交換を実施

◆自分たちで出来ることは何か？

・情報発信とやり方の工夫が必要。
・住んでみる機会、魅力を分かりやすく伝えることが必要。
・買い物サービス、白タクなどの気軽な移動手段が必要。
・バスルートはニーズに合った改善が必要。
・隣の地区に住んだ出身者は準会員にする。
・戻ってきたら家をプレゼント（岐阜県）。極端なことも必要。

◆自分たちで出来ることは何か？

・空き家所有者と連絡がつかないため、会費が入ってこない。
・住民がよく通る道路沿いの危険な物件は放置できない。
・壊すより捨てる方が費用が高い場合があってネックになっている。
・区長に財産管理人を教えてもらえない。
・安心できる不動産などの業者が分かるといい。
・区長が空き家の状況を把握している町内や地元で定期的に市に報告している町内もある。
・町内で空き家をベトナム国籍の方の寮、ゲストハウス、高齢者サロン（15年）に活用している事例がある。
・大野は雪の問題があるため、消雪などの環境づくりも必要。
・隣近所に買い取ってもらう。

町内会・地区の行事

令和７（2025）年度　町内会の年間行事スケジュール

行政区名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第６地区全体		山王公園の清掃（老人会）		山王公園の清掃（老人会）				山王公園の清掃（老人会）				
本町１上区	本町１上区と下区が一緒にやっている。	子どもみこし	石灯篭祭りとカッパ天国は商店街で一緒に実施している。お菓子まきもしている。奥越明成高校の学生がアルバイトをしている。		石灯篭祭り カッパ天国	若い人が増えてきた。世代間交流を図っている。子どもがいるとやりやすい。若者も高齢者も楽しんで来ている。チラシを作って配っている。					火伏の祈祷 町法事	
本町１下区		子どもみこし			カッパ天国					町法事 総会	火伏の祈祷 町法事	
本町２上区		子どもみこし BBQ			カッパ天国	ハロウィン・流しそうめん（育成会）		女性会の食事会			火伏の祈祷 総会	
本町２下区	本町２下区と要町が一緒にやっている。	清瀧神社祭礼・子どもみこし			カッパ天国							
本町３下区		日帰り旅行（女性）			カッパ天国					新年会（女性）		
本町４区	総会 廃品回収	子どもみこし		社会奉仕 廃品回収	カッパ天国 BBQ 大会				廃品回収	町法事		
本町５区					カッパ天国					町法事		
要町		子どもみこし			カッパ天国							
元町４区	花見			隣町からたくさん来る、育成会と合同で実施している。景品や記念品があると良い。終わった後にツアーをしてはどうか。	カッパ天国 BBQ 大会							
元町６区					カッパ天国						新年会 町法事	
大和町１区	山王公園の清掃（若者中心）		山王公園の清掃（若者中心）	ラジオ体操（近隣町内含む）	山王公園の清掃（若者中心） 地蔵盆	出身者が帰ってくる。	山王公園の清掃（若者中心）		若い人が来るようになった。夫婦で来る人が多い。女性が何人か参加していると参加しやすい。		新年会	
大和町２区					社会奉仕						町法事	

担い手との交流・近隣町内との連携取組の実現に向けて

○子どもみこしは地区外の子ども（外孫）も参加している。子どもは減っているが、小さい子どもが楽しめるイベントにするなど楽しく続けていくことが大切。チラシを３回配布するなどしつこく周知した。
○子どもみこしは若い人でやりたい。
○キッチンカー（東広場）は盛り上がるので、月１回のペースで実施してはどうか。イベントをするには一緒に盛り上がる機運が必要。クレームを言う人をどうするか。長続きできると良い。
○体協で犬山登山を実施したことがある。子どもから高齢者が集まり朝食も出る。
○子どもを真ん中にみんながつながろう。
○貸し切りバスで海水浴も楽しい。
○冬の雪対策もなんとかしたい。

5）成果と課題

【開催周知】

・館報や館報と同封した周知チラシの全戸配布、地区会長からの参加の呼びかけ、各回の実施報告、第 1 回目・第 2 回目参加者への案内文やワークシートの事前配布等により、全プログラムの参加者数は 469 名（累計）、各回の平均参加者数は 20 名～30 名であり、多くの方に参加いただくことができました。

・一方で、意見交換ではより多くの意見を聴取するため参加者数を一定確保することが必要であったため、地区会長や区長の方には多大なご協力をいただきましたが、人数確保の負担が大きいとの声もありました。また、担い手となる若者や女性が住んでいない、日頃からの付き合いがない行政区もあったため、特に若者や女性の参加が少ない状況ととなっていました。

【プログラム】

・各地区の特色、近隣行政区との関係性の把握、各地区の活動状況について共有することができました。特に、若い世代や現役世代が多い地区ほど、みこしやラジオ体操、夏祭り、防災訓練、スポーツ大会などの世代を越えた地域行事を実施していることが把握できました。

・一方で、青年会や婦人会などの各種団体の解散、地域行事が町内清掃などの社会奉仕だけになっている行政区がいくつか見られました。中には新型コロナウイルス感染症流行を契機に、地域行事がなくなり、その後も実施していないなど、地域コミュニティの衰退が深刻化している行政区もありました。

・地区座談会の回を追うごとに出席者のアンケートでは、「他の地区の方々と意見交換ができたことは有意義だった」「毎回顔合わせる事で話しやすくなり、深い意見が出るようになった」「若い人の参加があって良かった。若い人の考えを取り入れることが必要」「地域行事や各種団体、リーダーの作り方など大変参考になった」などの意見もあり、地区座談会の意義について共感いただいた参加者も一定数見られました。

【課題・今後の方向性】

・今回は大野地区全体を対象に地区座談会を実施しましたが、第 1 地区から第 6 地区それぞれに特性や実情が異なっており、また、同じ地区の中でも行政区によって活動への機運や体制に差があります。そのため、今後は今回の地区座談会の結果も参考としつつ、地区会長や区長を中心に地域主体で住民同士の話し合いの場やまちづくりの体制を整備していくことが必要です。その際、まちづくり活動への意欲が高い地区で先行的に取組を行い、目に見える結果を出すような進め方も考えられます。

＜参考資料１：地区座談会 資料＞

◆第１回目



第１回地区別座談会　当日資料

地区別座談会の趣旨・目的

大野地区地域課題解決検討会とは

大野地区の特性・課題

【特 性】
- 近世城下町を有し、古くから大野の中枢的な役割を担ってきた。
- 公共施設や鉄道、公園などの都市施設が集積し、利便性が高い。
- 6地区 74 行政区を有する大きな地区であり、地域の成り立ちや課題が異なる。
- UIJターンが増えている。

【課 題】
- 人口減少・少子高齢化による空き家や空き地の増加、防災・防犯、景観、まちの活力低下などへの影響がある。
- 担い手不足による地域活動の停滞。
- 住民同士のつながりの希薄化、地域への愛着や地域課題解決に対する当事者意識の低下。

対策を講じなければ、近い将来、住み慣れた地域での暮らしが困難になる恐れがあり、
地域課題の解決に向けて、地域住民の主体的な取組が必要

大野地区地域課題解決検討会の設立（R3）

◆目的：地域課題の把握、課題解決に向けた検討・取組の推進
◆役割：・地域課題解決に向けた取組の調査、研究、計画、実践
・関係機関団体との連絡調整
・その他目的達成に必要なこと
◆メンバー：行政区の区長、各種団体の役員、プロジェクトチーム

プロジェクトチームの設立（R4）

◆目的：若者や女性の意見の反映、
活動を通じた地域の担い手やリーダーの育成
◆役割：地域課題解決に向けた地域主体の活動の実践
◆メンバー：地区在住の若者や女性を中心に幅広い世代

◆これまでの取組・今後の予定：

R4	R5	R6	R7～
●地区の現況調査の実施（区長・各種団体への調査） ●まち歩きや住民向けのフォーラムの実施	●中学生以上全住民アンケートの実施 ●住民向けのフォーラムの実施	●地区別での座談会の実施 ●プロジェクトチームメンバーと地域団体と交流・連携	●まちづくり構想の取りまとめ ●プロジェクトチームを中心とした具体的な対策の推進

地区別座談会の概要

趣旨・目的

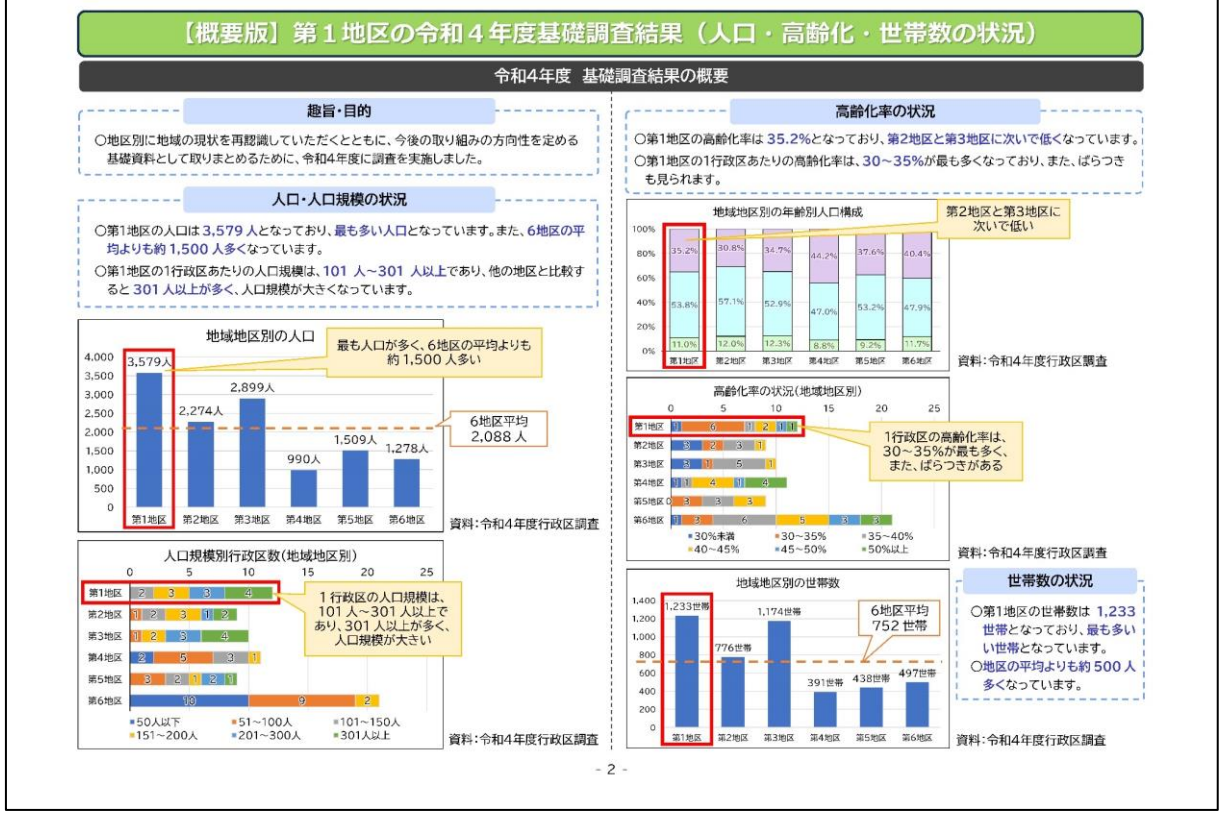
○人口減少や少子高齢化、行政の財源縮小に伴う生活サービスの維持が今後困難になる恐れがある中で、大野地区でいつまでも住み続けられるためには、「地域の事は地域で考えて自ら行動する」姿勢を持って、住民主体のまちづくりを推進するための体制を整えることが重要である。
○全国的にも生涯学習が中心の「公民館」から地域づくりの拠点である「コミュニティセンター」へと移行し、施設の管理運営や事業実施を住民自らが担うようになってきている背景を踏まえ、今回の地区別座談会では、日頃気になることや困りごと、その解決策等について話し合い、住民自らが行動していくための一歩をみんなで考えていくことが目的である。また、これまでに実施したアンケート調査結果等を広く住民に周知する。

«本日のゴール»
★みんなで地域について話し合う雰囲気ができている！
★想いを共有することで第３地区特有の課題が見えてきた！

進め方

7月中旬～8月中旬	第１回 地域課題の共有	①現状・課題の報告 ・R4・R5の調査結果を報告します ②意見交換 ・地区特有の課題について共有します
9月下旬～11月（予定）	第２回 課題の分類、課題解決に向けた取組の検討	①第１回目の振り返り ・第１回目で出た意見から課題を抽出・整理し、みんなで確認します ②課題解決に向けて自分たちでできる取組の検討 ・課題解決に向けて自分たちでできる取組について意見交換をします
12月～1月（予定）	第３回 課題解決に向けた役割分担や推進体制の検討	①第２回目の振り返り ・第２回目で出た意見から今後必要な対策を整理し、みんなで確認する ②課題解決に向けた役割分担や推進体制の検討 ・地域や行政などの各主体の役割分担や推進体制について意見交換をします
2月末	地区別座談会の取りまとめ	・地区ごとの目指す将来像や今後のまちづくりの方向性を取りまとめます

- 1 -



【概要版】第１地区の令和４年度基礎調査結果（人口・高齢化・世帯数の状況）

令和4年度 基礎調査結果の概要

趣旨・目的

○地区別に地域の現状を再認識していただくとともに、今後の取り組みの方向性を定める基礎資料として取りまとめるために、令和4年度に調査を実施しました。

人口・人口規模の状況

○第1地区の人口は 3,579 人となっており、最も多い人口となっています。また、6地区の平均よりも約 1,500 人多くなっています。
○第1地区の1行政区あたりの人口規模は、101 人～301 人以上であり、他の地区と比較すると 301 人以上が多く、人口規模が大きくなっています。

資料：令和4年度行政区調査

資料：令和4年度行政区調査

高齢化率の状況

○第1地区の高齢化率は 35.2%となっており、第2地区と第3地区に次いで低くなっています。
○第1地区の1行政区あたりの高齢化率は、30～35%が最も多くなっており、また、ばらつきも見られます。

資料：令和4年度行政区調査

資料：令和4年度行政区調査

資料：令和4年度行政区調査

世帯数の状況

○第1地区の世帯数は 1,233 世帯となっており、最も多い世帯となっています。
○地区の平均よりも約 500 人多くなっています。

- 2 -

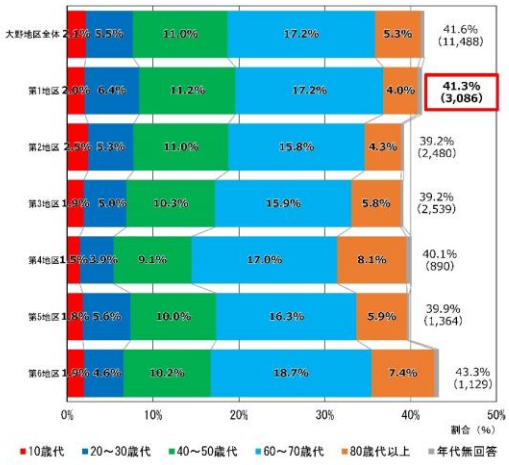
【概要版】第１地区の大野地区全住民アンケート調査結果

調査概要

目的：より多くの住民が共感できる将来像や対応すべき課題の共有を図るため、地域の現状や課題、目指すべき将来像等について、中学生以上の全住民を対象に実施しました。

調査期間 ： 令和5年9月初旬～9月末（約1ヶ月）
調査方法 ： 大野地区にお住いの中学生以上の方に調査票を配布・回収
配 布 数 ： 11,488 通（うち第１地区：3,086 通）
回 収 数 ： 4,782 人(回収率:41.6%)（うち第１地区：1,275 人）

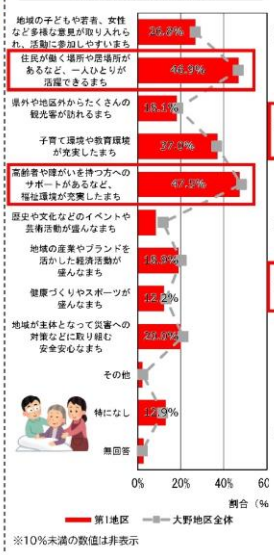
大野地区全体と第１～第６地区の回収率、年代の内訳



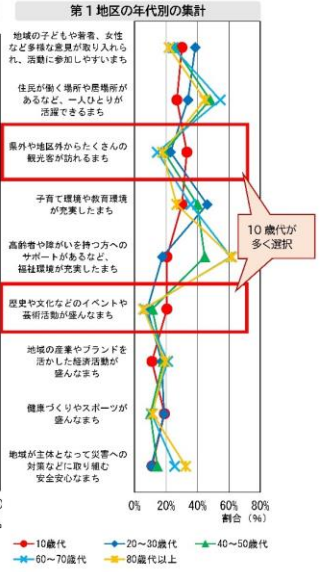
Q. 大野地区の将来像(10～20 年後)について

- 大野地区全体と同様の傾向となっており、一人ひとりが活躍できること、福祉環境の充実の意見が特に多くなっていました。
- 若い世代のうち、10 歳代はたくさんの観光客が訪れるまちやイベントや芸術活動が盛んなまちの意見が多くなっていました。

第１地区と大野地区全体



第１地区の年代別の集計



※10%未満の数値は非表示

【概要版】第１地区の大野地区全住民アンケート調査結果

Q. 大野地区の良いこと、満足していることについて

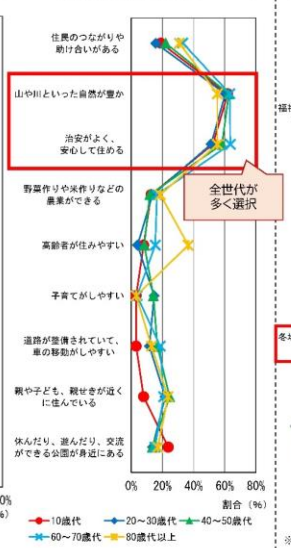
- 大野地区全体と同様の傾向となっており、自然の豊かさ、治安のよさについての意見が多くなっていました。
- 全ての世代で、自然の豊かさや治安のよさに意見が集中していました。

第１地区と大野地区全体



※10%未満の数値は非表示

第１地区の年代別の集計



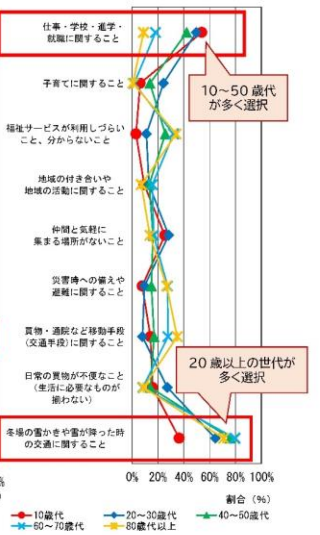
Q. 生活で不安なこと、困りごとについて

- 大野地区全体と同様の傾向となっており、冬場の雪かきや降雪時の交通に不安を感じていました。
- 20 歳以上の世代で、冬場の雪かきや降雪時の交通に不安を感じていました。
- 10 歳代～50 歳代の世代は就職や進学に関することに不安を感じていました。

第１地区と大野地区全体



第１地区の年代別の集計



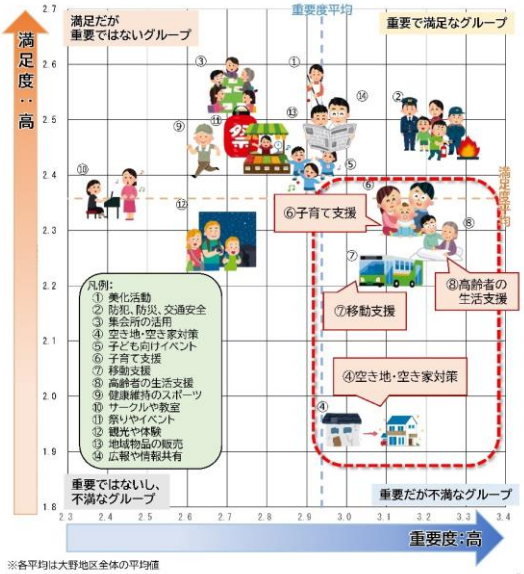
※10%未満の数値は非表示

【概要版】第１地区の大野地区全住民アンケート調査結果

Q. 大野地区内の活動に対する満足度や重要度について

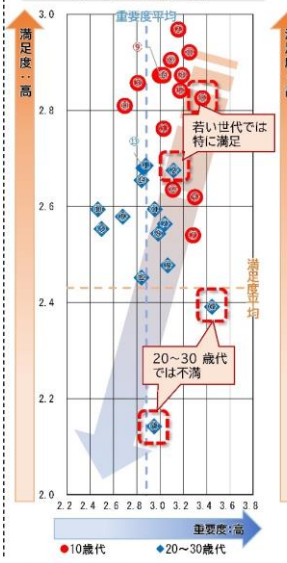
- 重要度が高いにも関わらず満足度が低い活動は、④空き地・空き家対策、⑥子育て支援、⑦移動支援、⑧高齢者の生活支援となっていました。
- 10 歳代では⑥子育て支援、20～30 歳代では②防犯、防災、交通安全が重要で満足な活動となっていました。一方で、20～30 歳代は大野地区全体と同様に④空き家・空き地対策と⑥子育て支援が重要ではあるが不満な活動となっていました。また、10 歳代は不満な活動がありませんでした。
- 年齢が高い世代は④空き家・空き地対策と⑦移動支援が重要ではあるが不満な活動となっていました。また、年代が上がるにつれて、重要度と満足度が低い活動が多くなる傾向となっていました。

第１地区の集計



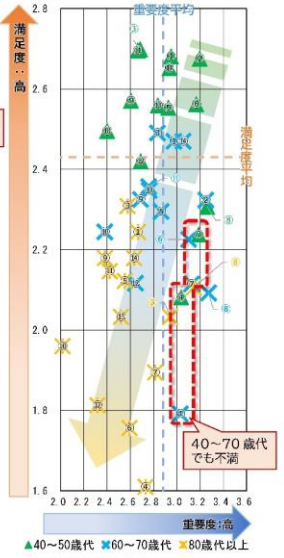
※各平均は大野地区全体の平均値

第１地区の若年層の集計



※各平均は第1地区の平均値

第１地区の中高齢層の集計



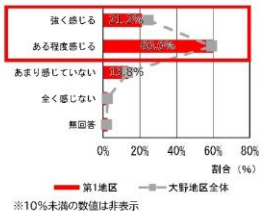
※各平均は第1地区の平均値

【概要版】第１地区の大野地区全住民アンケート調査結果

Q. 愛着について

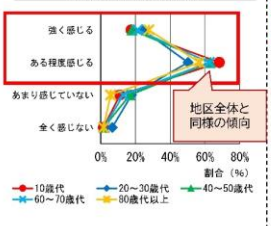
- 大野地区全体と同様の傾向となっており、8割以上の方がある程度以上の愛着を感じていました。
- 世代間でみても、第1地区全体と同様の傾向にあり、愛着を強く感じるとある程度感じるに意見が集中していました。

第１地区と大野地区全体



※10%未満の数値は非表示

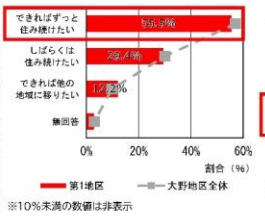
第１地区の年代別の集計



Q. 居住意向について

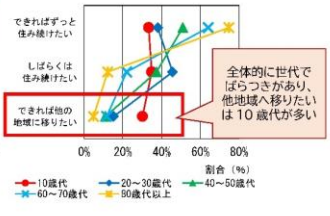
- 大野地区全体と同様の傾向となっており、5割以上の方ができればずっと住み続けたいと考えていました。
- 全体的に世代間でばらつきがあり、特に、10 歳代の方は、できれば他の地域に移りたいという意見が多くなっていました。

第１地区と大野地区全体



※10%未満の数値は非表示

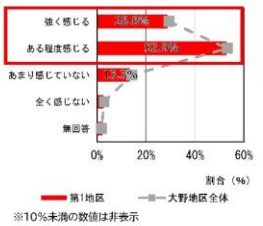
第１地区の年代別の集計



Q. 住みやすさについて

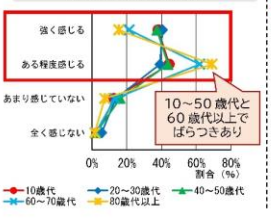
- 大野地区全体と同様の傾向となっており、8 割以上の方がある程度以上の住みやすさを感じていました。
- 10～50 歳代の世代の比較的若い世代と 60 歳代以上の世代の年齢の高い世代で愛着にばらつきがありました。

第１地区と大野地区全体



※10%未満の数値は非表示

第１地区の年代別の集計



Q. 今後のまちづくりに対する意見について

- 第１地区では、363 名の方からご意見がありました。
- 意見の傾向として、交通の便や医療サービスといった生活環境の利便性向上に関する意見や、働く場所や地域の経済といった地域の稼ぐ力に関する意見が多くなっていました。
- 生活環境の利便性向上に関する意見のうち、バスやタクシーの利便性の向上といった交通の便の改善に関する意見が多くなっていました。
- 地域の稼ぐ力に関する意見のうち、働く場所を増やすといった雇用の創出に関する意見が多くなっていました。



【概要版】第２地区の令和４年度基礎調査結果（人口・高齢化・世帯数の状況）

令和4年度　基礎調査結果の概要

趣旨・目的

○地区別に地域の現状を再認識していただくとともに、今後の取り組みの方向性を定める基礎資料として取りまとめるために、令和4年度に調査を実施しました。

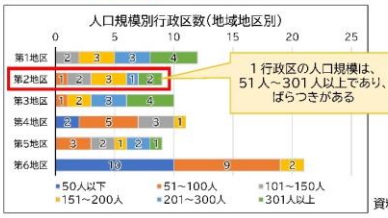
人口・人口規模の状況

○第2地区の人口は 2,274 人となっており、第１地区、第3地区に次いで多い人口となっています。また、6地区の平均よりも少し多くなっています。

○第2地区の1行政区あたりの人口規模は、51 人～301 人以上であり、ばらつきがあります。



資料：令和4年度行政区調査



資料：令和4年度行政区調査

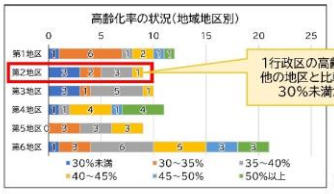
高齢化率の状況

○第2地区の高齢化率は 30.8%となっており、最も低くなっています。

○第2地区の1行政区あたりの高齢化率は、他の地区と比較すると 30%未満が多くなっています。



資料：令和4年度行政区調査



資料：令和4年度行政区調査



資料：令和4年度行政区調査

世帯数の状況

○第2地区の世帯数は 776 世帯となっており、6地区の平均とほぼ同程度となっています。

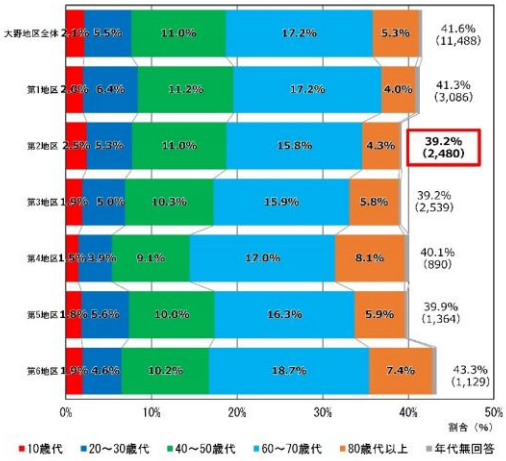
【概要版】第２地区の大野地区全住民アンケート調査結果

調査概要

目的：より多くの住民が共感できる将来像や対応すべき課題の共有を図るため、地域の現状や課題、目指すべき将来像等について、中学生以上の全住民を対象に実施しました。

調査期間：令和5年9月初旬～9月末（約1ヶ月）
調査方法：大野地区にお住いの中学生以上の方に調査票を配布・回収
配布数：11,488 通（うち第２地区：2,480 通）
回収数：4,782 人(回収率:41.6%)（うち第２地区：973 人）

大野地区全体と第１～第６地区の回収率、年代の内訳



Q. 大野地区の将来像(10～20 年後)について

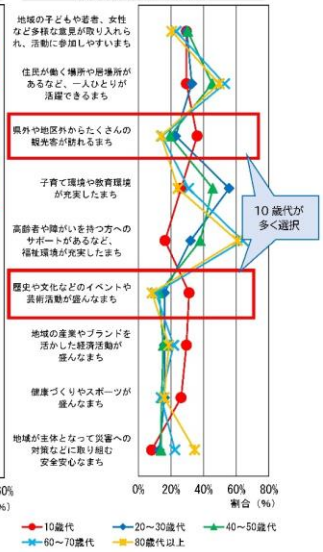
- 大野地区全体と同様の傾向となっており、一人ひとりが活躍できること、福祉環境の充実の意見が特に多くなっていました。
- 若い世代のうち、10 歳代はたくさんの観光客が訪れるまちやイベントや芸術活動が盛んなまちの意見が多くなっていました。

第２地区と大野地区全体



※10%未満の数値は非表示

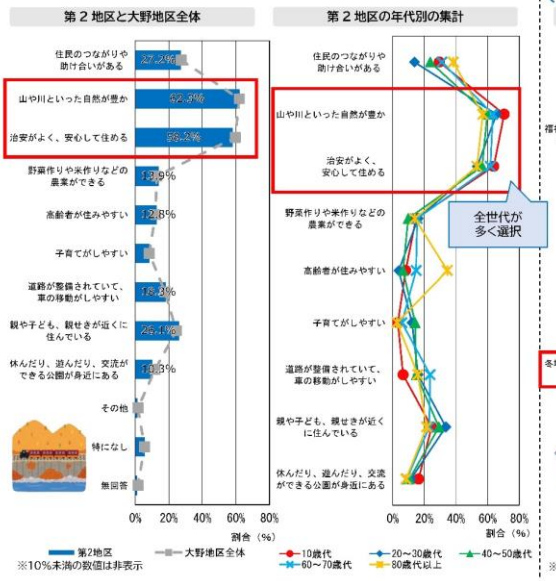
第２地区の年代別の集計



【概要版】第２地区の大野地区全住民アンケート調査結果

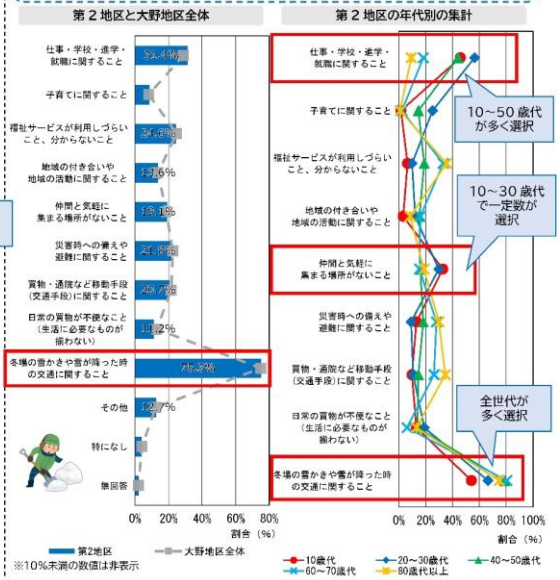
Q. 大野地区の良いこと、満足していることについて

- 大野地区全体と同様の傾向となっており、自然の豊かさ、治安のよさについての意見が多くなっていました。
- 全ての世代で、自然の豊かさや治安のよさに意見が集中していました。



Q. 生活で不安なこと、困りごとについて

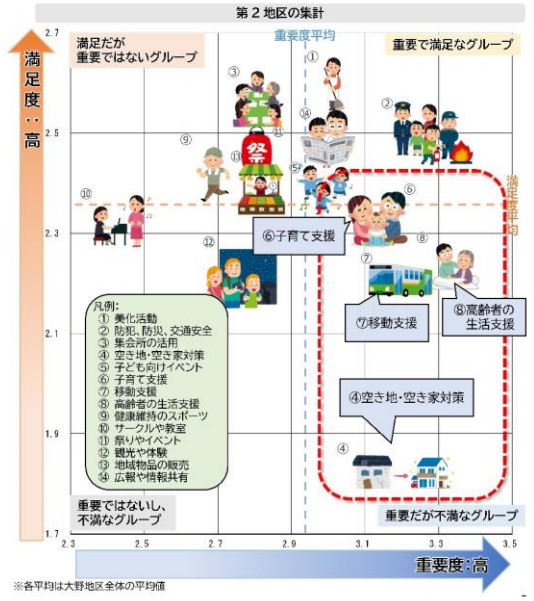
- 大野地区全体と同様の傾向となっており、冬場の雪かきや降雪時の交通に不安を感じていました。
- 全ての世代で、冬場の雪かきや降雪時の交通に不安を感じていました。10 歳代～50 歳代の世代は就職や進学に関することに不安を感じていました。また、10 歳代～30 歳代で仲間と気軽に集まる場所がないことに一定数の意見がありました。

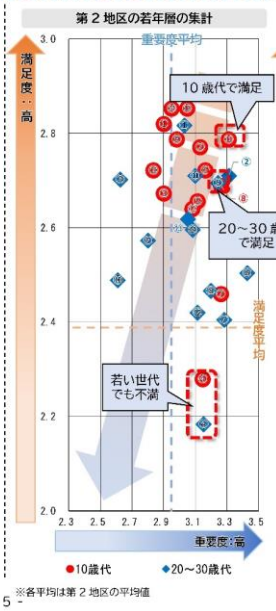


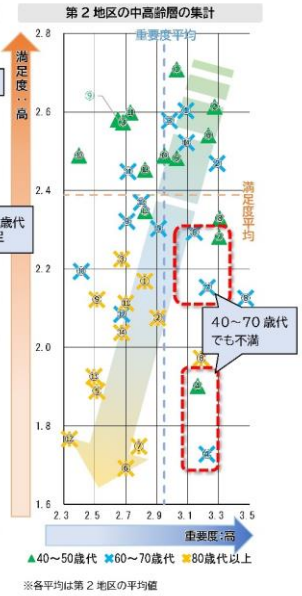
【概要版】第２地区の大野地区全住民アンケート調査結果

Q. 大野地区内の活動に対する満足度や充実度について

- 重要度が高いにも関わらず満足度が低い活動は、④空き地・空き家対策、⑥子育て支援、⑦移動支援、⑧高齢者の生活支援となっていました。
- 10 歳代では⑪祭りやイベント、20～30 歳代では⑤子ども向けイベントが特に満足な活動となっていました。また、比較的若い世代でも大野地区全体と同様に④空き家・空き地対策が重要ではあるが不満な活動となっていました。
- 年齢が高い世代は④空き家・空き地対策と⑦移動支援が重要ではあるが不満な活動となっていました。また、年代が上がるにつれて、重要度と満足度が低い活動が多くなる傾向となっていました。





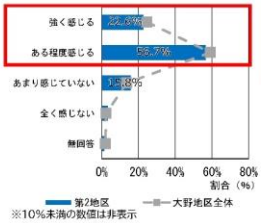


【概要版】第２地区の大野地区全住民アンケート調査結果

Q. 愛着について

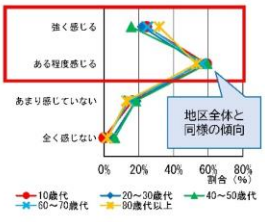
- 大野地区全体と同様の傾向となっており、約8割の方がある程度以上の愛着を感じていました。
- 世代間でみても、第２地区全体と同様の傾向にあり、愛着を強く感じるとある程度感じるに意見が集中していました。

第２地区と大野地区全体



※10%未満の数値は非表示

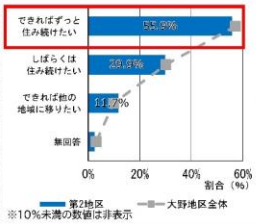
第２地区の年代別の集計



Q. 居住意向について

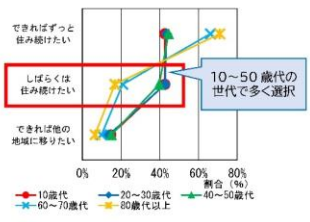
- 大野地区全体と同様の傾向となっており、5割以上の方ができればずっと住み続けたいと考えていました。
- 10～50 歳代の比較的若い世代では、しばらく住み続けたいという意見が多くなっていました。

第２地区と大野地区全体



※10%未満の数値は非表示

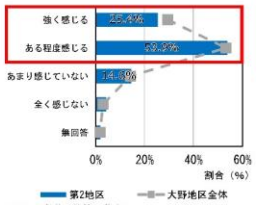
第２地区の年代別の集計



Q. 住みやすさについて

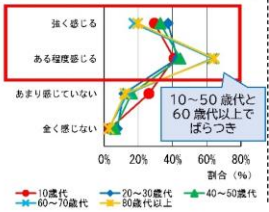
- 大野地区全体と同様の傾向となっており、約８割の方がある程度以上の住みやすさを感じていました。
- 10～50 歳代の世代の比較的若い世代と 60 歳代以上の世代の年齢の高い世代で愛着にばらつきがありました。

第２地区と大野地区全体



※10%未満の数値は非表示

第２地区の年代別の集計



Q. 今後のまちづくりに対する意見について

- 第２地区では、271 名の方からご意見がありました。
- 意見の傾向として、生活環境の整備や医療サービスといった生活環境の利便性向上に関する意見や、働く場所や地域の経済といった地域の稼ぐ力に関する意見が多くなっていました。
- 生活環境の利便性向上に関する意見のうち、買い物環境といった生活環境の整備に関する意見が多くなっていました。
- 地域の稼ぐ力に関する意見のうち、働く場所を増やすといった雇用の創出に関する意見が多くなっていました。



【概要版】第３地区の令和４年度基礎調査結果（人口・高齢化・世帯数の状況）

令和4年度 基礎調査結果の概要

趣旨・目的

○地区別に地域の現状を再認識していただくとともに、今後の取り組みの方向性を定める基礎資料として取りまとめるために、令和4年度に調査を実施しました。

人口・人口規模の状況

○第3地区の人口は 2,899 人となっており、第１地区に次いで多い人口となっています。また、6地区の平均よりも多くなっています。

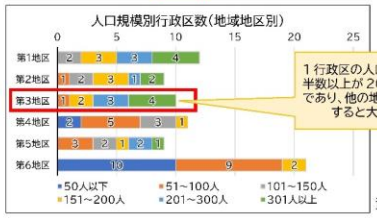
○第3地区の1行政区あたりの人口規模は、半数以上が 201 人以上であり、他の地区と比較すると、人口規模が大きくなっています。

地域地区別の人口



資料：令和4年度行政区調査

人口規模別行政区数（地域地区別）



資料：令和4年度行政区調査

高齢化率の状況

○第3地区の高齢化率は 34.7%となっており、第2地区に次いで低くなっています。

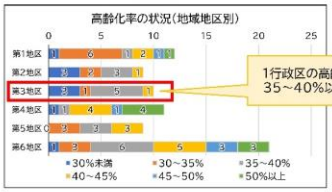
○第3地区の1行政区あたりの高齢化率は、35～40%以上が最も多くなっています。一方で、他の地区と比較すると、30%未満も一定数あります。

地域地区別の年齢別人口構成



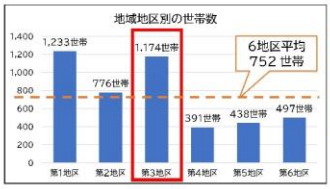
資料：令和4年度行政区調査

高齢化率の状況（地域地区別）



資料：令和4年度行政区調査

地域地区別の世帯数



資料：令和4年度行政区調査

世帯数の状況

○第3地区の世帯数は 1,174 世帯となっており、第１地区に次いで多くなっています。また、6地区の平均よりも多くなっています。

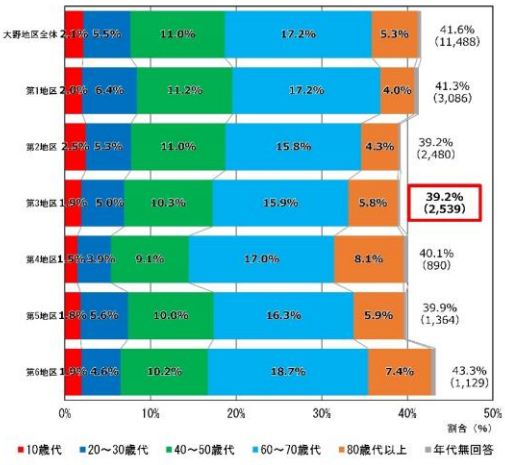
【概要版】第３地区の大野地区全住民アンケート調査結果

調査概要

目的：より多くの住民が共感できる将来像や対応すべき課題の共有を図るため、地域の現状や課題、目指すべき将来像等について、中学生以上の全住民を対象に実施しました。

調査期間：令和5年9月初旬～9月末（約1ヶ月）
調査方法：大野地区にお住いの中学生以上の方に調査票を配布・回収
配布数：11,488通（うち第３地区：2,539通）
回収数：4,782人(回収率:41.6%)（うち第３地区：995人）

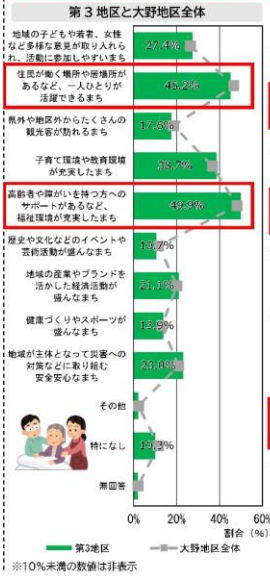
大野地区全体と第１～第６地区の回収率、年代の内訳



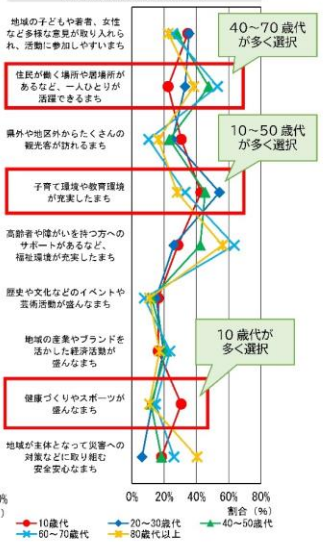
Q. 大野地区の将来像（10～20年後）について

- 大野地区全体と概ね同様の傾向となっており、一人ひとりが活躍できること、福祉環境の充実の意見が多くなっていました。
- 若い世代のうち、10歳代は健康づくりやスポーツが盛んなまち、10～50歳代は子育て環境や教育環境が充実したまちの意見が多くなっていました。
- 40～70歳代では、一人ひとりが活躍できるまちの意見が多くなっていました。

第３地区と大野地区全体



第３地区の年代別の集計



※10%未満の数値は非表示

【概要版】第３地区の大野地区全住民アンケート調査結果

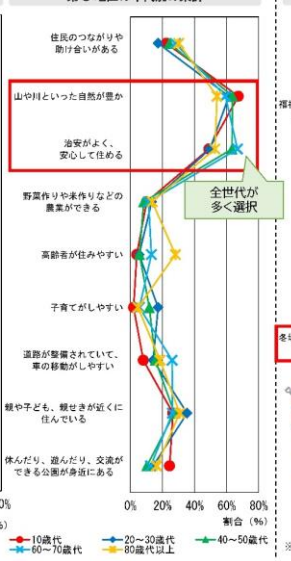
Q. 大野地区の良いこと、満足していることについて

- 大野地区全体と概ね同様の傾向となっており、自然の豊かさ、治安のよさについての意見が多くなっていました。
- 全ての世代で、自然の豊かさや治安のよさに意見が集中していました。

第３地区と大野地区全体



第３地区の年代別の集計



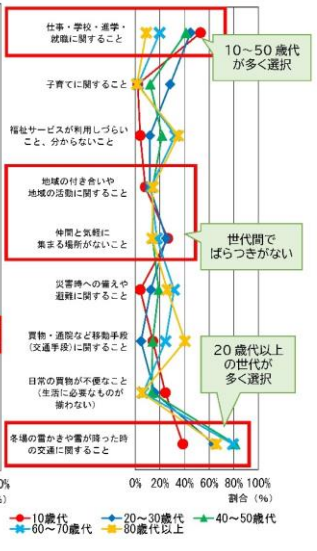
Q. 生活で不安なこと、困りごとについて

- 大野地区全体と概ね同様の傾向となっており、冬場の雪かきや降雪時の交通に不安を感じていました。
- 10歳代～50歳代の世代は就職や進学に関すること、20歳代以上の世代は冬場の雪かきや降雪時の交通に不安を感じていました。一方で、地域の付き合いや地域の活動に関すること、仲間と気軽に集まる場所がないことに世代間のばらつきはありませんでした。

第３地区と大野地区全体



第３地区の年代別の集計



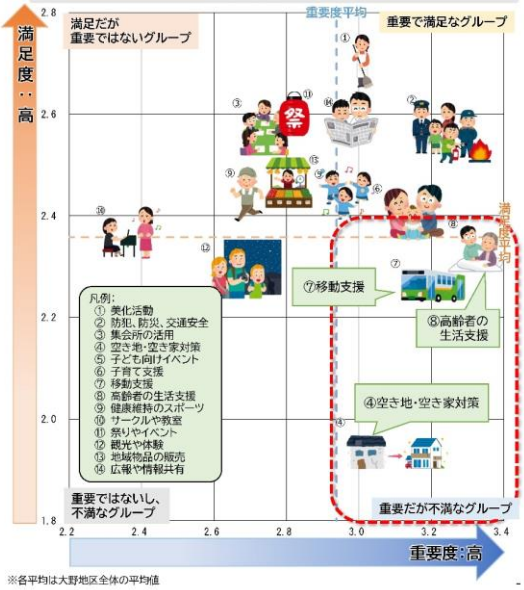
※10%未満の数値は非表示

【概要版】第３地区の大野地区全住民アンケート調査結果

Q. 大野地区内の活動に対する満足度や充実度について

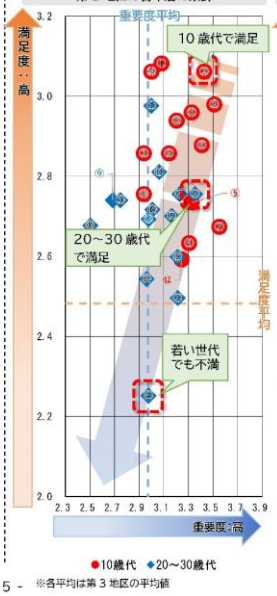
- 重要度が高いにも関わらず満足度が低い活動は、④空き地・空き家対策、⑦移動支援、⑧高齢者の生活支援となりました。
- 10 歳代では②防犯、防災、交通安全、20～30 歳代では⑥子育て支援が特に満足な活動でありました。また、20～30 歳代でも大野地区全体と同様に④空き家・空き地対策が重要かつ不満な活動となっていました。また、若い世代では年齢が高い世代に比べて、不満な活動が少ない傾向がありました。
- 年齢が高い世代は②防犯、防災、交通安全、④空き家・空き地対策、⑦移動支援が重要ではあるが不満な活動となっていました。特に②防犯、防災、交通安全は 80 歳代以上でも重要かつ不満な活動となっていました。また、年代が上がるにつれて、重要度と満足度が低い活動が多くなる傾向がありました。

第３地区の集計



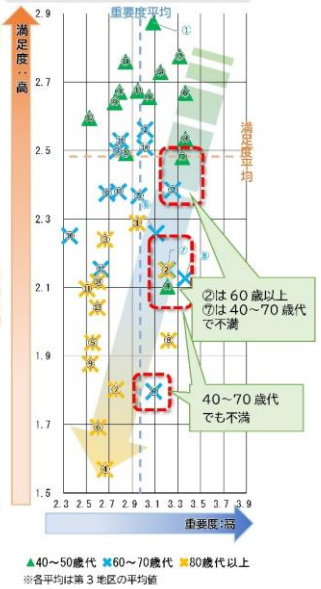
※各平均は大野地区全体の平均値

第３地区の若年層の集計



※各平均は第３地区の平均値

第３地区の中高齢層の集計



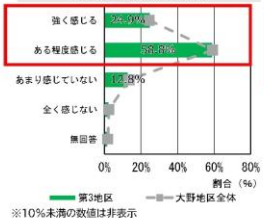
※各平均は第３地区の平均値

【概要版】第３地区の大野地区全住民アンケート調査結果

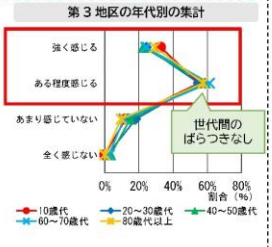
Q. 愛着について

- 大野地区全体と概ね同様の傾向となっており、8割以上の方がある程度以上の愛着を感じていました。
- 世代別でみても、第３地区全体と同様の傾向にあり、愛着を強く感じるとある程度感じるに意見が集中していました。

第３地区と大野地区全体



第３地区の年代別の集計

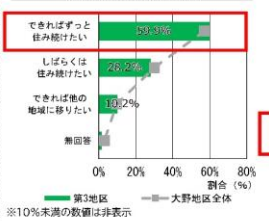


※10%未満の数値は非表示

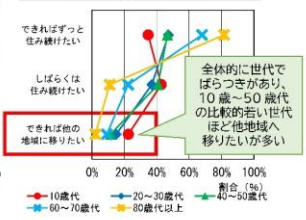
Q. 居住意向について

- 大野地区全体と概ね同様の傾向となっており、5割以上の方ができればずっと住み続けたいと考えていました。
- 全体的に世代でばらつきがあり、10 歳～50 歳代の比較的若い世代ほど、他の地域へ移りたいと回答した人が多くなっていました。

第３地区と大野地区全体



第３地区の年代別の集計

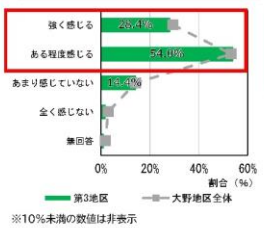


※10%未満の数値は非表示

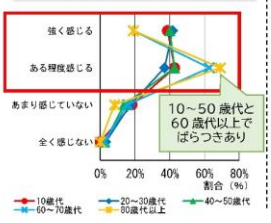
Q. 住みやすさについて

- 大野地区全体と概ね同様の傾向となっており、8 割以上の方がある程度以上の住みやすさを感じていました。
- 10～50 歳代の世代と 60 歳代以上の世代で住みやすさにばらつきがありました。

第３地区と大野地区全体



第３地区の年代別の集計



※10%未満の数値は非表示

Q. 今後のまちづくりに対する意見について

- 第３地区では、252 名の方からご意見がありました。
- 意見の傾向として、生活環境の整備や医療サービスといった生活環境の利便性向上に関する意見や、働く場所や地域経済といった地域の稼ぐ力に関する意見が多くなっていました。
- 地域の稼ぐ力に関する意見のうち、働く場所を増やすといった雇用の創出に関する意見が多くなっていました。
- 鉄道やバスの増便といった交通の便の改善に関する意見も多くなっていました。



【概要版】第４地区の令和４年度基礎調査結果（人口・高齢化・世帯数の状況）

令和4年度　基礎調査結果の概要

趣旨・目的

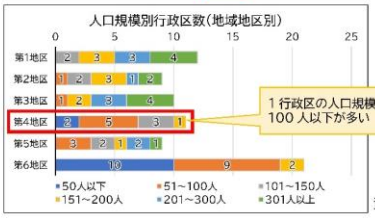
○地区別に地域の現状を再認識していただくとともに、今後の取り組みの方向性を定める基礎資料として取りまとめるために、令和4年度に調査を実施しました。

人口・人口規模の状況

○第4地区の人口は990人となっており、最も少ない人口となっています。また、6地区の平均の半数以下となっています。
○第4地区の1行政区あたりの人口規模は、100人以下が多くなっており、他の地区と比較すると 200 人以上の行政区はありません。



資料：令和4年度行政区調査



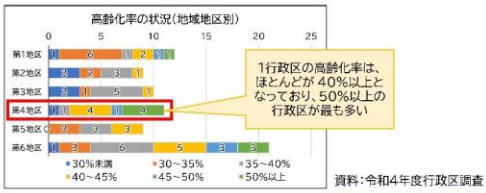
資料：令和4年度行政区調査

高齢化率の状況

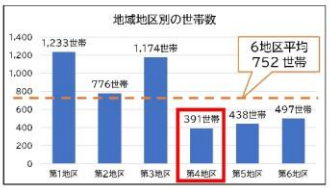
○第4地区の高齢化率は 44.2%となっており、最も高くなっています。
○第4地区の1行政区あたりの高齢化率は、40%以上がほとんどであり、また 50%以上の行政区が最も多くなっています。



資料：令和4年度行政区調査



資料：令和4年度行政区調査



資料：令和4年度行政区調査

世帯数の状況

○第4地区の世帯数は 391 世帯となっており、最も少なくなっています。
また、6地区の平均の約半数となっています。

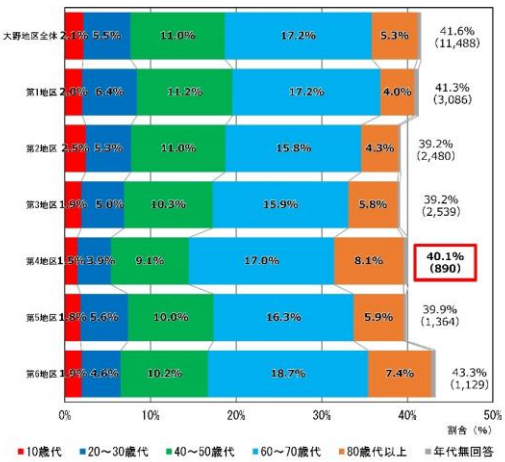
【概要版】第４地区の大野地区全住民アンケート調査結果

調査概要

目的：より多くの住民が共感できる将来像や対応すべき課題の共有を図るため、地域の現状や課題、目指すべき将来像等について、中学生以上の全住民を対象に実施しました。

調査期間：令和5年9月初旬～9月末（約1ヶ月）
調査方法：大野地区にお住いの中学生以上の方に調査票を配布・回収
配 布 数：11,488 通（うち第４地区：890 通）
回 収 数：4,782 人(回収率:41.6%)（うち第４地区：357 人）

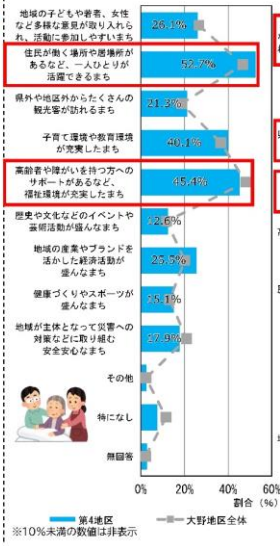
大野地区全体と第１～第６地区の回収率、年代の内訳



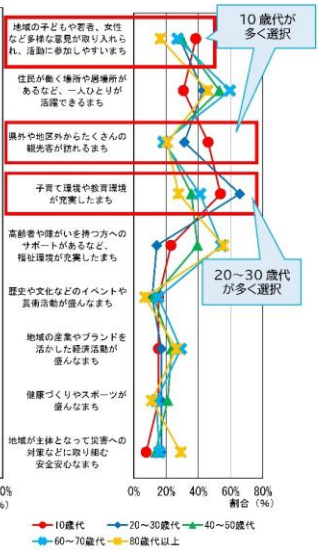
Q. 大野地区の将来像(10～20 年後)について

- 大野地区全体と概ね同様の傾向となっており、一人ひとりが活躍できること、福祉環境の充実の意見が特に多くなっていました。
- 若い世代のうち、10 歳代は、子どもや若者、女性の意見が取り入れられ、活動に参加しやすいまち、県外や地区外から大勢の観光客が訪れるまち、20 歳代～30 歳代は、子育て環境や教育環境が充実したまちの意見が多くなっていました。

第４地区と大野地区全体



第４地区の年代別の集計



【概要版】第４地区の大野地区全住民アンケート調査結果

Q. 大野地区の良いこと、満足していることについて

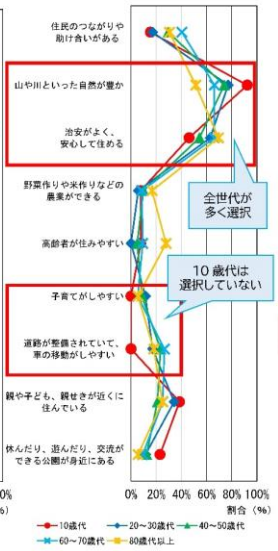
- 大野地区全体と概ね同様の傾向となっており、自然の豊かさ、治安のよさについての意見が多くなっていました。
- 全ての世代で、自然の豊かさや治安のよさに意見が集中していました。
- 一方で、10 歳代では、子育てがしやすいや、道路が整備されていて、車の移動がしやすいといった意見は誰にも選ばれていませんでした。

第４地区と大野地区全体



※10%未満の数値は非表示

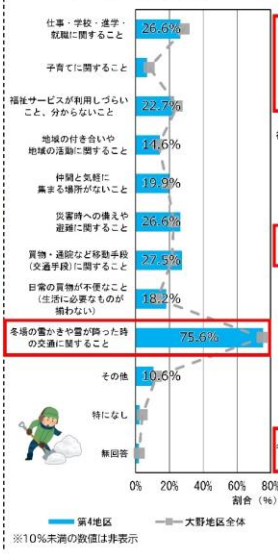
第４地区の年代別の集計



Q. 生活で不安なこと、困りごとについて

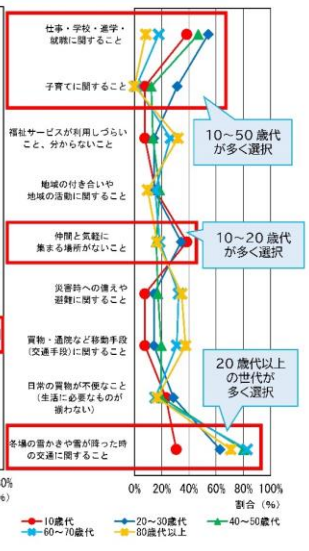
- 大野地区全体と概ね同様の傾向となっており、冬場の雪かきや降雪時の交通に不安を感じていました。
- 20 歳代以上は、冬場の雪かきや降雪時の交通に関すること、10 歳代～50 歳代の世代は就職や進学に関すること、子育てに関すること、10 歳代～20 歳代は仲間と気軽に集まれる場所がないことに不安を感じていました。

第４地区と大野地区全体



※10%未満の数値は非表示

第４地区の年代別の集計

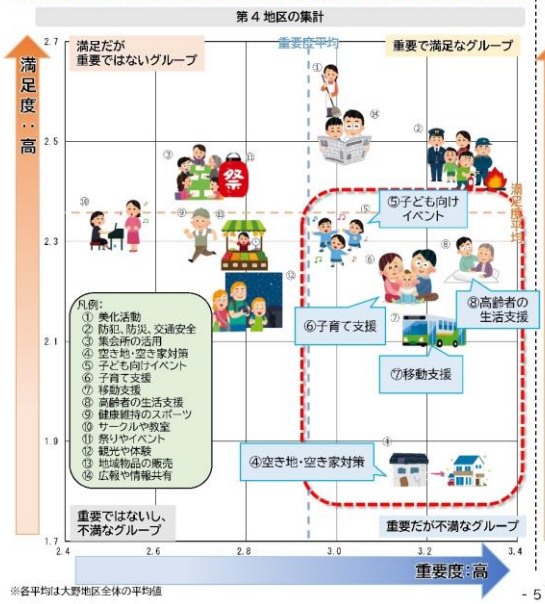


【概要版】第４地区の大野地区全住民アンケート調査結果

Q. 大野地区内の活動に対する満足度や充実度について

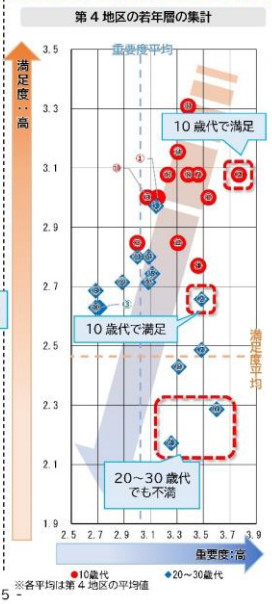
- 重要度が高いにも関わらず満足度が低い活動は、④空き地・空き家対策、⑤子ども向けイベント、⑥子育て支援、⑦移動支援、⑧高齢者の生活支援となっていました。
- 10 歳代～30 歳代では②防犯、防災、交通安全が特に満足な活動となっていました。また、20 歳代～30 歳代でも大野地区全体と同様に④空き家・空き地対策、⑥子育て支援が重要かつ不満な活動となっていました。また、若い世代では年齢が高い世代に比べて、不満な活動が少ない傾向となっていました。
- 年齢が高い世代は④空き家・空き地対策、⑦移動支援が重要ではあるが不満な活動となっていました。特に①美化活動、②防犯、防災、交通安全、⑤子ども向けイベント、⑥子育て支援は 60 歳～代以上でも重要かつ不満な活動となっていました。また、年代が上がるにつれて、重要度と満足度が低い活動が多くなる傾向となっていました。

第４地区の集計



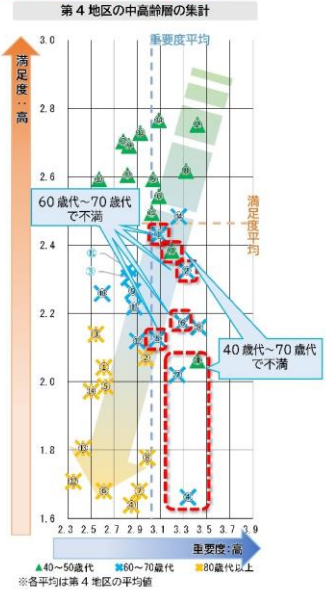
※各平均は大野地区全体の平均値

第４地区の若年層の集計



※各平均は第４地区の平均値

第４地区の中高齢層の集計



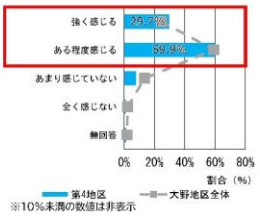
※各平均は第４地区の平均値

【概要版】第４地区の大野地区全住民アンケート調査結果

Q. 愛着について

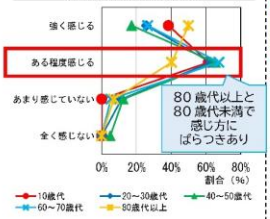
- 大野地区全体と概ね同様の傾向となっており、8割以上の方がある程度以上の愛着を感じていました。
- 10 歳代～70 歳代でと 80 歳代以上で愛着をある程度感じるの意見にばらつきがありました。

第４地区と大野地区全体



※10%未満の数値は非表示

第４地区の年代別の集計

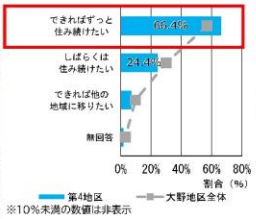


80 歳代以上と 80 歳代未満で感じ方にばらつきあり

Q. 居住意向について

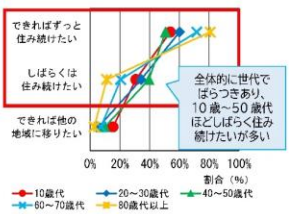
- 大野地区全体と概ね同様の傾向となっており、6 割以上の方ができればずっと住み続けたいと考えていました。
- 全体的に世代でばらつきがあり、10 歳～50 歳代ほどしばらく住み続けたいが多い傾向となっていました。

第４地区と大野地区全体



※10%未満の数値は非表示

第４地区の年代別の集計

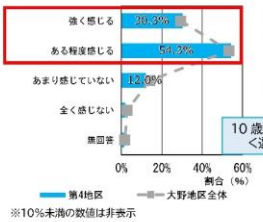


全体的に世代でばらつきあり、10 歳～50 歳代ほどしばらく住み続けたいが多い

Q. 住みやすさについて

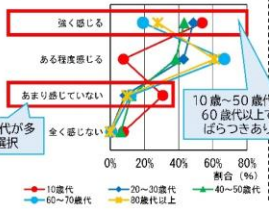
- 大野地区全体と概ね同様の傾向となっており、8 割以上の方がある程度以上の住みやすさを感じていました。
- 10～50 歳代の世代と 60 歳代以上の世代で住みやすさにばらつきがありました。また、10 歳代では、住みやすさをあまり感じていないの意見が多くなっていました。

第４地区と大野地区全体



10 歳代が多く選択

第４地区の年代別の集計



10 歳～50 歳代と 60 歳代以上でばらつきあり

※10%未満の数値は非表示

Q. 今後のまちづくりに対する意見について

- 第４地区では、117 名の方からご意見がありました。
- 意見の傾向として、生活環境の整備や医療サービスといった生活環境の利便性向上に関する意見が多くなっていました。
- 生活環境の利便性向上に関する意見のうち、スーパーやコンビニの増設といった生活環境の整備（買い物や住宅など）に関する意見が多くなっていました。





【概要版】第５地区の令和４年度基礎調査結果（人口・高齢化・世帯数の状況）

令和4年度 基礎調査結果の概要

趣旨・目的

○地区別に地域の現状を再認識していただくとともに、今後の取り組みの方向性を定める基礎資料として取りまとめるために、令和4年度に調査を実施しました。

人口・人口規模の状況

○第5地区の人口は 1,509 人となっており、第 4 地区、第 6 地区に次いで少ない人口となっています。また、6地区の平均よりも少なくなっています。

○第5地区の1行政区あたりの人口規模は、51 人～301 人以上であり、ばらつきがあります。

地域地区別の人口

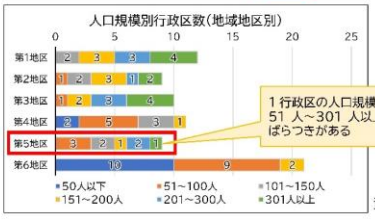


第４地区、第６地区に次いで人口が少なく、また、6地区の平均よりも少ない

6地区平均 2,088 人

資料：令和4年度行政区調査

人口規模別行政区数（地域地区別）



1 行政区の人口規模は、51 人～301 人以上でばらつきがある

資料：令和4年度行政区調査

高齢化率の状況

○第5地区の高齢化率は 37.6%となっており、第 4 地区、第 6 地区に次いで高くなっています。

○第5地区の1行政区あたりの高齢化率は、30～45%となっています。

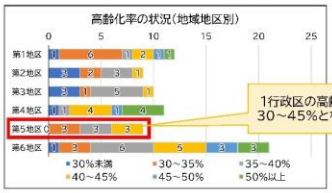
地域地区別の年齢別人口構成



第4地区、第6地区に次いで高齢化率が高い

資料：令和4年度行政区調査

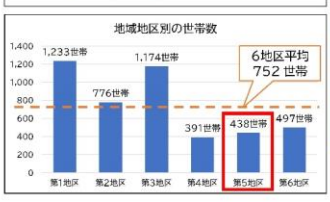
高齢化率の状況（地域地区別）



1行政区の高齢化率は、30～45%となっている

資料：令和4年度行政区調査

地域地区別の世帯数



6地区平均 752 世帯

世帯数の状況

○第5地区の世帯数は 438 世帯となっており、第4地区に次いで少なくなっています。また、6地区の平均よりも少なくなっています。

資料：令和4年度行政区調査

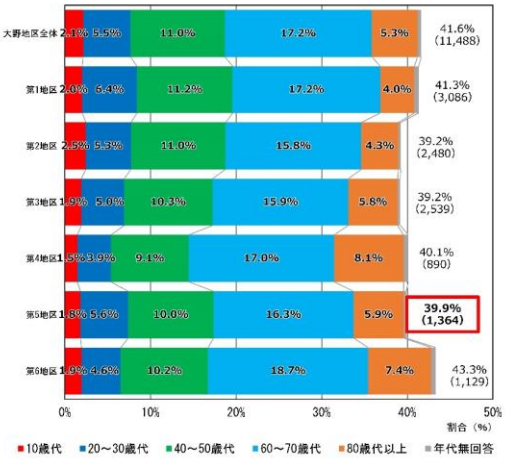
【概要版】第５地区の大野地区全住民アンケート調査結果

調査概要

目的：より多くの住民が共感できる将来像や対応すべき課題の共有を図るため、地域の現状や課題、目指すべき将来像等について、中学生以上の全住民を対象に実施しました。

調査期間：令和5年9月初旬～9月末（約1ヶ月）
調査方法：大野地区にお住いの中学生以上の方に調査票を配布・回収
配 布 数：11,488 通（うち第５地区：1,364 通）
回 収 数：4,782 人(回収率:41.6%)（うち第５地区：544 人）

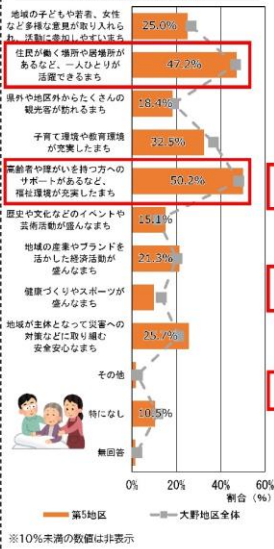
大野地区全体と第１～第６地区の回収率、年代の内訳



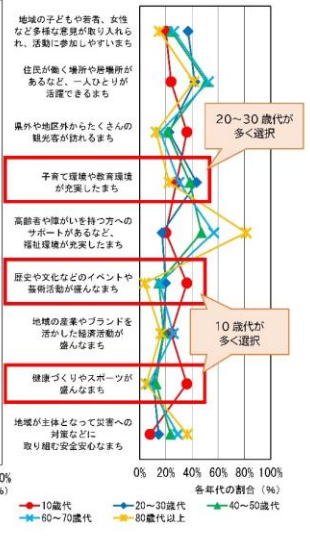
Q. 大野地区の将来像(10～20 年後)について

- 大野地区全体と概ね同様の傾向となっており、一人ひとりが活躍できること、福祉環境の充実の意見が特に多くなっていました。
- 若い世代のうち、10 歳代は歴史や文化などのイベントや芸術活動が盛んなまち、健康づくりやスポーツが盛んなまちの意見が多くなっていました。20～30 歳代は子育て環境や教育環境が充実したまちの意見が多くなっていました。

第５地区と大野地区全体



第５地区の年代別の集計



※10%未満の数値は非表示

【概要版】第５地区の大野地区全住民アンケート調査結果

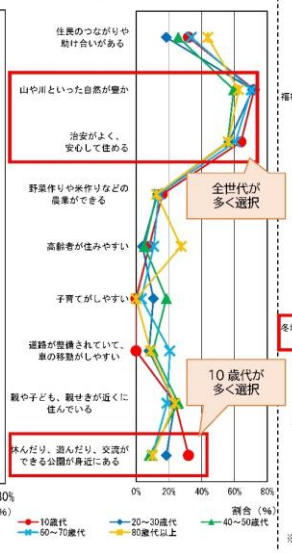
Q. 大野地区の良いこと、満足していることについて

- 大野地区全体と概ね同様の傾向となっており、自然の豊かさ、治安のよさについての意見が多くなっていました。
- 全ての世代で、自然の豊かさや治安のよさに意見が集中していました。また、10 歳代では、休んだり、遊んだり、交流ができる公園が身近にあることも意見が多くなっていました。

第５地区と大野地区全体



第５地区の年代別の集計

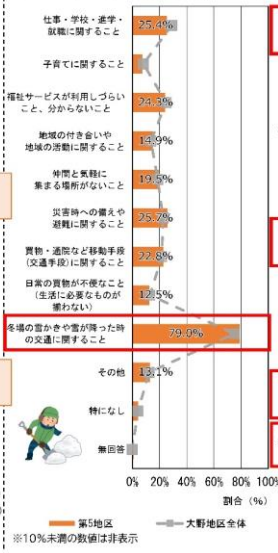


※10%未満の数値は非表示

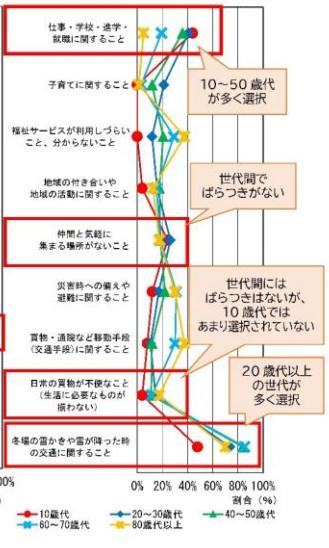
Q. 生活で不安なこと、困りごとについて

- 大野地区全体と概ね同様の傾向となっており、冬場の雪かきや降雪時の交通に不安を感じていました。
- 若い世代のうち、10 歳代では日常の買い物が不便なことはあまり選択されませんでした。
- 10 歳代～50 歳代の世代は就職や進学に関すること、20 歳代以上の世代は冬場の雪かきや降雪時の交通に不安を感じていました。一方で、仲間と気軽に集まる場所がないことに世代間のばらつきはありませんでした。

第５地区と大野地区全体



第５地区の年代別の集計



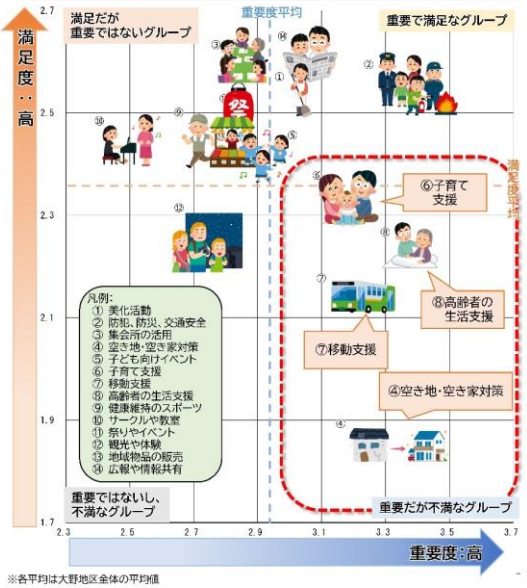
※10%未満の数値は非表示

【概要版】第５地区の大野地区全住民アンケート調査結果

Q. 大野地区内の活動に対する満足度や重要度について

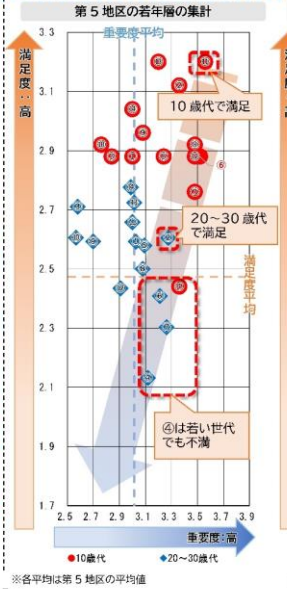
- 重要度が高いにも関わらず満足度が低い活動は、④空き地・空き家対策、⑥子育て支援、⑦移動支援、⑧高齢者の生活支援となっていました。
- 10 歳代では⑪祭りやイベント、20～30 歳代では②防災、防犯、交通安全の満足度が高くなっていました。若い世代でも大野地区全体と同様に④空き家・空き地対策が重要かつ不満な活動となっていました。また、年齢が高い世代に比べて、不満な活動が少ない傾向がありました。
- 年齢が高い世代は②防犯、防災、交通安全、④空き家・空き地対策、⑥子育て支援、⑦移動支援が重要ではあるが不満な活動となっていました。特に②防犯、防災、交通安全、④防犯、防災、交通安全は 80 歳代以上でも重要かつ不満な活動となっていました。また、年代が上がるにつれて、重要度と満足度が低い活動が多くなる傾向がありました。

第５地区の集計



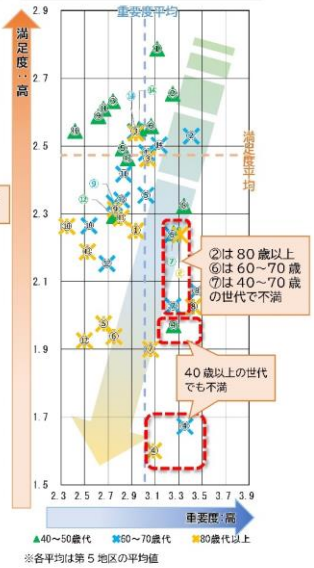
※各平均は大野地区全体の平均値

第５地区の若年層の集計



※各平均は第５地区の平均値

第５地区の中高齢層の集計



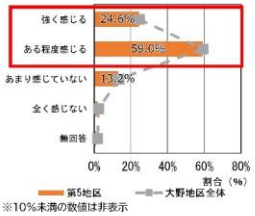
※各平均は第５地区の平均値

【概要版】第５地区の大野地区全住民アンケート調査結果

Q. 愛着について

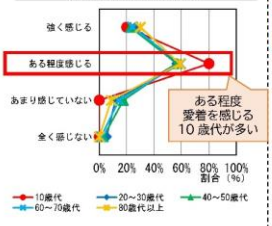
- 大野地区全体と概ね同様の傾向となっており、8割以上の方がある程度以上の愛着を感じていました。
- 10 歳代の若い世代では、他の世代と比べると愛着をある程度感じるという意見が多くなっていました。

第５地区と大野地区全体



※10%未満の数値は非表示

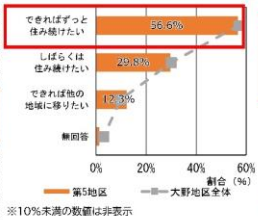
第５地区の年代別の集計



Q. 居住意向について

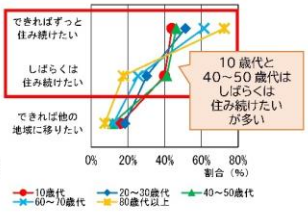
- 大野地区全体と概ね同様の傾向となっており、5割以上の方ができればずっと住み続けたいと考えていました。
- 10 歳代と 40～50 歳代では、他の世代と比べるとできればずっと住み続けたいと回答した人が少なく、しばらくは住み続けたいと回答した人が多くなっていました。

第５地区と大野地区全体



※10%未満の数値は非表示

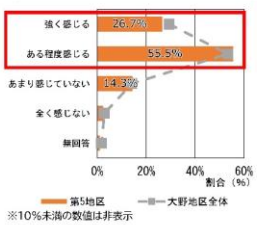
第５地区の年代別の集計



Q. 住みやすさについて

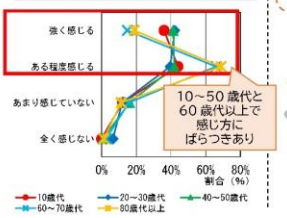
- 大野地区全体と概ね同様の傾向となっており、8 割以上の方がある程度以上の住みやすさを感じていました。
- 10～50 歳代の世代の比較的若い世代と 60 歳代以上の世代の年齢の高い世代で住みやすさの感じ方にばらつきがありました。

第５地区と大野地区全体



※10%未満の数値は非表示

第５地区の年代別の集計



Q. 今後のまちづくりに対する意見について

- 第５地区では、163 名の方からご意見がありました。
- 意見の傾向として、働く場所や Ｕターンの支援といった地域の稼ぐ力に関する意見が多くなっていました。
- 地域の稼ぐ力に関する意見のうち、働く場所を増やすといった雇用の創出に関する意見が多くなっていました。
- また、鉄道やバスの増便といった交通の便の改善に関する意見が多くなっていました。



【概要版】第６地区の令和４年度基礎調査結果（人口・高齢化・世帯数の状況）

令和4年度　基礎調査結果の概要

趣旨・目的

○地区別に地域の現状を再認識していただくとともに、今後の取り組みの方向性を定める基礎資料として取りまとめるために、令和4年度に調査を実施しました。

人口・人口規模の状況

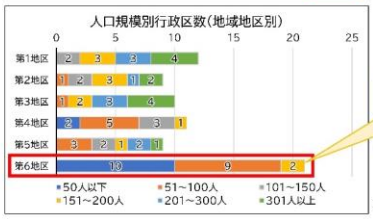
○第6地区の人口は 1,278 人となっており、第4地区に次いで少ない人口となっています。また、6地区の平均よりも少なくなっています。

○第6地区の1行政区あたりの人口規模は、ほとんどが 100 人以下であり、他の地区と比較すると、人口規模が小さくなっています。



第4地区に次いで人口が少なく、また、6地区の平均よりも少ない

資料：令和4年度行政区調査



1行政区の人口規模は、ほとんどが 100 人以下であり、他の地区と比較すると小さい

資料：令和4年度行政区調査

高齢化率の状況

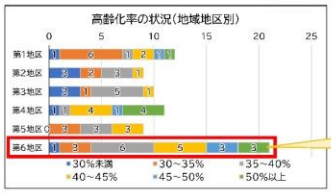
○第6地区の高齢化率は 40.4%となっており、第4地区に次いで高くなっています。

○第6地区の1行政区あたりの高齢化率は、30%以上が多く、他の地区と比較すると、高齢率が高くなっています。



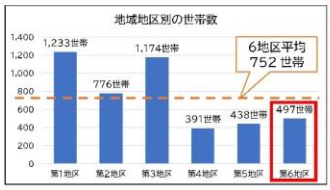
第4地区に次いで高齢化率が高い

資料：令和4年度行政区調査



1行政区の高齢化率は、30%以上が多い

資料：令和4年度行政区調査



世帯数の状況

○第6地区の世帯数は 497 世帯となっており、第4地区、第5地区に次いで少なくなっています。
また、6地区の平均よりも少なくなっています。

資料：令和4年度行政区調査

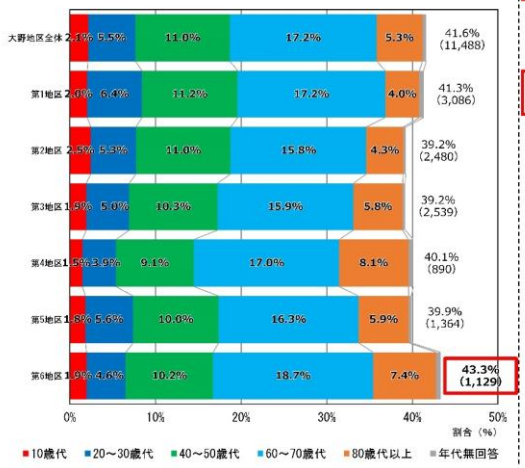
【概要版】第６地区の大野地区全住民アンケート調査結果

調査概要

目的：より多くの住民が共感できる将来像や対応すべき課題の共有を図るため、地域の現状や課題、目指すべき将来像等について、中学生以上の全住民を対象に実施しました。

調査期間：令和5年9月初旬～9月末（約1ヶ月）
調査方法：大野地区にお住いの中学生以上の方に調査票を配布・回収
配 布 数：11,488 通（うち第６地区:1,129 通）
回 収 数：4,782 人(回収率:41.6%)（うち第６地区:489 人）

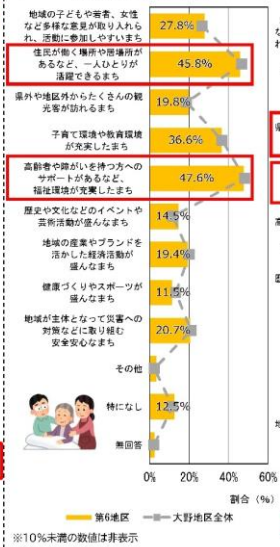
大野地区全体と第１～第６地区の回収率、年代の内訳



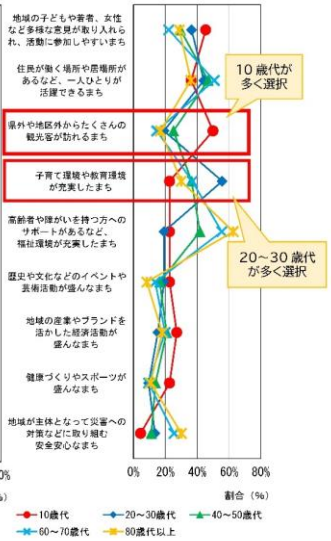
Q. 大野地区の将来像(10～20 年後)について

- 大野地区全体と概ね同様の傾向となっており、一人ひとりが活躍できること、福祉環境の充実の意見が特に多くなっていました。
- 若い世代のうち、10 歳代はたくさんの観光客が訪れるまち、20～30 歳代は子育て環境や教育環境の充実の意見が多くなっていました。

第6地区と大野地区全体



第6地区の年代別の集計

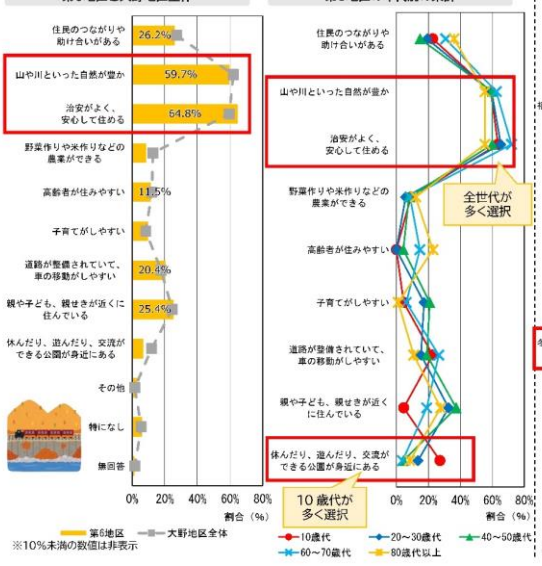


※10%未満の数値は非表示

【概要版】第６地区の大野地区全住民アンケート調査結果

Q. 大野地区の良いこと、満足していることについて

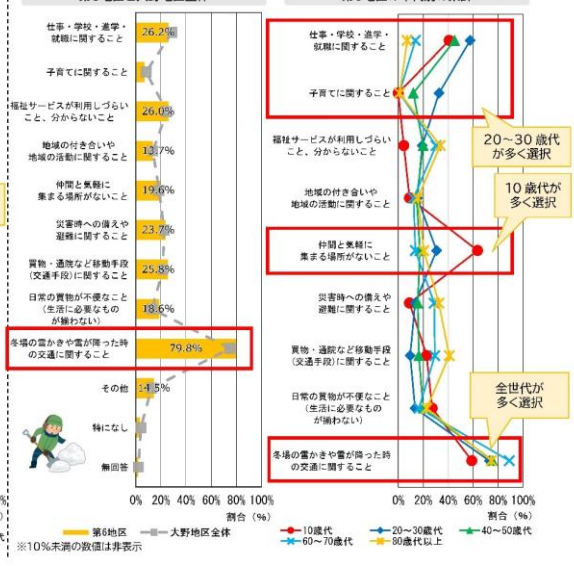
- 大野地区全体と概ね同様の傾向となっており、自然の豊かさ、治安のよさについての意見が多くなっていました。
- 全ての世代で、自然の豊かさや治安のよさに意見が集中していました。
- また、10 歳代は休んだり、遊んだり、交流できる公園があることにも意見が多くなっていました。



※10%未満の数値は非表示

Q. 生活で不安なこと、困りごとについて

- 大野地区全体と概ね同様の傾向となっており、冬場の雪かきや降雪時の交通に不安を感じていました。
- 全ての世代でも、冬場の雪かきや降雪時の交通に不安を感じていました。
- また、若い世代のうち、10 歳代は仲間と気軽に集まれる場所がないこと、20～30 歳代は就職や進学に関すること、子育てに関することに不安を感じていました。

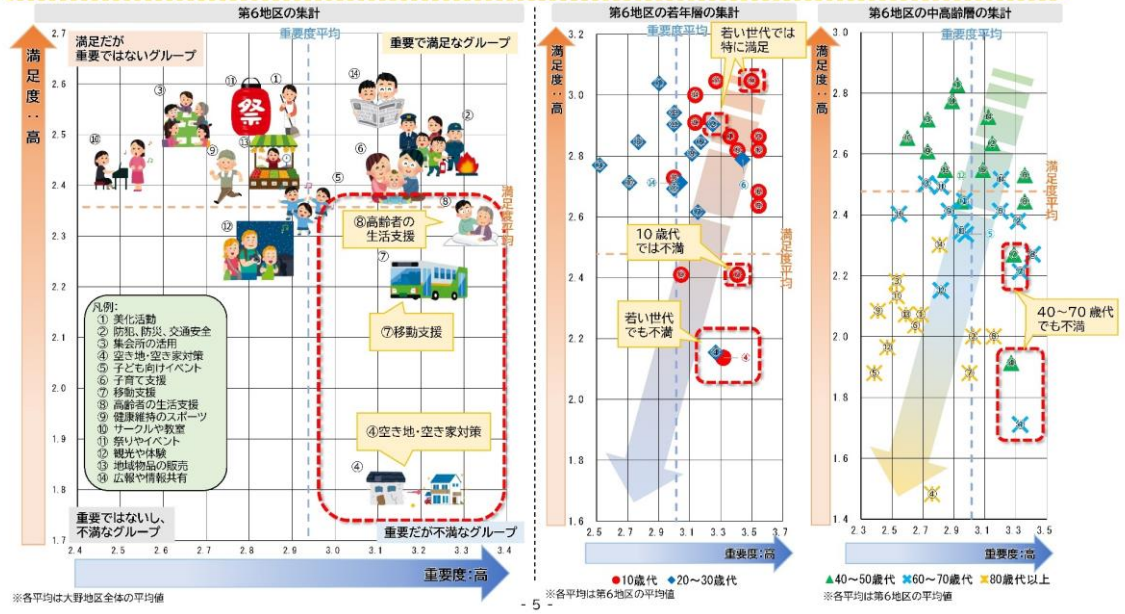


※10%未満の数値は非表示

【概要版】第６地区の大野地区全住民アンケート調査結果

Q. 大野地区内の活動に対する満足度や充実度について

- 重要度が高いにも関わらず満足度が低い活動は、④空き地・空き家対策、⑦移動支援、⑧高齢者の生活支援となっていました。
- 10 歳代では⑪祭りやイベント、20～30 歳代では②防犯、防災、交通安全が重要で満足な活動となっていました。一方で、若い世代でも大野地区全体と同様に④空き家・空き地対策は、重要ではあるが不満な活動となっていました。また、10 歳代は⑦移動支援も重要ではあるが不満な活動となっていました。
- 年齢が高い世代も④空き家・空き地対策と⑦移動支援は重要ではあるが不満な活動となっていました。また、年代が上がるにつれて、重要度と満足度が低い活動が多くなる傾向となっていました。



※各平均は大野地区全体の平均値

※各平均は第6地区の平均値

※各平均は第6地区の平均値

【概要版】第６地区の大野地区全住民アンケート調査結果

Q. 愛着について

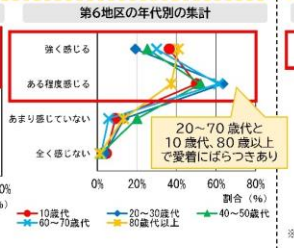
- 大野地区全体と概ね同様の傾向となっており、約8割の方がある程度以上の愛着を感じていました。
- 20歳代～70 歳代の世代と 10 歳代や 80 歳代以上の世代で愛着の感じ方にばらつきがありました。

第6地区と大野地区全体



※10%未満の数値は非表示

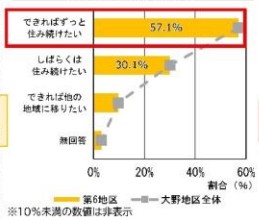
第6地区の年代別の集計



Q. 居住意向について

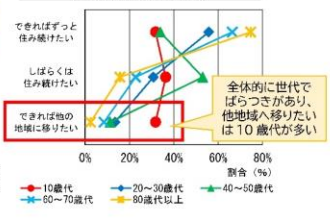
- 大野地区全体と概ね同様の傾向となっており、5割以上の方ができればずっと住み続けたいと考えていました。
- 全体的に世代でばらつきがあり、特に、10 歳代の方は、他の地域に移りたいという意見が多くありました。

第6地区と大野地区全体



※10%未満の数値は非表示

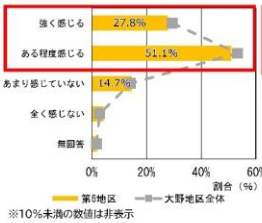
第6地区の年代別の集計



Q. 住みやすさについて

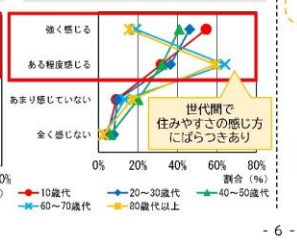
- 大野地区全体と概ね同様の傾向となっており、約7割以上の方がある程度以上の住みやすさを感じていました。
- 強く感じるとある程度感じるでは、若い世代と 60 歳以上の世代で、住みやすさの感じ方にばらつきがありました。

第6地区と大野地区全体



※10%未満の数値は非表示

第6地区の年代別の集計



Q. 今後のまちづくりに対する意見について

- 第6地区では、156 名の方からご意見がありました。
- 意見の傾向として、交通の便や医療サービスといった生活環境の利便性向上に関する意見が多くなっていました。
- 生活環境の利便性向上に関する意見のうち、バスやタクシーの利便性の向上といった交通の便の改善に関する意見が多くなっていました。
- また、若い人に移住してもらいたいといった若い世代の移住に関する意見も同様に多くなっていました。



【第　地区】第１回地区別座談会　意見交換ワークシート

令和　　年　　月　日（　）

日頃から気になっていることや地域の魅力について、話し合いましょう！

気になっていること	地域の魅力

危ない　こうなったらいいのになぁ　不便だなぁ　など

ここは自慢したい！　みんなにもっと知って欲しい！　他にはない良さがある！

まちづくりの全国的な潮流

≪地域を取り巻く課題≫

人口減少　少子高齢化　財政縮小　生活サービス維持困難　など

様々な課題に対応し、地域が生き残るためには・・・

地域のことは地域自ら考えて意思決定し、行動していくことが必要！

地域の自治（考えて意思決定）＋**地域の運営**（行動する）

まちづくりの動向

◆ 地域自らが自治・運営する組織

・約7,700組織（874自治体）：全国で約５割
・そのうち「公民館」から「コミュニティセンター」へ移行しているところも増えている
・福井県内では、勝山市や小浜市、坂井市などでコミュニティセンターに移行している

公民館（社会教育法、地方自治法）
- ●生涯学習やレクリエーション、集会が中心
- ●営利事業はできない

地域が自治・運営する組織
- ●地域の実情に応じたまちづくり活動ができる
- ●営利事業ができ、活動費を自ら確保できる
- ●軌道にのせるまでに労力が大きい

まちづくりの動向

◆ 活動事例

・富山県南砺市：安心生活見守り（水道検針と連携）、地域の直売所兼サロン（空き家活用）、買い物支援、地域イベント
・山形県川西町：学童保育事業、若者活動支援、高齢者の見守りなど
・勝山市：喫茶の事業運営、農作物の加工・販売、地域おこし協力隊との連携
・坂井市：テーマ別に地域主体で活動、市にプレゼンし、採択されると活動への補助あり（メイン通り、空き家活用、防災、公園、コミュニティなど）



まちづくりの動向

◆ 地域自ら自治・運営する中での課題・・・

住民自ら事業を企画・運営することの難しさ
地域住民の意見が言える環境づくり
取組の中心となる人材の確保が難しい
市や他地域との情報共有やネットワーク

今のうちから各地区で課題を把握・共有し、解決に向けて話し合い、行動していくことが大切！

『地域のかがやく未来』の実現に向けて住民自らが考え行動していくための

第１回 地区別座談会開催のお知らせ

各地区で３回実施します！

●人口減少や少子高齢化、行政の財源縮小に伴う生活サービスの維持が今後困難になる恐れがある中で、大野地区が生き残るためには、「地域の事は地域で考えて自ら行動する」姿勢を持って、住民主体のまちづくりを推進するための体制を整えることが重要です。
●全国的にも生涯学習が中心の「公民館」から地域づくりの拠点である「コミュニティセンター」へと移行し、施設の管理運営や事業実施を住民自らが担うようになってきています！
●こうした背景も踏まえつつ、今回の地区別座談会では、日頃気になることや困りごと、その解決策等について話し合い、住民自らが行動していくための一歩をみんなで考えましょう！

◆日時・場所　※各地区の行政区は裏面に記載
19時～20時半まで（全地区共通）

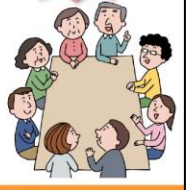
第２回目、第３回目の案内は改めて館報等で案内します！

地区	日時	場所
第１地区	８月 ８日（木）	秋葉集会所
第２地区	７月 25日（木）	結とぴあ（有終会館）３階　305、306
第３地区	７月 16日（火）	文化会館 １階　名水の間
第４地区	７月 26日（金）	学びの里「めいりん」１階　ランチルーム
第５地区	７月 17日（水）	
第６地区	７月 30日（火）	

気になること・困りごと
地域の担い手不足　空き家・空き地の増加
移動手段の確保　積雪時の雪かき　など

◆参加方法
なるべく事前に申し込みをお願いします！（当日参加もできます！）
※当日資料の必要部数を把握するため事前申込としています。
※電話またはWEBの申し込みフォームのいずれかの方法でお申し込みください。詳細は下記をご覧ください。

課題解決に向けて自分たちができることをみんなで話し合います！



●電話でのお申し込み
・連絡先：大野地区地域課題解決検討会事務局（大野公民館）
電話番号：0779-66-2828
（平日８時３０分～１７時１５分まで受付）

●ＷＥＢお申し込み
・右のＱＲコードを読み取って必要事項を入力ください。

実施主体：大野地区地域課題解決検討会

◆第１地区～第６地区の行政区名一覧

地区名	行政区名
第１地区	春日一丁目上区、春日一丁目中区、春日一丁目下区、春日二丁目東区、春日二丁目西区、春日三丁目上区、春日三丁目中区、春日三丁目下区、上篠座１区、上篠座２区、若杉町、国時町、西里
第２地区	高砂町１区、高砂町２区、高砂町３区、高砂町４区、高砂町５区、天神町、糸魚町、篠座町、春日野、新庄
第３地区	幸町、弥生町１区、弥生町２区、美川町１区、美川町２区、有明町、月美町、清和町、美里町、吉野町
第４地区	日吉町１区、日吉町２区、日吉町３区、日吉町４区、日吉町５区、日吉町６区、明倫町１区、明倫町２区、明倫町３区、明倫町４区、明倫町５区
第５地区	泉町１区、泉町２区、泉町３区、水落町１区、水落町２区、城町１区、城町２区、城町３区、清瀧
第６地区	本町１上区、本町１下区、本町２上区、本町２下区、本町３上区、本町３下区、本町４区、本町５区、元町１区、元町２区、元町３区、元町４区、元町５区、元町６区、大和町１区、大和町２区、大和町３区、錦町１区、錦町２区、錦町３区、要町



地区別座談会では、学生の方や子育て世代などを含む幅広い世代に参加を呼び掛けています。



近所の方やお知り合いの方などお誘い合わせのうえ、どうぞ、お気軽にご参加ください。

◆第２回目

【第２回地区別座談会】　まちづくり事例　概要

１．地域主体による生活に必要なサービスの運営

ＱＲコードを読み込むと、事例の動画が見られます！

本日はこれを見ます！

★住民自身の手で地域に必要なサービスを実現
（山形県川西町吉島地区）

・人口減少が進み、スーパーも無くなったことから、高齢者などの買い物の代行サービスをＮＰＯが運営している。
・運営にあたっては、住民全員が会費を払って、２か月に１度、地域に必要なサービスを話し合っている。
・実現したサービスは、学童保育や高齢者の見守りアプリ開発など 50 以上あり、行政に頼らず住民たち自身の手で、サービスと働く場を作り出している。

本日はこれを見ます！

★住民が主体となって作る地域共生ステーション
（愛知県長久手市）

・住民自身が地域の担い手となるための拠点として、「地域共生ステーション」を開設。
・行政のバックアップを受け、住民自身が施設の場所、規模、運営方法を話し合って決定している。
・住民がさまざまな活動を行うことで、自然とつながり・支え合う関係が生まれ、同様のステーションはさらに市内６か所で計画。各地で住民たちの話し合いが続いている。

★住民自治で暮らしを守る
（広島県安芸高田市川根地区）

・合併によって役場や出張所が閉鎖されたことをきっかけに、行政に頼らない住民自治の道を選択。
・住民が年会費を払って、役場さながらの「川根振興協議会」を組織・運営している。
・住民ボランティアによる集会所での高齢者のデイケアサービス、各世帯からの出資を受けて地区唯一のスーパーの運営、独り暮らしの高齢者への弁当の宅配と見守りサービスなど、一人ひとりが主体的に自らの暮らしを守っている。

２．地域の担い手づくり

本日はこれを見ます！

★出身者で作る青年会が支える集落（富山市大長谷地区）

・集落を離れて、近くで暮らす若者たちが、お祭りをきっかけに青年会を結成。
・祭りや運動会の運営や参加、消防団員の活動など、多くの若者たちが１年を通じて地域に関わるようになった。

★「関係人口」を地域の力に（秋田県鹿角市）

・人口減少が進む中で、地域課題に一緒に関わってもらう「関係人口」を呼び込む動きが活発になっている。
・隣接する青森県田子町、岩手県二戸市と連携して、３つの地域に共通する発酵文化を特色として打ち出す取り組みを始めた。
・県内の高校では、神奈川の大学生に地域教育を支援してもらい、若者たちが町を出た後も関係人口としてふるさとに関わり続けてもらおうとしている。

第２回地区別座談会　意見交換用ワークシート

本日話し合うテーマ （地域で優先して取り組むテーマ）	

地域で取り組みを実践していくためには・・・

いつまでに			誰が
令和７年度	令和８年度	令和９年度以降	
			住民（個人）
			地域（行政区）
			第１地区
			大野地区全体
			各種団体
			市役所

◆第３回目

まちづくりの事例紹介

～まちづくりの体制・担い手づくり～

石川県羽咋市

石川県羽咋市の事例①

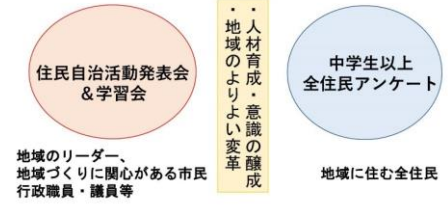


羽咋市は、日本で初めて世界農業遺産に認定された「能登の里山里海」の石川県・能登半島の付け根部分に位置します。
「羽咋」という名前は、神話に由来し、遠い昔、この地域に出現していた"怪鳥"を、智恵頭命(イフツクコケノミコト)という皇子が3匹の犬とともに退治、大が怪鳥の羽を咥えてこたから、「羽咋（はくい）」という地名が誕生しました。現在でも神話にゆかりのある遺跡(古墳)が残されていたり、いるほか、相撲を好んだ垂（スコト）の命日には「水なし、塩なし、待ったなし」の古式にのっとった2千年の歴史を持つ「邑戸山相撲神相撲」が毎年開催されています。そのほかにも、2千年以上の歴史を持つ文化財や祭りなど古くからの歴史が息づく場所です。



石川県羽咋市の事例②

行政と学びあい5色の絵の具（中間団体）が協働でつくる
「人と地域（町）が共に成長する（学びの）仕組み」



石川県羽咋市の事例③

空産地等で自主財源事業（農産物づくり等）を展開し、支え合い事業に活用

根拠

住民アンケートから抜粋

地域活動が足りていない年齢別ランキング

順位	全体	10～20代	30～40代	50～60代	70代以上
1	空地・空家対策	空地・空家対策	空地・空家対策	空地・空家対策	空地・空家対策
2	移動支援	移動支援	移動支援	移動支援	移動支援
3	高齢者生活支援	定住（空家）受入	高齢者生活支援	農地・山林維持管理	農地・空家等経済活動
4	農地・空家等経済活動	農地・空家等経済活動	住民向情報共有	高齢者生活支援	定住（空家）受入
5	定住（空家）受入	子育て支援	定住（空家）受入	農地・空家等経済活動	道路・河川管理
6	農地・山林維持管理	介護予防	道路・河川管理	定住（空家）受入	農地・山林維持管理
7	道路・河川管理	道路・河川管理	子育て支援	防火・防災	高齢者生活支援
8	防火・防災	子供の行事	防火・防災	子育て支援	会館の活用、管理
9	住民向情報共有	高齢者生活支援	農地・空家等経済活動	住民向情報共有	防火・防災
…					

鹿島路町会作成資料に加筆して作成

石川県羽咋市の事例④

苗植えや芋掘りは、
老人会、子供会、生活支援協議体等が参加し、多世代交流イベントを兼ねている



2022年度は
★昨年度の4倍の耕作面積に芋苗を植えた。
★地域おこし協力隊員の要望があり募集
　⇒10月末までお試し期間、11月から正式委託の予定
★アンケート結果を生かし、オール鹿島路で地域づくりを進めていく
　⇒地域おこし協力隊員と一緒に、新たな企画も生まれつつあります

石川県羽咋市の事例⑤

2．情報提供　先進地や市内自治活動の情報提供　人口データをグラフに変えて提供　危機感を高める
ーできるだけ多くの人に「直接」届くように配布ー　行政が記載しにくい内容を入れ、資料の作成者を明記する



石川県羽咋市の事例⑥

3　今後の方向性

■コミュニティセンター化の推進



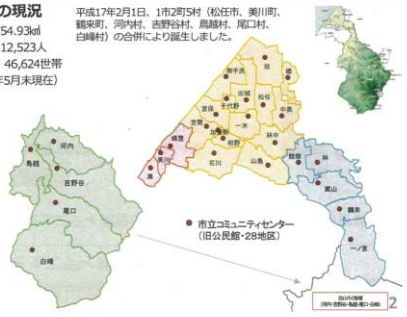
石川県白山市

石川県白山市の事例①

市民協働で創るまちづくり

白山市の現況
・面積　754.93㎢
・人口　112,523人
・世帯数　46,624世帯
（令和6年5月末現在）

平成17年2月1日、1市2町5村（松任市、美川町、鶴来町、河内村、吉野谷村、鳥越村、尾口村、白峰村）の合併により誕生しました。



2

石川県白山市の事例②

市民協働で創るまちづくり

地域課題の多様化・深刻化

○町内会の実態
高齢化、小規模化
独居高齢者世帯の増加
空き家の増加　等

○災害リスク
風水害、土砂災害、氾濫
地震災害、津波災害、
火山災害、雪害　等

○各種団体の実態
役員の高齢化
参加者の減少や固定化
担い手不足　等

○地域福祉
高齢者の見守り
健康づくり
子育て支援　等

石川県白山市の事例③

市民協働で創るまちづくり

地域課題解決のために

○ 地域住民が地域課題の解決や地域資源の活用について話し合い、知恵や発想を活かす

～ この地域に住んで良かったとおもえるように ～

地域のコミュニティ力を結集



(1) 10年後、20年後における地域運営の持続
(2) 地域住民で支え合う「共助の仕組み」
(3) 地域住民が主役の地域づくり

※地域の団体は他にもあります。

6

石川県白山市の事例④

市民協働で創るまちづくり

市民協働で創るまちづくり推進のポイント

市内全２８地区

①地域コミュニティ組織（令和５年度中に設立）

地域コミュニティ組織は 地域づくり活動 を取り組む主体

地域の生活や暮らしを守るため、地域で暮らす人々が中心となって形成され、地域内の様々な関係主体が参加しながら、地域課題の解決に向けた取り組みを持続的に実践する組織です。

②公民館のコミュニティセンター移行（令和６年度～）

地域コミュニティ組織の活動拠点

生涯学習・社会教育に加えて地域づくり・人づくりの拠点となって、地域住民の参画・主体となる 地域づくりを推進するものです。

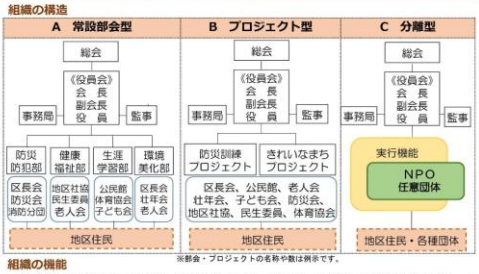
7

石川県白山市の事例⑤

市民協働で創るまちづくり

地域コミュニティ組織の構造と機能

組織の構造



※部会・プロジェクトの名称や数は例示です。

組織の機能
①広報・広聴機能　②協議・実行機能　③コーディネート機能　④統括運営機能

9

石川県白山市の事例⑥

市民協働で創るまちづくり

地区町内会長会・町内会と地域コミュニティ組織の関係

地区町内会長会 町内会	両方が大事	地域コミュニティ組織
世帯代表を中心とした合議組織 （男性中心・年齢層高め・同一価値）	〈活動主体〉	人を単位とした「この指とまれ」 （女性・若者・キーパーソン）
「やらなければならないこと」 （会合・神事・財産管理等）	〈活動内容〉	「やりたいこと」 （世代を繋ぐ・地域の繋がりづくり・人材の育成・地域活動の見直し等）
決められた方法を確実に実施 （活動の硬直化 ⇔ 義務的活動）	〈活動方法〉	地域の実態や構成員の指向に応じて （選択的・内発性の担保・各種団体との連携）

課題：人手不足、マンネリ化、
町内会長の毎年交代 など

10

石川県白山市の事例⑦

市民協働で創るまちづくり

地域コミュニティ組織モデル地区の主な取り組み①

多様な住民の声を聞く、話し合い、若者・女性への発信

・中学生以上全住民アンケート
・ワークショップ
・地区行事の見直し
・新規事業の検討
・ホームページやＳＮＳの発信など



みかわまちづくりカフェ

11

石川県白山市の事例⑧

市民協働で創るまちづくり

地域コミュニティ組織モデル地区の主な取り組み②

共助の活動、多世代・新旧住民の交流

- 防災講演会、防災体験会、防災士意見交換会
- 公園の清掃、芝桜の植栽
- 農園活動
- まち歩き
- 空き家の活用
- 通信アプリの試行など



山島地区の美しいまちづくり運動



地域コミュニティ組織活動事例集

事例集ダウンロード用QRコード

12

石川県白山市の事例⑨

市民協働で創るまちづくり

主な成果と課題（R6.6月全組織アンケートより）

【成　果】

- 防災の体制づくりを進めることができた
- 行事の統合や見直しを行うきっかけが生まれた
- 課題解決の体制が整備された
- 他の団体から連携したいという声が多くなったなど

【課　題】

- 地域コミュニティ組織とコミュニティセンターに対する認識
- 子育て世代等の青年層の活動参加が少ない
- 会員の高齢化
- 新規事業により負担増
- 人材確保、掘り起こしなど

20

大野地区の取組

（地域課題解決検討会）

大野地区全体

❑地域課題に取り組む組織づくり

（地域課題解決検討会の発足）



❑地域課題の見える化

（中学生以上全住民アンケート）

❑若者・女性の地域参画、主体的な取組の実践

（プロジェクトチームの発足、フォーラムやイベントの企画運営）



第３回地区別座談会　意見交換用ワークシート

	令和７（2025）年度　町内会の年間行事スケジュール											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
町内会・地区の行事												
交流・連携の可能性（担い手・町内）												
実現に向けてどのように進めるのか												

＜参考資料２：参加者アンケート＞

◆意見交換で言い足りなかったこと、その他の意見・アイデア（自由記述）

第１地区

・地域のリーダーを育成する。
・町内の夏祭りには大勢集まるが、そこまで積極的でない人もいる。よく出る人は熱心だが、出てくる大人が固定されている。
・自然豊かなことが最高に誇れることである。将来楽しく過ごせるような地域にしていきたい。コミュニケーションの大切さを感じる。
・「自然が豊富」について追加すると、地域固有の希少な花では、キキョウやオミナエシも大野市内にわずかながら生育しており、種を取って増やすこともできる。花いっぱい運動でそういったものの種や苗を配ると生物多様性の保全にもなると思った。
・食事をする事は楽しみのひとつであり地域にも子ども食堂のような形ができれば良い。
・他の地区の方々と意見交換ができたことは有意義だった。
・市役所職員や市議会議員の多数の参加を望む。
・町の行事をなるべくやめていくような方向でいいと思う。
・若い方に運営など主体的に取り組んでいただけるよう、高齢になられたこれまでの方々は、あまりうるさく物言いせずにどんどん応援してあげて欲しい。また、参加に関しても「一家に代表一人」という昔からのイメージや意識を変える努力をしないといけない。
・人口減少等のマイナスの要素は大きく変わらないし、そのことを悪く捉えずに、行事などで上手くやっていることなどを評価し、バージョンアップしていくと良いのではないか。特に南校の芝生を利用した運動会、夏祭り、イルミネーション、クリスマス会、レクリエーションなどを行っていくと良いと思う。芝生を活かしていきましょう。
・「子どもみこし」を毎年しているが、子どもの人数が少なくなり、新しい神輿なのでもったいないということで、集まって話し合いをした。元気なお年寄りも多くいるため、みんなで神輿をしようということになり、続けていけると思っている。
・座談会に参加させていただき、改めて皆さんが熱心に町内のことに取り組んでおられることを感じた。やはり若い力が必要なので活発な地域参加をしていただけたら良いと思う。
・エキサイト広場に立てられたキャラクターの等身大パネルのアニメ「2.43 清陰高校男子バレー部」でもっと人を呼べないか。

第２地区

・若い人の参加があって良かった。若い人の考えを取り入れることが必要。
・参加者の年齢層が高く、意見交換の中身が「高齢者による高齢者のための」会になっていると感じる。30～40 歳代の参加が必要。
・各町内会に対して、若年層の参加を呼びかける必要がある。最初から参加年齢層を指定して始めるべき。区長さんに頑張ってもらう。
・少子化は子どものイベントだけでなく子育て世代の働く場所、産業、生活環境の充実が必要。
・小学生の子どもはスポ少に加入しているため、日曜日のイベントの参加は厳しい。町内イベントとスポ少の試合等を調整してもらえると良い。
・まずは顔の見える関係を築かないといけない。顔と名前が一致するとコミュニティとして強

いのでは。例えば、行事の時に名札をつけてもらう（○○班△△とか）。
・世代間で参加できることややりたいこと、やるべきことのギャップがあると思う。子ども会＋敬老会、清掃～防災訓練～子ども会を合わせるなど、行事を抱き合わせでしたらどうか。
・防災訓練は、いくつかの町内合同で開催できると思う。
・何事も全て人である。キーマンの区長を支える仕組みづくり（人づくり・意識づくり）が課題である。この課題は解決できる課題であることを認識したい。

第３地区

・毎回顔合わせる事で話しやすくなり、深い意見が出るようになった。
・少子高齢化問題について、１地区だけで解決できる問題ではなく、市全体として取り組んでいかねばならない。市ではいろいろな策を講じていると思うが市民に伝わっていないのでは。
・何事においても、まず一人でも活動し、後に賛同してくれる人が出てくるようになれば OK、good。ボランティアの意識を持ってくれればなと思う。
・座談会に、女性や若者の参加者を増やした方が良い。区長会になってしまっている。
・壮年会やリーダーの作り方など大変参考になった。
・他の町内の話を伺い、女性の力の大きさが分かった。女性をイベントなどに取り込んでいくことにこれからも力を入れていきたいと思う。
・婦人会などの既存の組織及び行事などを維持していくことが大事だと思う。
・行事など参考になることが多かった。どの地区も女性の参加が少ないということだが、参加は本当に難しく課題が多い。
・年齢が高い人たちを集めてもダメ。小中学校へ通う子どもの親に集まってもらうことができる企画をして欲しい。
・地区の問題点を出すことで良い方向になったらいいと思う。
・将来の大野市を担う若者達がこの会に参加して欲しいと感じた。
・子どもみこし等は合同で実施することも必要。町内間の相談の場を設けると良い。
・私の区は世帯数が少ないので隣の区などの他の区と合併できないか。行政の方に考えてもらうことができないか。
・これまで町内主体で行事を実施してきたが、各行事で実行委員会を立ち上げて、区民主体で企画・運営をする方法に変わってきており、内容も充実してきている。
・座談会の参加者の年齢を下げる。20 歳代～40 歳代の若い人達の意見を聞き、取り入れる。

第４地区

・皆さんの意見が聞けて、楽しくもすっきりもした。先に立つ人が引っ張っていってくれたら、協力したいと思った。
・進学・就職で若者が都会へ行くのはある程度仕方のないこと。むしろ、この時代見聞を広める意味では歓迎されるべきことだが、「いつか戻ってきたい」「私が育ったあの場所で子育てをしたい」と思える教育・機会（例えば祭りなど）を大切にすることが、本当の意味での郷土愛を育むことにつながると思う。
・駅に自転車を設置して、自然豊かなサイクリングロード等をつくったらどうか。
・日吉神社のお堀を潰して公園にし、日吉神社の祭礼に使用したらどうか。
・なんらかのイベントを立ち上げたい（明倫区）。
・まずは町内のコミュニケーションを密にすることが大切だと思う。
・話し合いをもっともっとした方が良いと思う。

・今回、近い区で集まってグループを作ってもらい話しやすかった。この座談会もそうだが、まずは顔を知り、話し合えることが大切だと感じた。
・子ども、若い方、高齢者と参加できるような交流の場が取り組めたらと思った。

第５地区

・他地区の内容を知りたい。大野地区全体の意見が事前に知りたい。
・他（県外）のアイデア例を参考にしたい。
・住民でできる事をもっと掘り下げて話がしたい。「自分たちでできそうなこと」に絞って話をすると前に進みそう。
・空き家・空き地の課題解決として、行政のリーダーシップが不可欠と敢えて言及したい。
・大野市は、固定資産税を徴収する過程で、所有者情報は管理している。つまり、情報は行政が握っている。それをどう活用するかにかかっている。情報同意を行政が取り付け、空き家・空き地の解消に向け、民間の力や住民の協力を得て、プラットフォームを形にしていく。以上の取組を行政に期待したい。
・色々な話し合いをしたが、時間が短く、皆様から意見が出て、グループでの話し合いはとても良いが、１つずつの意見が出尽くさないうちに時間が来てしまい、残念な点もあった。
・若者は地区内にいないに等しいので、増やすための方策は地区レベルでは解決できない。高齢化率が高くなっている中でコミュニケーションが図られていないため、楽しい行事を増やすなど接する機会を増やすことが大切だと思う。
・子ども達が活動している行事や集まりにできるだけ親も参加して支えたり、一緒に楽しんだりしていくことにより、子ども達の参加意識の定着が図られていくのではないかと思う。
・清掃などの行事に育成会の参加をお願いしてはどうか。
・若い人の絶対数が少ない以上、若い人の参加を求める方向性よりも幅広い世代から担い手をどう探るかを検討する方が現実的ではないか。

第６地区

・人口減少の要因の一つに、積雪が多い地域特性がある。雪が降るから、家を建てるなら、福井市へ行く方が多い実情を踏まえ、消雪・融雪環境をもっと充実していかないと家を建てる人は市外へ流出していくことを止められない。
・ＰＲのＩＴ化。
・若者が参加できるようにしたらどうか。
・座談会の主旨をもう少しはっきりさせた方がよい。自立していくために何をしたらいいかを話し合った方がいい。
・誰もがふらっと集まれる場所があると良いかも。
・地域にマメな人がいるといい。
・まちなかにスーパーかコンビニが欲しい。高齢者も観光客も必要。大きな地面が欲しい。
・極力、企業誘致・工場誘致に努め、若者の働く場所を確保して欲しい。
・横のつながりで若者や子ども中心の行事があればいいかなと思う。
・子どもみこし、町内 BBQ、カッパ天国などのイベントには石灯篭会館の建物が重要。今後も継続して維持していくことが必須。

【第２部－住民等参加推進】

（１）プロジェクトチーム会議

１）趣旨・目的

・プロジェクトチームは、地域課題解決に向けて地域地区（主に若者と女性）と地区団体（主に各校区）から推薦されたメンバーにより構成され、取組の企画や調査方法の検討を行う組織です。

・今年度は、昨年度の課題で挙げられていた「大野地区で活躍する主体や団体等の把握、人的ネットワーク拡大に向けた機会づくり」、「若者（高校生）のアイデアの実現化」について、プロジェクトチームが主体となって企画検討から運営を行い、まちづくりのリーダーとしての意識醸成や経験を積む機会となりました。

２）メンバー構成

・プロジェクトチームの人数や年齢層、男女比は以下の表のとおりです。

年齢層	人数	うち男性	全員に対する男性の割合	うち女性	全員に対する女性の割合
20 歳台	0 人	0 人	0.0%	0 人	0.0%
30 歳台	4 人	3 人	20.0%	1 人	6.7%
40 歳台	4 人	2 人	13.3%	2 人	13.3%
50 歳台	3 人	3 人	20.0%	0 人	0.0%
60 歳台	3 人	2 人	13.3%	1 人	6.7%
70 歳台	1 人	1 人	6.7%	0 人	0.0%
合計	15 人	11 人	73.3%	4 人	26.7%

3）開催概要

・プロジェクトチーム会議は、基本的にはワークショップ形式とすることで、議論の活性化を図りました。また、より多くのメンバーに出席してもらうために、グループラインで会議の日程調整や出欠確認を行うとともに、適宜必要な情報の共有や意見聴取など双方向のコミュニケーションを図りながら進めました。さらに、会議で決まったことはニュースレターを発行（計 5 回）し、メンバー間の情報共有を図りました。
・具体的な取組について、「大野地区で活躍する主体や団体等の把握、人的ネットワーク拡大に向けた機会づくり」では、地域おこし協力隊とトモルカフェへのヒアリングを行い、プロジェクトチームの活動の周知と連携の可能性について検討を行いました。
・「若者（高校生）のアイデアの実現化」について、大野地区レクリエーション大会とのタイアップによる「大野の水を活かした流しそうめんイベント」の企画検討・運営と、「越前おおの冬物語」や奥越明成高校とのタイアップによる「雪だるま・ミニ灯ろうづくりイベント」の企画検討を行いました。
・「大野の水を活かした流しそうめんイベント」では、プロジェクトチームメンバー同士の交流と流しそうめんの事前練習を兼ねたプレイベントを実施し本番に臨みました。また、「雪だるま・ミニ灯ろうづくりイベント」では、奥越明成高校生の生徒の皆さんにアイデアをいただき、企画の検討を行いました。



ＰＴ会議の様子①



ＰＴ会議の様子②

開催日	会議名・イベント名	協議内容・その他
6 月 20 日（木）	第 11 回 プロジェクトチーム会議	・地区別座談会について ・今年度のプロジェクトチームの取組について ・今後の予定について
7 月 20 日（土）	地域おこし協力隊報告会・ヒアリング	・活動内容の共有 ・意見交換
7 月 22 日（月）	トモルカフェヒアリング	・活動内容の共有 ・意見交換
7 月 31 日（水）	第 12 回 プロジェクトチーム会議	・高校生のアイデアを活かすためのイベントについて ・今後の予定について
8 月 20 日（火）	「大野の水を活かした流しそうめんイベント」の準備	・イベント会場と備品の確認
8 月 25 日（日）	「大野の水を活かした流しそうめんイベント」のプレイベント	・本番に向けた当日の進め方の確認、プロジェクトチームメンバー同士の交流
9 月 22 日（日）	「大野の水を活かした流しそうめんイベント」の本番	・大野地区レクリエーション大会とのタイアップによるイベントの実施 ※詳細は「第 3 部-地域住民の意識啓発」を参照。
10 月 22 日（火）	第 13 回 プロジェクトチーム会議	・9/22（日）実施のイベントの振り返り ・高校生のアイデアを活かすためのイベントについて
12 月 2 日（月）	第 14 回 プロジェクトチーム会議	・高校生のアイデアを活かすためのイベントについて
12 月 23 日（月）	第 1 回奥越明成高校との意見交換	・高校生の意見聴取 ※詳細は「第 3 部-地域住民の意識啓発」を参照。
1 月 17 日（金）	第 2 回奥越明成高校との意見交換	・高校生の意見聴取 ※詳細は「第 3 部-地域住民の意識啓発」を参照。
1 月 23 日（木）	第 15 回 プロジェクトチーム会議	・高校生のアイデアを活かすためのイベントについて ・高校生の意見聴取結果の報告
2 月 8 日（土）	「雪だるま・ミニ灯ろうづくりイベント」	※タイアップ事業である「越前おおの冬物語」が大雪で中止となったため、プロジェクトチームの「雪だるま・ミニ灯ろうづくりイベント」も中止となった。
3 月 13 日（木）	第 16 回 プロジェクトチーム会議	・今年度の振り返りについて ・次年度の取り組みについて

ｉ）大野地区の地域団体へのヒアリング

日時・場所・参加数	①地域おこし協力隊 ・日時：令和 6 年 7 月 20 日（土）午後 3 時 30 分～午後 4 時 30 分 ・場所：学びの里「めいりん」　2 階　洋室大 ・参加者：地域おこし協力隊 5 名、 プロジェクトチームメンバー7 名、事務局 6 名 ②トモルカフェ ・日時：令和 6 年 7 月 22 日（月）午後 5 時 30 分～午後 7 時 45 分 ・場所：結とぴあ　2 階　205 ・参加者：トモルカフェ 1 名、 プロジェクトチームメンバー1 名、事務局 6 名

ヒアリング結果のまとめ①

7/20 地域おこし協力隊

◆報告内容

・関係人口の創出（亀山湯）、まちなかのにぎわい創出（まちの印刷室）、
エコツーリズム（星空）、空き家の利活用、創業支援

◆ＰＴとの質疑応答

・好きなことや得意なことを通じて、関われた方が良い
・今の若い人は誰かに必要とされることにやりがいを感じるのでは
・イチナナバル、荒島旅舎、地域イベント、自身が作成する情報誌、
共通の趣味で情報収集、関係性づくり

ヒアリング結果のまとめ②

7/22 トモルカフェ

◆活動概要

・活動内容：放課後の子どもの居場所づくりにより、子どもの見守り、
親とのコミュニケーションを図っている。（今年で３年目）
・活動日：結とぴあ　第１、３、４月曜日　15時30分～18時
上庄食堂　第２月曜日
・情報発信：Instagram、グループLINE（ＱＲコード）

◆ＰＴへのアドバイス、連携の可能性

・名水を活かした流しそうめんなど、名水づくしのイベントはどうか。
綿菓子やボールすくいの道具を持っているので、連携することは可能。
・プロジェクトチームは、「まちづくりのハブ」になれると良いのでは。
大野地区内で個々にしている取組・担い手を面でつなぐ。

ii）大野の水を活かした流しそうめんイベントの検討過程

時期	検討の流れと内容	
6月	昨年度のフォーラムの振り返り、今年度の取組の方向性の検討	昨年度のフォーラムについて振り返りを行い、高校生のアイデアの実現に向けて検討しました。
7月	大野の水を活かしたイベントの企画検討①	イベントの開催にあたって、企画概要や準備物、当日までの流れを確認しました。
8月	プレイベントの実施	プロジェクトチームと事務局のみで当日の段取りや役割分担を確認し、メンバー同士の交流を図りました。
9月	当日開催	当日はプロジェクトチームメンバーが中心となって設営や運営を行いました。
10月	イベントの振り返り	イベントの成果や改善点について共有しました。




流しそうめんの事前練習を兼ねたプレイベントの様子

iii）雪を活かした雪だるま・ミニ灯ろうづくりイベントの検討過程

時期	検討の流れと内容
10月	雪を活かしたイベントの企画検討①
11月	雪を活かしたイベントの企画検討②
12月	
1月	高校生との協議①
	高校生との協議②
2月	雪を活かしたイベントの企画検討③
	当日開催

より多くの方に参加してもらうため、越前おおの冬物語とのタイアップの打診と企画の検討を行いました。

高校生の方に、会場レイアウトのデザインやそれに必要な材料等についてアイデアをいただきました。

当日の段取りや注意点、準備物について確認・検討を行いました。

※大雪のため開催中止



プロジェクトチーム会議での検討の様子



高校生との意見交換の様子

４）成果と課題

【大野地区で活躍する主体や団体等の把握、人的ネットワーク拡大に向けた機会づくり】

・大野地区を含む市内全域で地域活性化に向けて活動する地域おこし協力隊と、子どもの居場所や子育て支援を行っているトモルカフェの方に対してヒアリングを行いました。プロジェクトチームとヒアリング先の双方の活動内容を共有するとともに、連携の可能性について意見交換を行いました。今年度は具体的に連携したイベントの実施までは実現できませんでしたが、地域おこし協力隊の方からは「今の若い人は誰かに必要とされることにやりがいを感じるのではないか」「好きなことや得意なことを通じて関われた方が良い」「イチナナバル・荒島旅舎・地域イベント、自身が作成する情報誌、共通の趣味によって、大野の情報収集や関係性づくりを行っている」といった若い世代（20 歳代～40 歳代）が持つ価値観や地域への関わり方について把握することができました。また、トモルカフェの方からは「名水を活かした流しそうめんなど名水づくしのイベントはどうか、イベントの道具などもあるので今後連携することは可能」「プロジェクトチームは大野地区内で個々にしている取組・担い手を面で繋ぐなど、まちづくりのハブになれると良いのではないか」といった前向きなご意見をいただくことができました。子どもやその親世代を巻き込んだ企画については、今後連携の可能性を見据えつつ、企画の検討をしていくことが望まれます。

【高校生のアイデアの実現化】

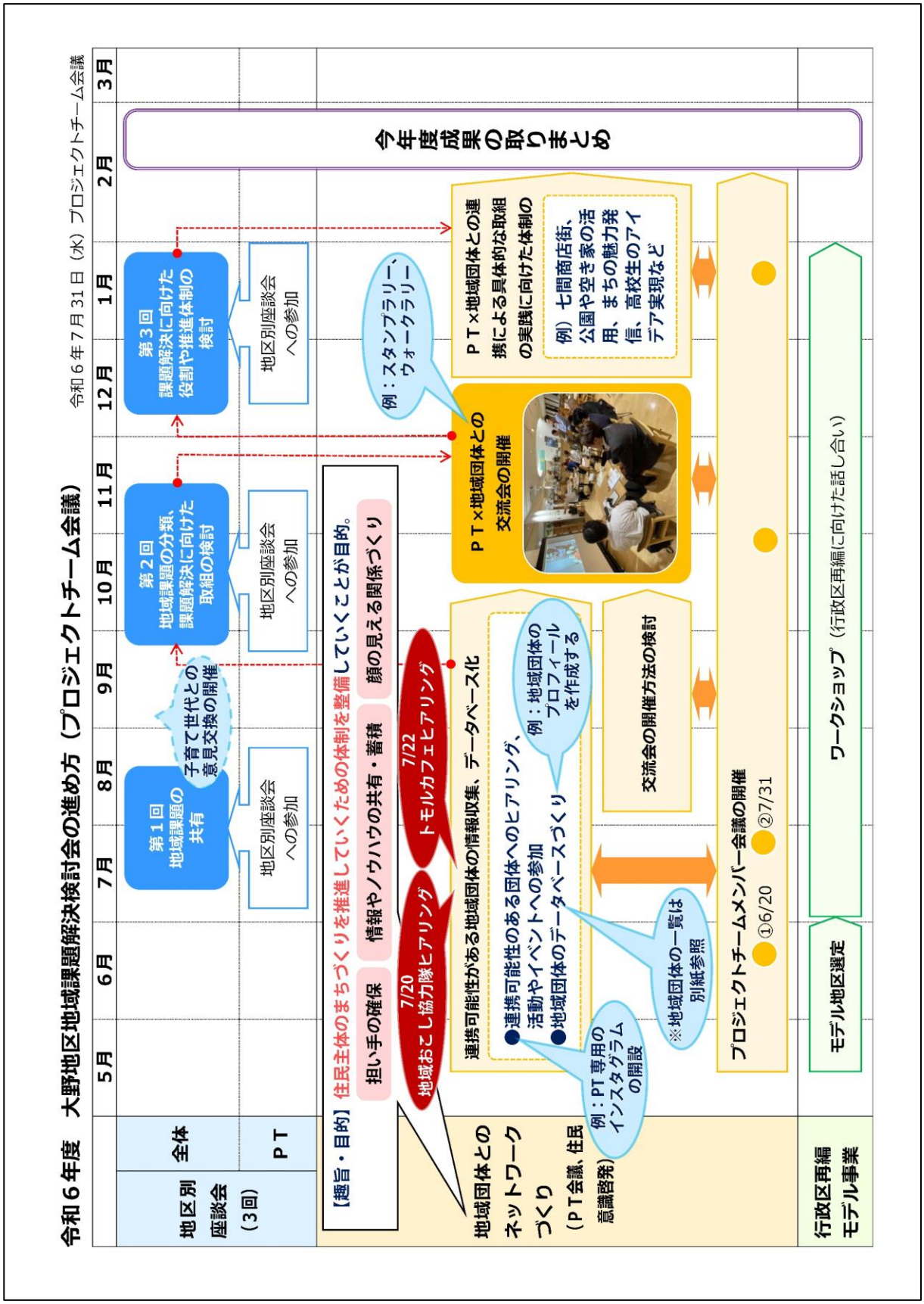
・「大野の水を活かした流しそうめんイベント」については、プロジェクトチームメンバー同士の交流と本番に向けた練習を行うことで、メンバーから「メンバー同士の交流ができ楽しみながら活動に取り組めた」といったご意見があるなどメンバー同士のコミュニケーションの活性化を図りながら進めることができました。今後の課題としては、一過性のイベントで終わるのではなく、今回のノウハウや経験を活かし、住民同士の更なる交流機会促進に繋げていく必要があります。

・「雪を活かしたイベント」については、企画段階から奥越明成高校の意見を反映させ、イベント会場のレイアウト案を一緒に作っていくことで、プロジェクトチームメンバーから企画に対する前向きな意見が出るなど、活動に対するモチベーションや主体性の高まりが見られました。今回は大雪のため実施できませんでしたが、高校生へのフォローアップ結果や提案を活かし、今後どのように活かしていくのか検討が必要です。

・今年度の取組を通じて、プロジェクトチームメンバーは、高校生などより若い世代の想いやアイデアを受け止め、実現化する活動に意欲的であることが把握できました。若い世代が郷土に愛着や誇りを持つことは、将来の地域の担い手の確保に繋がるため、今後も引き続き取り組むことが望まれます。

＜参考資料１：会議資料＞

◆令和６年度プロジェクトチーム会議の進め方（案）



大野地区で活動する地域団体一覧

交流・賑わい

越前おおの荒島社



●**活動内容：**
- 地域のデザインコンサルティング、荒島旅舎の経営、旅舎BARの経営、イベントの企画立案運営

●**活動場所：**
- 元町 ツイタチビル（西校区）

交流・賑わい

七間大盛会



●**活動内容：**
- 七間朝市、七間楽市（4月～11月）の運営

●**活動場所：**
- 七間通り（西校区）

交流・賑わい

カンケイ商店



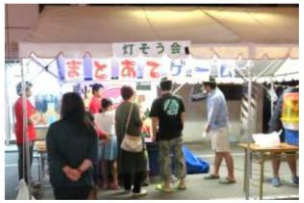


●**活動内容：**
- 空き家を利活用した共有オフィス＆地産地消の洋食酒場の運営

●**活動場所：**
- 元町（西校区）

交流・賑わい

灯そう会



●**活動内容：**
- 大野を盛り上げるための若者を中心に、市や公民館とタイアップも含めて様々なイベントを実施。

●**活動場所：**
- 大野市内全域

交流・賑わい

地域おこし協力隊



●**活動内容：**

・地域おこし活動支援や農林漁業の応援、住民の生活支援など、「地域協力活動」に従事

●**活動場所：**

・大野地区（西校区）他

●**定期の活動：**

・七間通りの空き家改修、亀山湯の再生・利用促進

交流・賑わい

横町編集部



●**活動内容：**

・空き家を活用した地域拠点「横町スタジオ」の運営、地域と連携したソーシャルコンポストによる生ごみの堆肥化

●**活動場所：**

・日吉町（西校区）

子育て

おおのそだち



●**活動内容：**

・子育て世代に向けた情報発信、大野のイベント・グルメ・スポット・大野の魅力をＳＮＳで発信、移住定住のイベント



●**活動場所：**

・大野市内

子育て

結 student

●**活動内容：**

・不登校の子どもの支援

●**活動場所：**

・大野市内

子育て

上庄食堂（トモルカフェ）



●**活動内容：**

・放課後の子どもの居場所づくり

・子ども食堂、親子で利用できるカフェ、自習室の開放など

●**活動場所：**

・結とぴあ

・稲郷（上庄地区）

子育て・若者

オオノクリエイトクラブ

●**活動内容：**

・小、中学生に美術、音楽、芸能…様々な文化活動に触れる機会を創出

●**活動場所：**

・大野市内

子育て

越前大野おやこ寺子屋

●**活動内容：**

・親子で参加できるイベントの実施、婚活イベントの実施

●**活動場所：**

・善導寺（錦町）



子育て

MaMaya kitchen（ママヤキッチン）

●**活動内容：**

・ランチ・カフェの営業、子育て世代や女性を対象としたセミナーの実施

●**活動場所：**

・清和町（東校区）



食・地産地消

nishoku（にしょく）



●活動内容：
・お弁当の販売、料理教室やイベントのケータリング、学校給食のレシピ開発

●活動場所：
・日吉町

高齢者

まちなかカフェちまた

●活動内容：
・常設型サロン（喫茶室）の運営。高齢者や障がい者など、地域の人の閉じこもり防止や、孤独感の解消に取り組んでいる。

●活動場所：
・本町



●定期の活動：
・運営会議：年２回、役員会：月１回

観光

観光ボランティアガイド大野



●活動内容：
・観光客のニーズに応じた情報を提供し、町中を案内する。

●活動場所：
・大内山家・寺町、七間通り、御清水（西校区）他

●定期の活動：
・例会：月１回・水曜日　19 時～21 時

観光

越前こぶし組



●活動内容：
・人力車で観光客を案内するサービスを提供

●活動場所：
・大野市内

●定期の活動：
・春分の日～11 月末の土・日・祝日（雨天中止）

文化

越前大野おどり保存会

●活動内容：

・おおの城まつりや小学校などで「大野音頭」や「しっちょいな節」などおどりの伝承に取り組んでいる。

●活動場所：

・大野地区　他



文化

越前大野落語研究会

●活動内容：

・大野市在住のアマチュア落語家による寄席を開催

●活動場所：

・荒島旅舎



文化

おおの城まつり演奏チーム「音人」

●活動内容：

・おおの城まつりを盛り上げるために結成され、越前大野おどり保存会や様々な団体と連携している。

●活動場所：

・大野地区　他



文化

越前おおのひなまつり実行委員会

●活動内容：

・ひな人形を飾る文化を伝えるため、子どもたちが巣立った市内外の家庭から譲り受けた人形を展示している。



●活動場所：

・平成大野屋 平蔵・はいから茶屋、道の駅越前おおの荒島の郷文化伝承室　など

＜参考資料２：ニュースレター＞

◆第 11 回プロジェクトチーム会議

大野地区

令和 6 年度 大野地区地域課題解決検討会

プロジェクトチーム会議が開催されました！



今回の会議で確認したことや話し合ったことについて、以下のとおり、ご報告させていただきます。

会議結果の概要

開催日時 ： 令和 6 年 6 月 20 日（木） 19 時 00 分～20 時 40 分まで
場　　所 ： 学びの里「めいりん」2 階　洋室（中）
参 加 者 ： プロジェクトチームメンバー　8 名、事務局　6 名
協議事項 ：以下の（1）～（3）について

協議事項の結果について

【プロジェクトチーム会議での意見の総括】

今年の活動方針として、**大野地区の住民の方の様々な意見や話を聞くためこちらから「出向くこと」**、**意見を聞くだけのパフォーマンスにならないように「実現すること」**、**意見を実現するために多様な活動団体と「連携すること」が重要**であるという意見を頂きました。

（1）地区別座談会について

■ **地区別座談会の開催概要について報告**（事務局）
■ **地区別座談会の開催方法について意見交換**

	主な意見（抜粋）
子育て世代や学生に参加してもらうためのアイデア	**■全体で共通すること** ○子育て世代（特に小さなお子様がいるお母様方）や学生は、平日の夜は参加できないため、こちらから出向いて意見を聞くべき。 ○時間は限られているため、10～15 分といったコンパクトな時間に収めるべき。効果的に聞き出せるよう、しっかりとテーマを設定する等の準備が必要（パッと答えられるような質問にするなど）。 **■学生に関すること** ○学生が集まれる場を提供している、結とぴあのトモルカフェに出向く。特に夏休みは学生が集まりやすいため、意見を聞きに行くチャンス。 **■子育て世代に関すること** ○小さなお子様がいるお母様は、飛石氏のベビーヨガ教室や読み聞かせがある図書館等に出向くのはどうか。
地区別座談会に続けて参加してもらうためのアイデア	○無理に多くの参加者を集めるより、10 人程度の少ない人数でも構わないので、意欲の高い人で、実のある会合にするべき。 ○１回目はできるだけ楽しい内容で進め、出てきた意見を何等かの形で実現や実践することができると、意見を出すことに前向きになり、２回目以降も参加してくれるようになると思う。

（裏面もご覧ください） 1

（2）今年度のプロジェクトチームの取組について

■ **今年度の取組案について説明**（事務局）

■ **今年度の取組について意見交換**

・事務局からＰＴメンバーには関心がある団体があれば、グループ LINE でメッセージを入れて頂くようにお願い。

	主な意見（抜粋）
ＰＴの活動方針	○意見を聞くパフォーマンスにならないように、実践と実現が大事。 ○「こちらから出向くこと」と「活動団体と連携すること」が重要。
大野地区内で活動する団体との交流	○ＰＴと活動団体の交流の場だけでなく、活動団体同士の交流の場をプロデュースできるとよい。 ○多くの活動団体に話を聞きに行く。相手方の都合等があるので、今回のＰＴ会議で紹介してもらった活動団体全てに声をかけて、都合の合う活動団体と話をする機会を設ける。  ○まちづくりをしている団体や担い手にＰＴ会議に来てもらい、話をしてもらう。（例えば、地域おこし協力隊の三浦氏、山本氏等） ○7/20 に地域おこし協力隊の発表会があるため、発表会後に地域おこし協力隊の方とお話しをするのはどうか。
活動団体との連携によるアイデア等	○子どもが集まれる児童館代わりの場として空き家を活用する。 ○出産後の母親の悩みは非常に大きいため、ベテランの支援が必要。 ○若い人が活躍できるよう、まちづくりの土台はベテランでつくっていく必要がある。 ○昨年度のフォーラムに参加してくれた高校生の意見を形にする。この時期であれば亀山で名水を用いた流し素麺が現実的か。
ＰＴの周知、メンバーの勧誘	○各町内の総会で、ＰＴの活動を知っている人はほとんどいない。町内レベルで周知するための方法やツールを考える必要がある（例：ＰＴの活動内容を報告できるビデオを流す）。 ○大野地区内の活動団体の方にＰＴメンバーになってもらってはどうか。
その他	○次回のＰＴ会議までに先行して取り組んでいるコミュニティセンターの事例があれば教えて欲しい。 ○ＰＴ会議は日中・夜の２部制の開催がよい。

（3）今後の予定について

■**地域おこし協力隊の発表会にプロジェクトチームメンバーが参加する。発表会後に、地域おこし協力隊の方とプロジェクトチームメンバーで意見交換会を行う**（最大 1 時間）。

【地域おこし協力隊の発表会の詳細】

○日時：令和 6 年 7 月 20 日（土）　13 時 30 分～15 時 30 分

○場所：学びの里「めいりん」

2

◆第 12 回プロジェクトチーム会議

大野地区

令和 6 年度 大野地区地域課題解決検討会

プロジェクトチーム会議が開催されました！



今回の会議で確認したことや話し合ったことについて、以下のとおり、ご報告させていただきます。

会議結果の概要

開催日時 ： 令和 6 年 7 月 31 日（水） 19 時 00 分～20 時 40 分まで
場　　所 ： 学びの里「めいりん」1 階　ランチルーム
参 加 者 ： プロジェクトチームメンバー　6 名、事務局　6 名
協議事項 ：以下の（1）について

協議事項の結果について

【プロジェクトチーム会議での意見の総括】

★昨年度フォーラムの高校生の意見の実現に向けて、**9/22 大野地区レクリエーション大会（場所：エキサイト広場）で名水を使った流しそうめんイベントを行う方向で進める**。

★その約 1 ヶ月前に、**流しそうめんの練習とＰＴメンバー同士の親睦**のため、**プレイベント（場所：学びの里めいりん）を行う**。※8/25、31、9/1 で日程調整をする。

★衛生管理や道具の準備や段取りなど検討することが多いため、**グループ LINE を最大限活用しながら進めていく**。

（1）名水を活かしたイベント開催について

■ **地域おこし協力隊・トモルカフェへのヒアリング結果の報告**（事務局）

■ **名水を活かしたイベント開催について意見交換**

（イベントの経緯・目的）

○昨年度のフォーラムで高校生から、大野の魅力である雪や名水を使ったイベントをし　てはどうかという意見があり、それを受けて、ＰＴメンバー会議で時期的に雪は厳しいため、名水を使ったイベント（流しそうめん）を行ってはどうかという意見があった。

○トモルカフェさんへのヒアリングで、名水を活かした流しそうめんは、子どもやその親にニーズがあること、実施する際は縁日の道具もあるため連携することは可能であるとの話をいただいた。

○それを踏まえ、多世代や地域の団体との交流を目的に、名水を活かした流しそうめんのイベント開催についてＰＴメンバーで意見交換を行った。



（裏面もご覧ください）1

	主な意見（抜粋） ●：ＰＴメンバー　○：事務局
流しそうめんのイベントについて	●名水を活かした流しそうめんのイベントを実施する方向で良い。 ●亀山の斜面で流しそうめんを行うのはハードルが高い。もう少しハードルを低くして進めてはどうか。 ○9/22 大野地区レクリエーション大会の一角で、流しそうめんのイベントを行うのはどうか。 ⇒8/1 に大野公民館で会場のスペースを確保済み。 ●9/22（日）のイベントに向けて、練習として１ヶ月前にＰＴメンバーだけでプレイベントを行ってはどうか。 ●8/11（日）の横町通りの祭りに合わせてプレイベントをする案もあるが、スケジュール的に難しいのではないか。
イベント開催に向けて検討すべきことについて	●食品の安全衛生管理（食中毒）などの手続きや管理責任者の設置、道具・食材の準備や段取りを早急にリストアップする必要がある。 ●新型コロナウイルスの感染者が増えてきているため対策が必要。例えば取り箸と食べる箸を分けるといった対策が考えられる。 ●子どもの安全管理をしやすいように卓上で水が循環するタイプはどうか。暑い日に行うので、名水を使う意味も込めて、足元にビニールプール等で冷水を流すのはどうか。 ●大きいビニールプールは、三番商店街の「かっぱ天国」で使われているので、借りられるかもしれない。
流しそうめんのプレイベントについて	●一度も顔を見ていないＰＴメンバーがいるので、練習と親睦の意味も込めて、ＰＴメンバーと関係者（ＰＴメンバーのご家族等）だけでやるのはどうか。 ●LINE でスケジュール調整をすればよいが、グループに入っていないメンバーもいる。 ○細かい調整は難しいので、スケジュール等が決まった段階で参加や準備をお願いする案内を出すことで対応したい。 ●終わった後に反省会も必要ではないか。 ●一度も来ていないメンバーは米村会長に確認してもらってはどうか。 ○メンバーのあり方については米村会長と相談させていただく。
名水を使ったアイデア	●水芸をされる芸人を呼ぶ、噴水のショー、水鉄砲大会

（２）今後の予定について

★大野地区レクリエーション大会での流しそうめんイベントの開催

・日時：９月 22 日（日）

・場所：エキサイト広場　※詳細が決まり次第、事務局から連絡する。

★流しそうめんプレイベントの開催

・日時：８月 25 日（日）、８月 31 日（土）、９月１日（日）のいずれかで調整中
　　いずれも午前 10 時～午後３時くらいまで

・場所：学びの里「めいりん」ピロティ　※詳細が決まり次第、事務局から連絡する。

2

◆第 13 回プロジェクトチーム会議

大野地区

令和 6 年度 大野地区地域課題解決検討会

プロジェクトチーム会議が開催されました！

今回の会議で確認したことや話し合ったことについて、以下のとおり、ご報告させていただきます。

会議結果の概要

開催日時 ： 令和 6 年 10 月 22 日（火） 19 時 00 分～20 時 30 分まで
場　　所 ： 学びの里「めいりん」1 階　ランチルーム
参 加 者 ： プロジェクトチームメンバー　8 名、事務局　6 名
協議事項 ：以下の（1）（2）について

協議事項の結果について

【プロジェクトチーム会議での意見の総括】

★提案者の大野高校生にもフィードバック（実施報告）を行う。
★今年度の下半期は、冬物語での雪灯ろうづくり、高校生と連携した郷土料理の取組の実施を検討する。
★地区別座談会の結果は、ＰＴメンバーにもフィードバックを行い、来年度の活動にも活かす。

（1）大野の水を活かした流しそうめんイベントのふり返りについて

■ **参加者アンケート結果の報告**（事務局）
■ **ＰＴメンバーからの感想や今後に向けた改善点**

●ＰＴメンバー同士で交流しながら楽しく準備できて良かった。
●レクリエーション大会に合わせて開催したのが良かった。当日のイベントは盛況で良かった。
●今回のイベントの内容はこれで構わないが、今後は大野の「名水」をもっと押し出し、地域課題につなげられると良い。
●提案してもらった大野高校生に対して、実施した旨のフィードバックが必要。



流しそうめんイベントの様子

（裏面もご覧ください） 1

（２）今後の取組について（令和６年下半期・令和７年度）

	主な意見（抜粋） ●：ＰＴメンバー　○：事務局
雪のイベントについて	●何か目的を持って仲間で活動することがまちづくりにつながるのではないか。何かのイベントにタイアップして取り組むのが良い。 ●1/25 の冬物語の雪灯ろうづくりの人手を募集しているが人数が集まらない。雪は業者に依頼して会場まで持ってきてもらう。 ●雪灯ろうは小さなものをたくさん並べれば良いのではないか。大きいものはハードルが高い。 ●大野高校のボランティア部にも来てもらってはどうか。 
郷土料理の取組について	●福井県では 2/7 がふるさとの日になっている。最近は郷土料理をつくる機会が少なくなっている。のっぺい汁など郷土料理をつくる体験はどうか。 ●明成高校では食育の取組を行っており、ふるさとの食材を使った駅弁の大会で入賞している。郷土料理で何かをするのであれば、高校生の活躍の場にしてはどうか。 ●1/25 の冬物語の時に、のっぺい汁を数量限定で作ってふるまうなど一緒に実施してはどうか。 
その他について	●市の財源や予算は大事に使うべきである。 ●地域課題解決検討会の流れが見えない。全住民アンケートや地区別座談会でまとめた課題の中から取り組みを始めてはどうか。 ●地区別座談会に出ているメンバーに自分達で取り組む意識があまりないのではないか。 ●いずれは地域住民主体で公民館を担っていくのが正解ではないか。 ○全住民アンケートでは大野地区全体の課題を把握したが、それを直ちに地域で取り組むのは難しいため、もう少しスケールダウンして、地区別の魅力や課題、優先して取り組むテーマの選定と自分たちでできることについて意見交換をしてもらった。今年度末に地区ごとに取りまとめを行い提示する予定。 ○来年度からはそれをもとに、地区ごとで何に取り組んでいくのかを地域で決めてもらいたいと考えている。その中で出た意見やアイデアについてＰＴメンバーで取り組むのも一つである。 ○ＰＴメンバーから希望があれば、来年度に地域主体の取組事例（住民サービスや施設の管理運営など）について視察に行くことも可能である。

2

◆第 14 回プロジェクトチーム会議

大野地区

令和 6 年度 大野地区地域課題解決検討会

プロジェクトチーム会議が開催されました！

今回の会議で確認したことや話し合ったことについて、以下のとおり、ご報告させていただきます。

会議結果の概要

開催日時 ： 令和 6 年 12 月 2 日（月） 19 時 00 分～20 時 30 分まで
場　　所 ： 学びの里「めいりん」1 階　ランチルーム
参 加 者 ： プロジェクトチームメンバー　7 名、事務局　5 名
協議事項 ：以下の（1）について

協議事項の結果について

【プロジェクトチーム会議での意見の総括】

★冬のイベントは、2/8（土）に変更となった。活動時間は 13 時～16 時 30 分頃まで。
★活動内容は、雪だるまやミニ灯ろうを作り、大手門広場の飾り付けを行う。
★当日は、奥越明成高校ボランティア部（7 名）も参加・協力いただく予定。どのように飾り付けを行うのか高校生の意見を聴取し反映する。
★活動の合間に皆で食べられる温かい料理も作れるよう検討・調整する。

（1）冬のイベントについて（冬物語とコラボ）

■ **冬物語の開催概要や進捗状況を説明**（事務局）
■ **企画検討で出た意見・アイデア**



●ＰＴメンバーや学生の負担を考えると、活動は午後からが参加しやすいのではないか。活動は、雪だるまやミニ灯ろうを作って、大手門広場を飾り付けてはどうか。
●できれば飾り付けのキャンドルの点灯も参加できると良い。点灯までの間は、参加者でのっぺい汁やホルモン焼きを食べて、温まるのでも良い。
⇒活動の合間に料理が作れるか事務局で確認・調整する。



●ＰＴメンバーだけで何かを作っても良い。例えば、大きな雪だるまや灯ろうをつくる、灯ろうで大野の文字を作るなど。
●参加した高校生に楽しんでもらえるよう、大手門広場の飾り付けは、どんな風にしたいか高校生の意見を反映した方が良い。
⇒12 月に高校生の意見を聞く場を設けられないか、事務局から高校に打診する。

1

◆第 15 回プロジェクトチーム会議

大野地区

令和 6 年度 大野地区地域課題解決検討会

プロジェクトチーム会議が開催されました！

今回の会議で確認したことや話し合ったことについて、以下のとおり、ご報告させていただきます。

会議結果の概要

開催日時 ： 令和 7 年 1 月 23 日（木） 19 時 00 分～20 時 00 分まで
場　　所 ： 学びの里「めいりん」1 階　ランチルーム
参 加 者 ： プロジェクトチームメンバー　6 名、事務局　6 名
協議事項 ：以下の（1）について

協議事項の結果について

【プロジェクトチーム会議での意見の総括】

★冬のイベントの活動時間は、2/8（土）13 時～16 時 30 分頃まで（撤収作業はなし）。
★ＰＴの役割分担は、以下のとおり。13 時にそれぞれの活動場所に集合する。
①雪だるま・ミニ灯ろうづくり（場所：大手門広場）
【担当：佐中氏、鈴木氏、勝矢氏、堂東氏、米村氏、飯田氏、井部氏】
※当日までにミニ灯ろうをつくって練習する。
②郷土料理「のっぺい汁」づくり（場所：学びの里「めいりん」ランチルーム）
【担当：尾崎氏、飛石氏】
★奥越明成高校ボランティア部（７名）も参加いただき、雪だるまを作ってもらう。郷土料理の「のっぺい汁」も試食いただく。
★必要な道具や材料は事務局で準備する。必要なものがあれば LINE で連絡いただく。

（1）冬のイベントについて（冬物語とコラボ）

■ **冬物語の開催概要や進捗状況を説明**（事務局）
・奥越明成高校の学生と意見交換を２回実施（12/23、1/17）。大手門広場の会場レイアウトへのアイデア、必要な材料について意見をもらい、取りまとめた。

■ **企画検討で出た意見・アイデア**

●ミニ灯ろうは当日までに一度作って、明かりの見え方を確認した方が良い。500ml のペットボトルなどで空洞を作った方が明るくなるのではないか。
⇒作成したものを LINE のグループチャットに挙げる。
●LED キャンドルや光る風船など、電池の持続時間は確認しておく。
●池に LED キャンドルや光る風船を浮かべる際は、流れていかないように紐や石などで固定した方が良い。

1

◆第 16 回プロジェクトチーム会議

大野地区

令和 6 年度 大野地区地域課題解決検討会

プロジェクトチーム会議が開催されました！

今回の会議で確認したことや話し合ったことについて、以下のとおり、ご報告させていただきます。

会議結果の概要

開催日時 ： 令和 7 年 3 月 13 日（木） 19 時 00 分～20 時 40 分まで
場　　所 ： 学びの里「めいりん」2 階　洋室（大）
参 加 者 ： プロジェクトチームメンバー　7 名、大野地区地域課題解決検討会　1 名
事務局　6 名
協議事項 ：以下の（1）～（3）について

協議事項の結果について

【プロジェクトチーム会議での意見の総括】

★来年度の取組について、**「引き続き高校生と一緒に取り組むこと」**、**「他団体と企画段階から関わりを持ち、横のつながりをつくっていくこと」**、**「ＳＮＳによる若者世代への積極的な発信」**等の意見がありました。

★ＰＴ活動で扱うテーマは地域社会全体に関わる大きな課題ではあるが、**大きな課題とのつながりを意識しながら、身近なことに取り組んでいくことで良いという共通認識**を持つことができました。

★プロジェクトチームの愛称をつけるなど、**参加するハードルを下げたり、楽しむ気持ちで取り組んだりすることが大切**であるという意見もありました。

（1）今年度の振り返りについて

■ **実績報告書（概要版）を説明**（事務局）

（2）次年度の取り組みについて

■ **PT の取り組みの進め方について説明**（事務局）

・次年度も引き続き、大野公民館が事務局を担うが、委託業者の支援はなくなる。
・活動費は、令和８年度まで県の補助がある予定。その後は、市の「結の故郷 地域が輝く交付金」の活用になると思われる。
・来年度の取り組みとしては、体協など各種団体との連携によるコミュニティ向上、フォーラムによる普及啓発、高校生との連携などが考えられるか。



（裏面もご覧ください）

1

■ **来年度の取り組みについて出た意見・アイデア**

主な意見（抜粋） ●：ＰＴメンバー　▲：大野地区地域課題解決検討会　○：事務局	
次年度の取組のアイデア	**１）高校生との連携** ●冬物語のように高校生と一緒につくる機会や場があるとよい。 ●ＳＮＳを使って発信することで若者世代と交流してはどうか。 ●高校生と一緒にやることもよいが、高校生を育てる視点もあってよいのではないか。 ●奥越明成高校の生徒からの柔らかく面白いアイデアを今後の活動に活かしてはどうか。他の高校生とも意見交換ができるとよい。 **２）既存イベントとのコラボ・タイアップ** ▲今年のレクリエーション大会は 9/21（日）にあり、流しそうめんイベントを行うなら、企画段階から一緒に取り組みたいとのスポーツ協会からの打診があった。また、大野ほりでいが秋に開催されるので、そこで一緒に取り組むことも考えられる。 ●参加者が見込めなくても毎年恒例の取り組みを実施するのでもよい。 **取組の方向性** アイデアを形にすることが重要であり、企画の参加者数が見込めなくても、継続してやり続ける。また、実施したことをＨＰやＳＮＳなどで外へ発信することが必要ではないか。
ＰＴの活動体制について	**１）ＰＴの活動方針や体制等** ●活動で取り扱うテーマは非常に重要だが、「地域課題解決」というテーマが大きく、予算も減っていき、専門家のサポートが無くなる等、先細り感があるので、自分たちで解決できるのかが不安。 ▲ＰＴの活動予算そのものは大きくは減っていない。住民同士や団体同士をいかに繋ぐかについて取り組んでいってほしい。 ○テーマの大きさに強張らず、楽しむ気持ちで取り組んでほしい。 ●ＰＴと検討会理事会との間に、熱意の差を感じる。冬物語での高校生の熱意や感動を伝えてはどうか。 **２）ＰＴメンバーの勧誘** ●名前が固く敷居の高さを感じる。もっと気軽に参加してほしい。 ●愛称をつけて、柔らかい雰囲気にしてはどうか。過去に検討会の会議でアイデアを考えたが、そのままになっている。 ●そもそもＰＴメンバーは各地区や団体から構成されているはずだが、団体メンバーは殆ど来ていない。ＰＴと各種団体で情報の共有や連携が取れておらずもったいないので、アイデアの実現化に向けて育成会やスポーツ協会などの団体長はメンバーとして来てほしい。

（３）その他について

・次回のＰＴ会議は４月１０日（木）午後７時～に開催予定。
・大野地区地域課題解決検討会総会は４月 23 日（水）に開催予定。ＰＴにも参加案内を送付予定。

2

【第３部－地域住民の意識啓発】

（１）大野の資源を活かした地域交流イベント

１）大野の水を活かした流しそうめんイベント

①趣旨・目的

・昨年度の記念講演・パネルディスカッションで大野市内の高校生から頂いたアイデアをもとに、子育て世代などの若者や女性が多く参加する大野地区レクリエーション大会とタイアップし、若者（高校生）の提案の実現化、住民同士の交流の促進、当日アンケートの実施による地域ニーズの把握、プロジェクトチームの活動周知・メンバー募集を目的に大野の水を活かした流しそうめんイベントを実施しました。

②開催概要

日時	令和 6 年 9 月 22 日（日）　午前 9 時 00 分～午後 12 時 00 分
場所	エキサイト広場、学びの里「めいりん」調理室
参加者対象	一般の方（大野地区レクリエーション大会参加者）
参加者数	約 110 名
当日の流れ	① 流しそうめんの実施 ② 住民アンケートの実施 アンケート項目：イベントの感想、今後参加したいイベント
広報	チラシ、館報、大野市公式 LINE、SNS（Facebook、Instagram）
企画・運営	プロジェクトチーム





流しそうめんの様子



アンケート調査の様子

2）雪を活かした雪だるま・ミニ灯ろうづくりイベント

ⅰ）趣旨・目的

・昨年度の記念講演・パネルディスカッションで大野市内の高校生から頂いたアイデアをもとに、例年、多くの大野市内の住民や観光客が参加する越前おおの冬物語や、奥越明成高校ボランティア部とタイアップし、若者（高校生）の提案の実現化、若者のまちづくり活動の参加機会や意識醸成、住民・観光客の交流の促進を目的に雪を活かした雪だるま・ミニ灯ろうづくりイベントの企画検討を行いました。

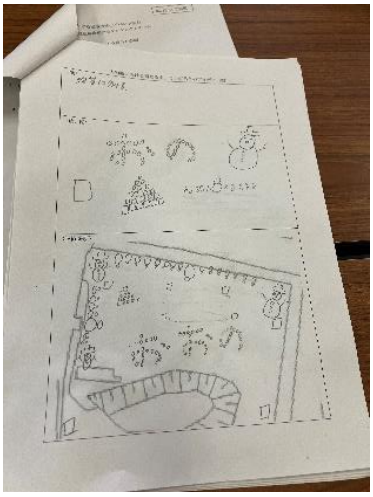
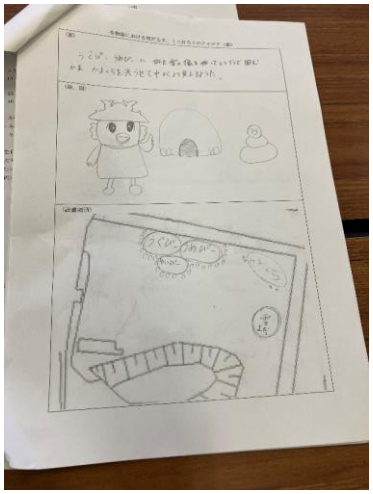
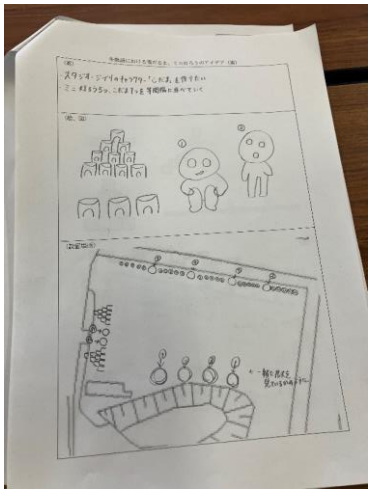
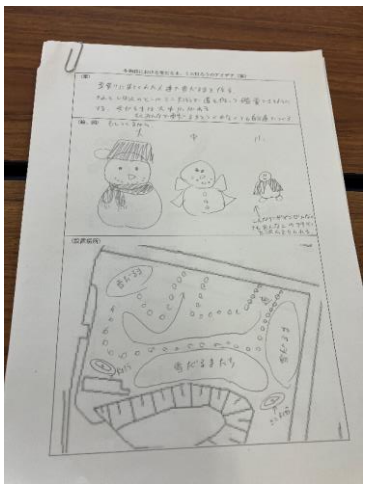
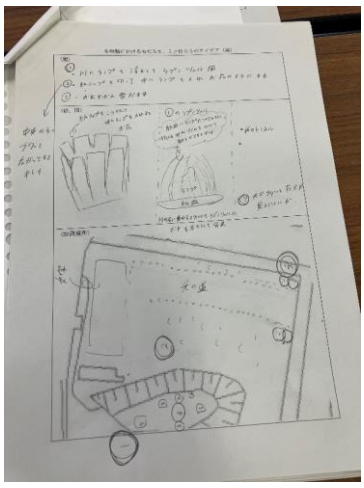
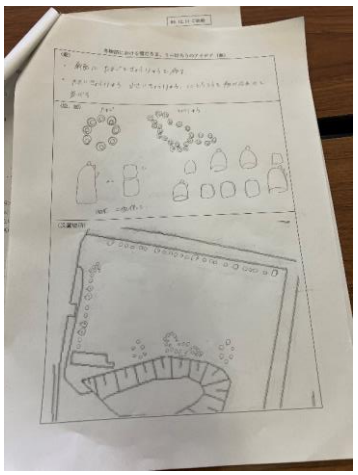
ⅱ）開催概要

①奥越明成高校ボランティア部との打ち合わせ（1 回目）

・日時	令和 6 年 12 月 23 日（月）　午後 1 時 00 分～午後 2 時 00 分
・場所	奥越明成高校
・参加者	奥越明成高校ボランティア部 8 名（生徒 7 名、顧問 1 名） プロジェクトチームメンバー1 名 大野市観光交流課 2 名 事務局 2 名
・協議内容	・イベント会場レイアウト、デザインについて
・頂いたアイデア	・会場の角や入口に大きな雪だるまを作る。 ・雪だるまは大・中・小など色々な大きさのものを作り、オシャレな感じにしたい。色んな人に作ってもらい、一緒に写真を撮ると思い出になる。 ・雪だるまや雪の像の顔を作ってもらってはどうか。紙だとふやけてしまうため、ビニールにするなど工夫が必要。 ・雪だるま以外に、かまくら、うぐぴー・うめぴー・ゆいぴー・もののけ姫のコダマ・恐竜の像を作る。 ・ミニ灯ろうで「おおの」の文字を作ったり、積み上げて立体的な灯ろうを作る。 ・ミニ灯ろうで恐竜とその卵の形を作り、会場の斜面に配置する。 ・ミニ灯ろうで会場内に道を作る。 ・会場の池に灯ろうを浮かばせる、耐水性のある発泡スチロールの上にのせる、流されないようにするなど工夫が必要（ディズニーのラプンツェルを参照）。 ・紙コップを切ってお花の形にしたものの中に明かりを入れる。 ・光のトンネルを作る（紙コップなど）、明るすぎると花火が見づらくなるかもしれない。

②奥越明成高校ボランティア部との打ち合わせ（2 回目）

・日時	令和 7 年 1 月 17 日（金）　午後 3 時 30 分～午後 4 時 30 分
・場所	奥越明成高校
・参加者	奥越明成高校ボランティア部 7 名（生徒 6 名、顧問 1 名） プロジェクトチームメンバー1 名 大野市観光交流課 1 名 事務局 4 名
・打ち合わせ内容	・前回の打ち合わせの検討結果の報告 ・必要な道具や備品について

3）成果と課題

【大野の水を活かした流しそうめんイベント】

・大野地区レクリエーション大会とタイアップすることで、これまでの取組で参加者数が少なかった子育て世代や女性の方に多く参加いただけました。

・参加者アンケートでは、9 割以上の方がイベントの内容について概ね満足されたとともに、今後参加したいイベントについて「(流しそうめんのイベントを) 次回も実施してほしい」、「景品が当たる水風船釣り」、「中学生も楽しめるドッジボールやバレーボールの実施」といったご意見をいただきました。

・今後の課題として、今回のイベントは初めての実施であったこともあり、準備や当日の運営などイベント実施に手が掛かり、効果的な地域課題に関するまちづくり活動の意識啓発やプロジェクトチームの活動周知・メンバー募集については十分な結果は得られませんでした。今後は、大野地区の地域団体とも連携しながら、効果的な普及啓発やメンバー募集を進めていくことが望まれます。

【雪を活かしたイベント】

・越前おおの冬物語とのタイアップにより、大野地区住民への普及啓発だけでなく、来訪者への大野の魅力発信や交流促進の機会にも寄与する可能性があることを把握することができました。

・奥越明成高校と連携し、イベントへの若者の意見の反映や、若者にイベントでの役割を担ってもらうことで、若者の地域参画や世代を越えた住民同士の交流のきっかけづくりに繋げることができました。

・今後の課題として、今回は大雪の影響で越前おおの冬物語が中止になったことに伴い、今回のイベントは実施できなかったため、参加予定であった奥越明成高校の生徒の方へのフォローアップとして、事後アンケートの実施や来年度以降の活動にどのように活かしていくのかについての検討が望まれます。

＜参考資料１：高校生へのイベント周知・実施報告＞

◆大野高校生徒会への案内チラシ

令和６年８月吉日

令和５年度 大野地区まちづくり推進協議会 設立 50 周年記念式典に
ご登壇いただきました大野高校生徒会の皆さまへ

大野の水を活かした流しそうめんイベント
開催案内

昨年 12 月に開催しました「大野地区まちづくり推進協議会 設立 50 周年記念式典」のパネルディスカッションでは、今後の大野のまちづくりについて、若者の視点から様々なご意見をいただき、誠にありがとうございました。

このたび、大野地区のまちづくりに取り組んでいる大野地区地域課題解決検討会では、皆さんからいただいたご意見をもとに、「大野の水を活かした流しそうめんイベント」を実施することとなりましたので、ご案内いたします。

皆さんのご参加をお待ちしております！

≪開催概要≫

◆日時：令和６年９月２２日（日）
午前 10 時～午前 11 時 30 分

大野地区
レクリエーション大会と
同時開催！

子どもから高齢者まで
幅広い方が参加予定！

◆場所：エキサイト広場 入口周辺
（大野市桜塚町 601 番地）

◆内容：流しそうめんによる
住民同士の交流



主催：大野地区地域課題解決検討会（プロジェクトチーム）

◆大野高校生徒会への実施報告チラシ

令和６年１１月吉日

令和５年度 大野地区まちづくり推進協議会 設立50周年記念式典に
ご登壇いただきました大野高校生徒会の皆さまへ

大野の水を活かした
流しそうめんイベントを開催しました！
（実施報告）

●大野地区では、地域課題解決に向けて**地域住民が主体となって活動の企画や運営**を行っています。

●昨年度の大野地区のまちづくりフォーラムで皆さんからいただいたご意見をもとに、**「大野の水を活かした流しそうめんイベント」**を **9/22 大野地区レクリエーション大会にて開催**いたしましたので、ご報告いたします。





子どもから大人まで
多くの方が参加！

参加者からは、
とても楽しかった、
面白かったという
意見が多く
ありました！





主催：大野地区地域課題解決検討会（プロジェクトチーム）

＜参考資料２：イベントの掲示物＞

◆大野の水を活かした企画の趣旨・目的

大野の水を活かした流しそうめんイベント

なぜイベントを実施したの？

●昨年の冬に開催した「大野地区のまちづくりフォーラム」で、市内の高校生に登壇いただき、まちづくりのアイデアをいただきました。

●アイデアの一つに「大野の水を活かしたイベントの実施」があったこと、「若者に大野に住んでいて良かった・また戻ってきたいと思ってもらえることが大切」という想いから、大野の水を活かした流しそうめんのイベントを実施することになりました。

プロジェクトチームで
流しそうめんの練習を行いました！







プロジェクトチームとは？

●プロジェクトチームは、大野地区の地域課題解決に向けて、地域住民が主体となって活動の企画や運営を行う組織です。

●メンバーは、大野地区にお住いの 30 歳代から 80 歳代までの幅広い世代の方が参加されています。

●定期的に会議を開催し、各取組の企画検討や結果報告等を行っています。



会議の様子



フォーラムの様子



メンバー同士の交流

◆プロジェクトチームメンバー募集チラシ

大野地区のまちづくりに取り組む
若者や女性を募集しています！

大野地区では、まちの魅力を再発見し、地域が抱える困りごとを解決するため、**地域住民が主体となってまちづくり活動の企画や運営**を行っています。

現在、大野地区のまちづくり活動に参加いただける、**若い方や女性の方を中心にメンバーを募集**しています！

※活動の詳細は下記の取組概要をご覧ください。

活動に関心のある方は、**右記のＱＲコードからメンバー登録**または**事務局（大野公民館）まで連絡**をお願いします！

«大野地区地域課題解決検討会事務局（大野公民館）»
電話番号：0779-66-2828（平日８時30分～17時15分まで受付）

これまでの取組概要（Ｒ４～Ｒ６）

- 大野地区の地域課題解決に向けて、**地域住民が主体となって活動の企画や運営**を行っています。
- メンバーは、大野地区にお住いの30歳代から80歳代までの幅広い世代の方が参加されています。
- **定期的にミーティングを開催**し、**企画の検討や運営**、**その取組報告の共有等**を行っています。



会議の様子



まちあるきの様子



高校生のアイデアの実現化

＜参考資料３：参加者アンケート結果＞

◆当日アンケート①の結果

大野の水を活かした流しそうめんイベント

参加者アンケート①



Q．流しそうめんのイベントはどうでしたか？

シールを１つ貼ってね！

	とても楽しい	まあまあ	楽しくなかった
20 歳未満	39	3	0
20 歳代～30 歳代	6	0	0
40 歳代～50 歳代	19	3	0
60 歳以上	13	0	0

◆当日アンケート②の結果

大野の水を活かした流しそうめんイベント

参加者アンケート②



Q．参加してみたいイベントは？

アイデアを
教えてね！

20 歳未満	・楽しくおかわりした。 ・流しそうめんおいしかった、色々な物も流れていておいしかった。次はそうめん抜きの『流し』をしてほしい。(有終西校 4 年生) ・わたしは流しそうめんが初めてだった。今日初めてやったらすごく楽しかった。マシュマロや、うずらのたまごなども流していて面白かった。 ・次は、そうめんはなくて、色々な食べ物や、ものを流してほしい。(有終西 4 年生) ・楽しかった！エキサイトは広いので、とてもいいと思った！次はドッチボール、バレーをやったら中学生も楽しめると思う！(開成　3 年) ・ドッチボール最強を決めたい。(4 年生) ・中に番号の書いてある風船(水の入ってるやつ)をつって、つまようじで割って、その書いてある番号の商品をもらう。(6 年生) ・同じくらいの学年でふつうのリレーをしたい。(6 年生) ・広いエリアで、逃走中をしたい。 ・福井らしく『おかしまき』やってほしい。
20 歳代～ 30 歳代	
40 歳代～ 50 歳代	・レクリエーションのタイムスケジュールと合わせたら良い。 ・イースターエッグ　たまごさがし
60 歳以上	・孫と楽しめた。ありがとうございました。(66 歳) ・大きい画用紙で子ども達に絵をかかせるイベント。 ・流しそうめん早食い競争。（g 数で）



＜参考資料４：雪のイベントの会場レイアウト＞



＜参考資料５：雪のイベントの高校への開催案内＞

◆生徒への案内文

令和７年２月吉日

奥越明成高等学校 福祉ボランティア部の皆さんへ

越前おおの冬物語　雪だるま・ミニ灯ろうづくり
開催案内

「越前おおの冬物語」の会場のレイアウトについて、たくさんのご意見・アイデアをいただき、ありがとうございます！

雪だるま・ミニ灯ろうづくりの開催案内をお知らせいたします。また、「越前おおの冬物語」のイベント全体のチラシも同封します。

当日は、地域の方やイベント参加者の方達と一緒に楽しみながら、雪だるまやミニ灯ろうづくりができればと思っています。よろしくお願いいたします。

≪開催概要≫

◆日時：令和７年２月８日（土）　１３時００分～１６時３０分

◆場所：大手門広場（大野市城町１－５）

◆内容：雪だるま・ミニ灯ろうをつくって、
大手門広場の飾りつけを行う

◆当日スケジュール：

１３時００分	大手門広場　集合
１３時１０分～１５時００分	雪だるま・ミニ灯ろうづくり
１５時００分～１６時００分	郷土料理（のっぺい汁）の試食
１６時００分～１６時３０分	大手門広場でのキャンドルの点灯

◆服装・持ち物：

・動きやすく、暖かい服装で来てください。
（防寒着、ウインドブレーカー、レインコート、長靴など）

・作業用の手袋（ゴム手袋、軍手など）

◆保護者への案内文

令和７年２月吉日

奥越明成高等学校 福祉ボランティア部
保護者の皆様へ

大野地区地域課題解決検討会
（事務局：大野公民館）

越前おおの冬物語への生徒の参加・協力のお願い

晩冬の候、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。平素より大野地区の地域運営にご理解・ご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

大野地区では、令和３年度より「大野地区地域課題解決検討会」を発足し、人口減少や少子高齢化に伴う様々な地域課題の解決に向けて、地域住民主体で住民アンケートや講演会の実施、住民同士の交流イベントの企画運営など、様々な取組を実施しています。

（※大野地区地域課題解決検討会に、ご興味のある方は事務局の大野公民館までご連絡ください。）

今回は、昨年度実施した講演会で大野市内の高校生から「雪を活用したイベントの開催」についてアイデアをいただいたことをきっかけに、また、多世代交流や賑わい創出による地域活性化を図ることを目的に、地域住民、学生の皆さん、イベント参加者が一体となって会場である大手門広場の飾り付けを行うこととなりました。

つきましては、今回のイベントの趣旨をご理解いただき、生徒の皆さんの参加・協力をお願い申し上げます。

記

１　活動時間：令和７年２月８日（土）　１３時～１６時３０分頃

２　活動場所：大手門広場、学びの里「めいりん」

３　活動内容：地域住民やイベント参加者とともに雪だるまやミニ灯ろうを制作し、冬物語の会場である大手門広場の飾り付けを行う

４　当日の活動スケジュール（予定）

13：00	大手門広場集合
13：10～15：00	大手門広場での雪だるま・ミニ灯ろうの制作
15：00～16：00	学びの里「めいりん」で郷土料理（のっぺい汁）の試食
16：00～16：30	大手門広場でのキャンドルの点灯

５　当日の服装や持ち物
- 当日は動きやすく、暖かい服装でお越しください。（防寒着、レインコート、長靴など）
- 作業用の手袋（防水性のゴム手袋、軍手など）

６　その他
- 当日、会場付近は交通規制がありますのでご注意ください。詳細は同封のチラシをご覧ください。

≪問合せ先≫
大野市城町９－１　学びの里「めいりん」内
大野地区地域課題解決検討会事務局（大野公民館）
電話番号：0779-66-2828

【第４部－行政区再編モデル事業】

（１）行政区再編モデル事業の概要

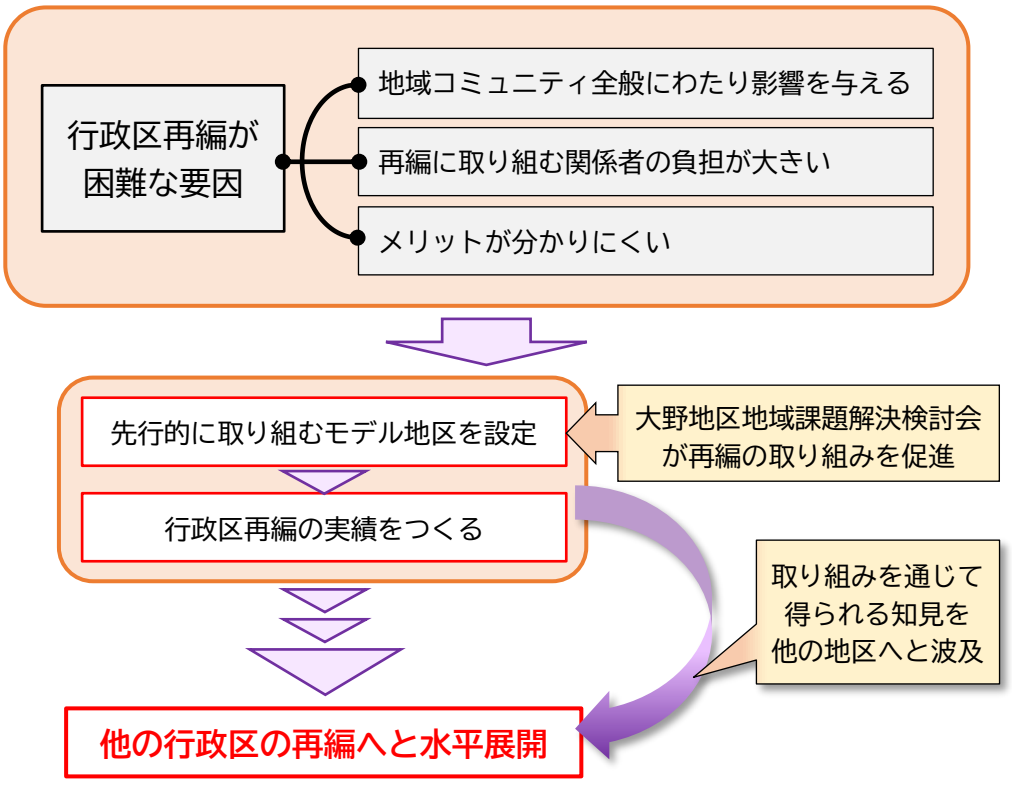
1)事業の目的と対象

①事業の目的

・大野地区内には、行政区内の世帯数が 20 世帯以下の小規模な行政区が 12 区、高齢化率が 50%以上の行政区が 8 区（いずれも 2022 年に大野地区地域課題解決検討会が実施した調査結果より）あり、地域コミュニティ運営の基盤である行政区の再編に着手する必要性が高まっています。

・行政区の再編は、地域コミュニティ全般にわたり影響を与えるものであり、また、再編に取り組む関係者の負担は大きくなります。さらに、行政区再編はマイナス方向に対するブレーキであり、プラス方向へのアクセルの取り組みと異なってメリットが分かりにくいため、役員や住民が理解を深めて主体的に推進することは、非常に難易度が高くなります。

・このため、行政区の再編に先行的に取り組むモデル地区を設定し、大野地区地域課題解決検討会が再編の取り組みを促進することにより、大野地区内での行政区再編の実績をつくり、その取り組みを通じて得られる知見を、大野地区内の他の行政区の再編の推進へと波及させ、規模過小な行政区の解消や行政区解散の防止を図ることが目的です。



②事業の対象

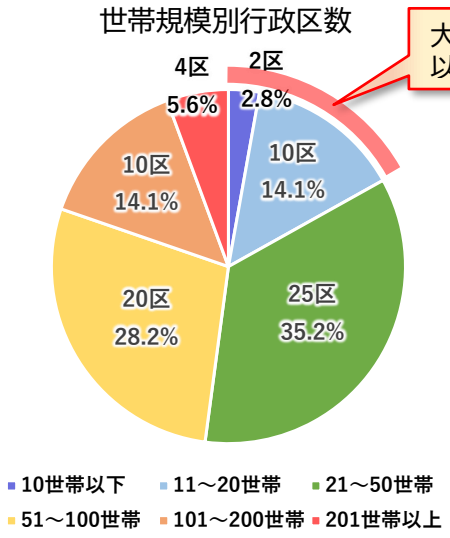
・大野地区内には、世帯数が 20 世帯以下の行政区が 12 区あり、このうち 10 区が第 6 地区内の行政区となっています（いずれも 2022 年に大野地区地域課題解決検討会が実施した調査結果より）。

・大野地区内の第 1 地区から第 6 地区の 1 行政区当たりの平均人口を算出すると第 6 地区が 60.9 人となり、大野地区全体の 1 行政区当たりの人口の平均値 174.0 人に対して 35%の人口規模となっています。

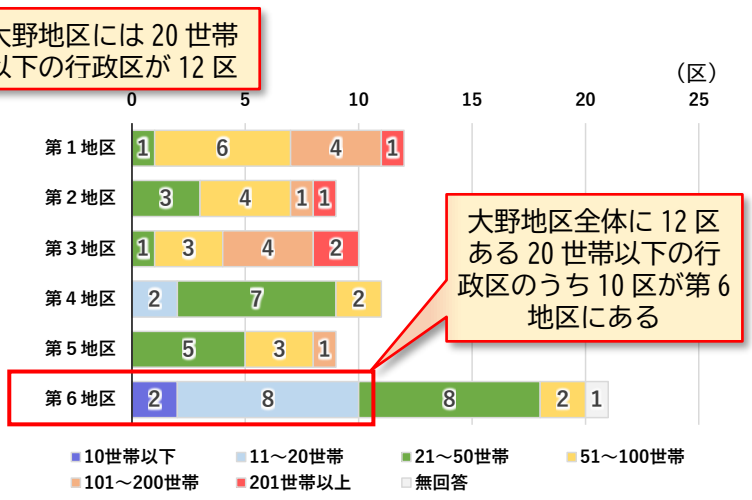
・第 6 地区は、他の地区よりも行政区の規模が小さい傾向にあることから、令和 5 年度末（令和 6 年 2 月）に、第 6 地区の区長会の会合において行政区再編に関する意見交換を行いました。

・以上の事から、第 6 地区を対象として行政区再編への取り組みへの理解促進を図り、行政区再編についての取り組み意向を高める働きかけを行いました。

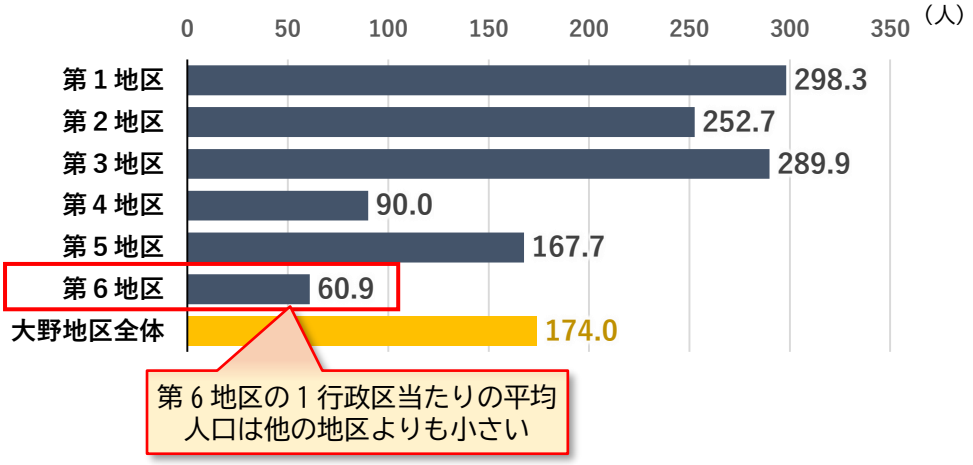
大野地区全体



地域地区別



地域地区別の行政区人口の平均



2)関係協議の経緯

・第 6 地区における行政区再編に関係する協議などの実施状況は以下の通りです。

●令和 6 年 4 月 16 日

⇒第 6 地区区長会の会合において行政区再編の取り組みについて説明

●令和 6 年 7 月　某日

⇒第 6 地区区長会の会合において行政区再編のメリット・デメリットなどを検討

⇒行政区再編に関する各行政区の意向を把握するためのアンケート調査票を配布

●令和 6 年 9 月　某日

⇒第 6 地区区長会の会合において行政区再編に関する各行政区へのアンケートの結果を確認

●令和 6 年 12 月にも第 6 地区区長会の会合において行政区再編に関する意見交換の実施を予定していたが、会合自体が中止となったため意見交換は実施しませんでした。

●令和 7 年 3 月末を以て第 6 地区区長会長の任期が満了・交代となり、令和 7 年 4 月以降の取り組みについては、第 6 地区区長会の新たな会長との協議、調整を経て進めることとします。

3)協議に用いた資料

①第 6 地区区長会（令和 6 年 4 月 16 日）配布資料

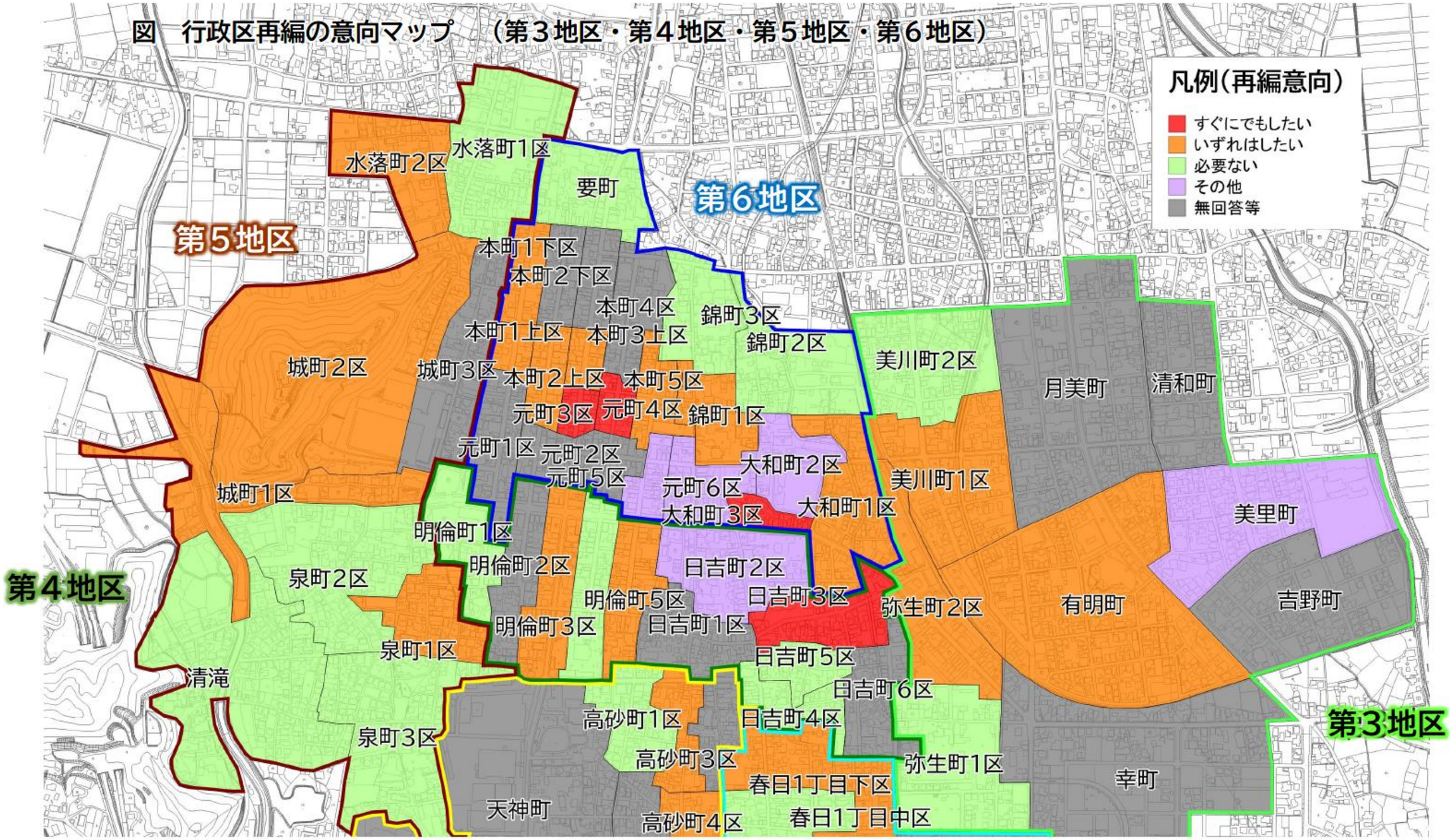
第６地区区長会
（24.04.16）
配布資料

■第６地区の各行政区における再編に関する意向（令和４年度　行政区調査より）

行政区名	行政区再編の意向(質問8)		
	大野地区内で行政区再編を行うべきだと思いますか？	ご自身の行政区の再編についてはどう考えていますか？	理由／その他の内容
本町1上区	2:どちらかといえば思う	2:いずれは行政区を再編したい	高齢化により、人手が不足。
本町1下区	3:どちらかといえば思わない	2:いずれは行政区を再編したい	少子高齢化、空家が進行して行けば、何時かは再編が必要な時期が来ると思います。しかし、それを止める事が出来る事を望みます。人口増加施策に期待しています。
本町2上区	1:思う	2:いずれは行政区を再編したい	高齢者世帯の増加
本町2下区	4:思わない	無回答	-
本町3上区	2:どちらかといえば思う	2:いずれは行政区を再編したい	現状では運営に問題は無いが、将来を考えると運営が成り立つか不安なため。
本町3下区	4:思わない	無回答	-
本町4区	無回答	無回答	-
本町5区	2:どちらかといえば思う	2:いずれは行政区を再編したい	区民･世帯数が今後更に減少し、行政区の維持が出来なくなる。
元町1区	4:思わない	無回答	-
元町2区	無回答	無回答	-
元町3区	1:思う	1:すぐにでも行政区を再編したい	世帯数が少ないから
元町4区	1:思う	1:すぐにでも行政区を再編したい	区の区域が小さく、住民は減っている上高齢化が進んでいる。住民は纏まりやすいが、行事などは実施できない。市などの各団体の役員も出せず、兼務しかない。
元町5区	2:どちらかといえば思う	4:その他	人口減少、高齢化
元町6区	2:どちらかといえば思う	4:その他	現状では再編の必要はないと思う。だが、周囲の行政区では数戸の区もあり、近いうちに世帯数が減って役職につく人がいなくなる恐れがあるので、いずれ再編が必要になると思う。
大和町1区	2:どちらかといえば思う	2:いずれは行政区を再編したい	現在はある程度世帯数もあり、何とか行事や社会奉仕も町内の分はこなせているが、高齢化で先細りになるように思われるため。
大和町2区	1:思う	4:その他	先ずは大野地区の 6 地域地区制を解消(地域地区会長を置かない、各地域地区会議は廃止、大野地区の区長全体会議で大野地区内の課題を検討する)。 区長･行政･第三者からなる行政区再編の協議会を設置(行政区の適正な数規模を議論し、モデルケースの策定)。 必要であれば大野地区の地域地区制の復活(学校区、地域性、分かりやすさを加味して)。
大和町3区	1:思う	1:すぐにでも行政区を再編したい	区内には高齢者が多く、区長になれる人がほとんどいないため、他の行政区と合併したい。
錦町1区	1:思う	2:いずれは行政区を再編したい	世帯数が少ない、高齢者が多い、運営が成り立たなくなる。
錦町2区	1:思う	3:自分たちの行政区は再編の必要はない	現状では問題はないが、人数は多いが減少傾向にあるので、区内での再編は必要になる。
錦町3区	3:どちらかといえば思わない	3:自分たちの行政区は再編の必要はない	区民同士がお互いに良く知り合えている。
要町	3:どちらかといえば思わない	3:自分たちの行政区は再編の必要はない	-

・「すぐにでも再編したい」と考える行政区が隣り合っている区域はありませんが、「いずれは再編したい」と考える行政区や意向を表明していない行政区（無回答・その他）、
「再編したい」わけではないが「いずれ必要」と考えている行政区などと協議、調整に取り組む余地があります。

図　行政区再編の意向マップ　（第３地区・第４地区・第５地区・第６地区）



②第６地区区長会（令和６年７月）配布資料

ア）行政区再編のメリット・デメリットなどの検討資料

行政区再編（合併）の検討について

■行政区や地域コミュニティに関する現状の課題と見通し

○第６地区は、人口減少、高齢化が全体的に進みつつあり、中には大幅に人口減少・高齢化が進んでいる行政区もあります。これらの行政区では、とても世帯数が少ない状況にあり、区長や役員の担い手が極端に少ない、行政区ごとに割り当てられている当番や役務の対応が困難、災害時の対応（下記イメージ参照）や問題が発生した場合の組織的な対応（下記イメージ参照））が困難、などの課題が生じています。

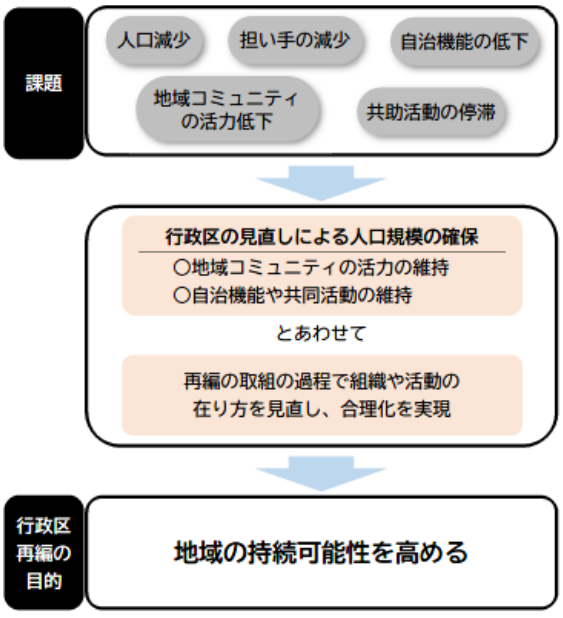
○このままでは、行政区の運営が困難になり、解散が現実味を帯びてくる。地域コミュニティの基盤である行政区が解散となった場合、地域内の組織とリーダーがなくなるため、例えば、災害時の対応や問題発生の際の組織的な対応が困難になります。また、現時点では、ある程度の人口規模が確保されている行政区も、近い将来、人口が大幅に減少し、課題が生じる可能性があります。

行政区の役割 【災害時の対応のイメージ】	行政区の役割【問題が発生した場合の対応のイメージ】
・平時から一時避難場所の周知、大規模災害時の取り決めの検討、周知など ・行政区全体の住民の安否の確認、一時避難場所での点呼や指定避難場所への移動 ・災害時に援護、支援が必要な住民への対応 ・避難場所での助け合い、困り事への対応	・ごみの分別方法が変更されたが良く分からない住民が多い。 ⇒区長から行政の担当者に詳しく説明に来てもらえるように要望する、など ・介護が必要な高齢者宅の雪かきができていないため、介護ヘルパーが駐車できない。 ⇒駐車スペース分の雪かきを支援したり、隣近所にヘルパーが駐車できるようにするなど、行政区で対応を話し合う ・地区で設置した街灯がきれたり、ごみ集積場の扉が破損した。また更新や追加をしてほしい。 ⇒行政区において、区費や市の補助を利用して対応する。 ・空き家がどんどん増加する。 ⇒隣近所が迷惑しないように、管理徹底や取り壊し、転居後も区長が連絡を取れるようにすることを行政区の申し合わせ事項として決めたり、適切に管理されていない場合には、行政区として関係者に要求する ・お年寄りが買い物に行くのが難しい ⇒近隣の人が買い物に行く際に買ってきて欲しいものがないか、一声掛けたり、移動販売の事業者に回って貰えるように依頼したり、行政区として対応を検討する、など

■行政区再編の目的

○行政区は、地域のまとまりの基礎単位であり、地域コミュニティ運営の基盤です。
大野地区内では、人口の減少、担い手の減少によって地域コミュニティの活力の低下、自治機能の低下、共助活動の停滞などの課題が顕在化しつつあります。

○人口減少、担い手減少に歯止めをかける活動に取り組むことも不可欠ですが、かつての人口規模を前提に設定されている行政区を見直すことも重要です。ある程度の人口規模を確保し、地域コミュニティの活力や自治機能、共助活動の維持、向上を図り、地域の持続可能性を高めることが、行政区再編の目的です。



■行政区の再編（合併）などに取り組む（検討する）メリットと課題

【 メリット 】	【 課 題 】
・規模が大きくなり、組織的対応の可能性が広がる ・区長、役員の担い手の確保（人口規模が大きくなる再編後の行政区全体で区長、役員を選出） ・行政区の再編（合併）だけでなく、再編後の運営のあり方についても話し合うことで、合理化や地域力の強化が期待できる。 例えば⇒区長を補佐する副区長を選任する（前任区長及び次期区長） 例えば⇒若い人を積極的に町内会組織に取り込む 例えば⇒車で 15 分以内に住む息子・娘らも準構成員として扱う 例えば⇒区長・役員に手当てを支給することを検討する ※結果的に、再編（合併）に至らない場合であっても、話し合いを通じて、今後の地域コミュニティの活力維持や運営方法の改善などに関するアイデアが生まれることが期待できる。	・再編（合併）のためには、決めるべき事項が多く、区長・役員の負担が大きい。話し合いの進め方が分からないし、話し合いのための資料づくりや記録作成などの対応が大きな負担。 ※今回は、モデル地区として資料作成などは、大野地区地域課題解決検討会の取り組みとしてバックアップをさせていただく。 ・保有財産の取扱いや会費額などは、特に調整・合意が難しい。財産の一部は、今の行政区で保有し続けたり、会費は激変緩和期間を設定するなど、話し合って着地点を探る必要がある。 ※今回は、モデル地区として話し合いのための論点整理や資料準備などは、大野地区地域課題解決検討会の取り組みとしてバックアップをさせていただく。

■行政区の再編（合併）の事例

町内会合併 | 事例1

中山東第二町内会

町内会合併で増える人材・減る負担

会員へ事前の情報提供とにかく気配りだと思います

中山東第二町内会と川平スカイタウン町内会

「会員へ事前の情報提供、とにかく気配りだと思います」。町内会合併が成功した秘訣を教えてくれたのは、中山東第二町内会副会長の米澤さんと福祉厚生部長の岡元さん。中山東第二町内会と川平スカイタウン町内会は平成24年4月に合併しましたが、米澤さんは中山東第二町内会の総務部長として、岡元さんは川平スカイタウン町内会の副会長として合併に携わりました。合併は会員の減少や役員の高齢化に悩んでいた川平スカイタウン町内会が中山東第二町内会に合併を依頼し、約半年間にわたる協議を重ねました。協議当時の会員数は中山東第二町内会が336世帯、一方の川平スカイタウン町内会は35世帯でした。

町内会解散、そして合併を決断

会員が70世帯を超えることもあった川平スカイタウン町内会ですが、町内会に加入していた社宅（33世帯）が無くなり会員数が激減。同時に会員の高齢化も進み、町内会運営に対する今後の不安と負担は増える一方でした。毎年参加していた学区民運動会では競技者を他町内会から借りることが多く、町内会のテントを設営する人員が確保できずに他町内会へ頼むことも増えてきました。会員数の減少による各会員の負担増や高齢化による地域行事への参加が困難になったほかにも、次期会長のなり手がいないこと、今後の会員増加が見込めないことなどがあり、町内会の解散について検討が進んでいきました。そして、平成23年11月に開催された臨時総会で解散と他の町内会への合併が承認され、合併先として以前から交流があった隣接する中山東第二町内会が候補になりました。

今後の不安と負担は増える一方でした…

合併までの取り組み

川平スカイタウン町内会からの合併依頼を受けた中山東第二町内会は役員会で合併受け入れを承認し、合併に向けた両町内会での調整が始まりました。合同の役員会は3回開催され、役員会での協議内容や課題はチラシなどで全会員に情報提供されました。どんな内容も決定前に情報提供することを基本とし、会員の意見を取り込みながら一つずつ決めていくことで決定事項に対する苦情は一切無かったそうです。また、中山東第二町内会では当時の総務部が「合併後のイメージ」を作成し、会員に説明。この説明の効果もあり平成24年3月の臨時総会で合併が承認されました。



賑やかになった夏祭り



敬老会への参加も楽しみの一つ

合併後の変化…

臨時総会後、合併合意書が取り交わされ、新しい中山東第二町内会が誕生。合併により旧川平スカイタウン町内会の皆さんにとって新たな楽しみができました。町内会単独での夏祭りや敬老のお祝い会などのイベントが増え、地域での交流機会が多くなったこと。また、合併前は10名ほどしかいなかった公園清掃の参加者が増え、会員の負担が減り、楽しく参加できるようになりました。一方の旧中山東第二町内会にとっては町内会運営を担う人材が増え、適材適所に役員を配置できるようになりました。回覧板の軒数増加や子ども会の変更など、旧川平スカイタウン町内会にとっても様々な変化はありましたが、前もっての情報提供や役員の気配りもあって大きな混乱はなかったとのこと。「旧川平スカイタウン町内会にとって合併は万々歳でした！」岡元さんの笑顔が合併の成功を物語っていました。

（取材・執筆　青葉区まちづくり推進課）



会員減少や高齢化で負担が大きかった公園清掃も、合併により参加者が増加

町内会合併 | 事例2

荒町西部町内会

江戸時代から続く商人のまち

同じ商店街の町内会同士でスムーズに合併



安全安心のために商店街を夜回り

担い手不足に悩む町内会 隣同士で合併へ

岩林区荒町は市中心部近くに位置し、伊達藩の麹屋町として江戸時代から醤油の醸造や酒造りを行ってきた、歴史あるまちです。当時から続く商店のほか、飲食店、雑貨店、美容院など、地域に根付いた個人経営のお店が東西に伸びるバス通り沿いに軒を並べており、「荒町商店街」を形成しています。

旧「荒町第三町内会」（約260世帯）と旧「荒町第四町内会」（約110世帯）は、荒町の西半分を占める隣接した町内会同士でしたが、活動費の減少や担い手不足等の問題から、平成26年6月に合併しました。新しい町内会名は、「荒町西部町内会」。現町内会長の千葉さんに、合併に至った経緯をお聞きします。

もともと気心の知れた仲 共通項は「商店街」

かつて荒町は世帯数が多かったことから、旧第三町内会と旧第四町内会を含む4つの町内会に分かれていました。千葉さんは、近年の状況を「マンションの住民になかなか町内会へ加入してもらえず、加入世帯が以前よりも減少していました」と振り返ります。

このような中、旧第四町内会でも、加入世帯の少なさが切実な問題となっていました。一方、旧第三町内会では加入世帯こそ比較的多いものの、現役世代は商店の仕事や商店街活動で忙しいため、町内会は担い手の高齢化が進んでいました。

「もともと、同じ商店街の住民として地域活動を合同で行っていたので、町内会は別でも気心の知れた仲」という両町内会。合併すれば互いの悩みが解決できるのではと、担い手が高齢化した旧第三町内会から働きかけた結果、約1年で合併が実現したのです。



設立総会で合併覚書を取り交わした両町内会長

町内会の担い手の高齢化が進んでいました

合併のネックは財政面 規則の違いも問題に

スムーズに合併が進んだように見える荒町西部町内会ですが、問題が無かったわけではありません。

最大のネックは、合併後の町内会費の取扱いでした。旧第三町内会の会費額が、旧第四町内会の会費額を上回っていたのです。これについては双方の会費額の間を取ることで、それぞれの住民が納得する金額を設定することができました。

また、旧第三町内会には昔からの積立金が特別会計として残っており、合併後の町内会に持ち越すのは適さないため、旧第三町内会の住民に還元することに。合併直前に開催した「お疲れ様会」の費用や、旧第三町内会住民分の合併後の町内会費として使いました。

このほか、細かい規則や会則の違いもありましたが、検討の結果、規模の大きい旧第三町内会に合わせるという結論に至りました。

合併後は町内会活動が活発化 メリットを意識して歩み寄りを

「合併後は町内会役員会の出席率が上昇し、町内会に対する地域住民の関心も高まりました」と語る千葉さん。活動費や担い手の面で余裕が生まれ、新しい掲示板を設置することもできました。また、合併後の住民の結束を高めるため、新年会や小旅行などの交流行事を開催しています。

これから合併を検討する町内会へのアドバイスをお願いしたところ、「隣接した町内会同士であっても、運営形態が大きく違う可能性がある。合併を成し遂げるには、双方がメリットを意識しお互いに歩み寄ることが大事。最後は、内部の人の頑張りに掛かっています」と話してくれました。合併を果たして1年あまり。これからも、荒町を地域ぐるみで盛り立てていきます。

（取材・執筆　岩林区まちづくり推進課）

合併後は町内会に対する地域住民の関心も高まりました



楽しい新年会で交流を深める

イ）行政区再編に関するアンケート調査票

行政区の再編に関するアンケート調査

（大野地区地域課題解決検討会・第６地区区長会）

●趣旨・目的

・大野市は、長らく人口の減少、高齢化が続いており、今後もこの傾向は続くことが予測されています。行政は、高齢化などに伴う福祉の充実や子育て環境の充実、老朽化する公共施設や道路の修繕などに限りある財源を支出する必要があるため、以前のように行政に頼ることはできません。

・地域が生き残っていくためには、行政に頼りすぎずに「地域の事は地域で考えて自ら取り組む」考え方や体制を整えることが重要になります。

・「地域の事は地域で考えて自ら取り組む」体制の一番身近で、基本となるものは行政区です。しかし、第６地区は全体的に行政区の規模が小さく、人口や世帯数も以前と比べて大幅に減少しました。

・このため、行政区の規模が小さすぎることによる問題・課題に対応する方策を検討するため、行政区の再編について各行政区のお考えを把握するため、アンケート調査を実施することとしました。趣旨をご理解いただき、アンケート調査へのご協力をよろしくお願いします。

・ご回答いただく際には、できるだけ区民の皆様で話し合いをするなど、各行政区のお考えとしてお答えください。

左に行政区をご記入ください：　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

問１：行政区は必要な組織だと考えますか。以下の行政区の役割の事例を参考にして、（１）～（４）のいずれか一つに○を付けてください。

行政区の役割の事例

【災害時の組織的な対応】

・避難が必要な大きな災害が発生した場合、お年寄りを含め皆が安全に避難できたか、行政には把握が困難。
　⇒区長を中心に担当役員らで安否を確認。

・避難時に支援が必要な住民全員に行政が対応することは不可能
　⇒予め、支援が必要な人への対応を行政区として決めておく。

・避難生活で不便なことがあっても、各個人では解決が難しく、災害時には行政は頼りにできない。
　⇒行政区として助け合ったり、意見をまとめて要望したりするなど組織的に対応。

【その他の地域住民共通の問題への対応】

・ごみの分別方法が変更されたが、新しい分別方法が良く分からない住民が多い
　⇒区長を通じて行政の担当者に詳しく説明に来て貰えるように要望。

・地区で設置した街灯が切れたり、ゴミ集積場が壊れてしまった
　⇒行政区の区費で直したり、行政区として市に補助金を申請する。

（１）　行政区は、とても必要な組織である

（２）　行政区は、まあまあ必要な組織である

（３）　行政区は、あまり必要な組織ではない

（４）　行政区は、不要な組織である

（３）・（４）の場合は、
その理由を教えてください

問２：ご自身の行政区は、人口や世帯数が少ないために、困っていることはありますか。（１）～（４）のいずれか一つに○を付けてください。

（１） とても困っている

（２） 時々、困ることがある

（３） あまり困っていない

（４） 全く困っていない

（１）・（２）の場合は、どの様な事で困っているかを教えてください

問３：ご自身の行政区の再編について、どのようにお考えですか。
（１）～（４）のいずれか一つに○を付けてください。

（１） すぐにでも再編したい

（２） いずれは再編したい

（３） このままでは良くないと思うが、再編はしたくない

（４） 再編の必要はない

（３）・（４）の場合は、その理由を教えてください

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

（２）行政区再編意向調査（アンケート）の結果

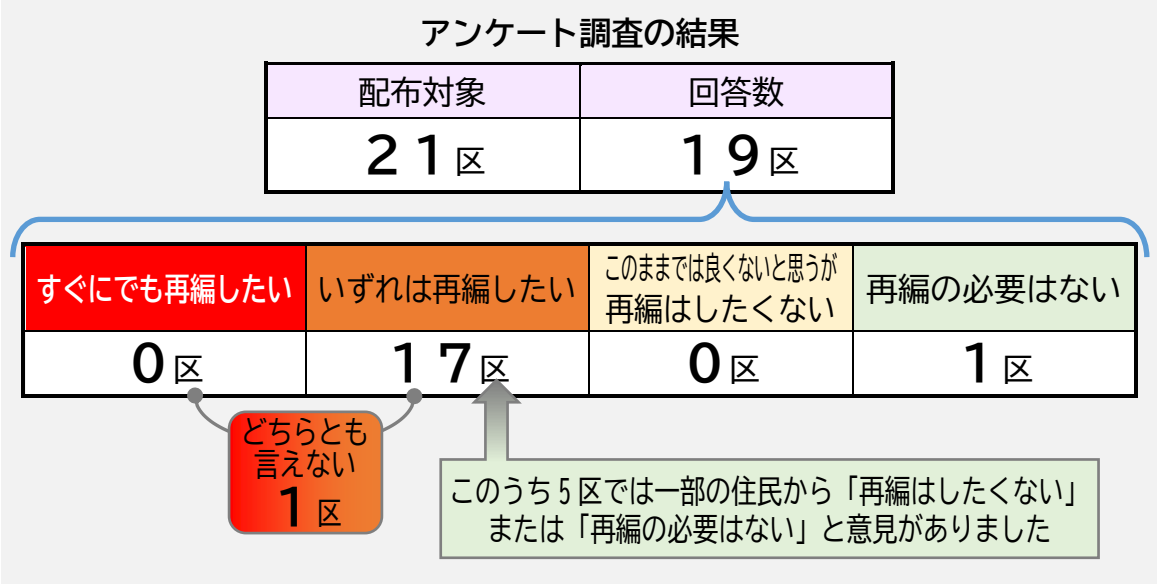
1)調査結果

・第 6 地区区長会では、会合において 21 行政区の区長が行政区再編のメリット・デメリットを確認し、行政区再編に対する各区の意向を確認するためのアンケート調査票を配布しました。

・21 行政区のうち 19 行政区から回答があり、このうち 2 行政区は住民の総意として回答されました。

・結果は、「すぐにでも再編したい」と回答した行政区はなく、「いずれは再編したい」と回答した行政区が 17 区、「どちらとも言えない」が 1 区、「再編の必要はない」が 1 区となりました。

・「いずれは再編したい」の中には、一部の住民が「再編はしたくない」または「再編の必要はない」と意見している区が 5 区ありました。



2)地区区長会での意見

・アンケートの結果について第 6 地区区長会で確認し、出席した区長からは以下のような意見がありました。

⇒再編しないといけないと思ってはいるが、自分の任期中にはしたくない。

⇒市から再編の期限やいくつの行政区に再編すべきか、示されるなど市が主導すれば、異論が出るとしても、市の考えに沿って再編に取り組むようになると思う。

⇒区長の任期が短くすぐに代わり、引継ぎも十分ではないことも多々あり、その度に 1 から話し合いや確認をしなければならない。

⇒次の区長のなり手がいても、代わらない区長もいる。

（3）今後の行政区再編の推進に資する調査

●福井市における小規模な自治会合併推進の取り組み

・大野地区における今後の行政区再編の推進に向けて、近隣自治体における先行事例から有益な知見を得るため、福井市における小規模な自治会の合併推進の取り組みについて市の担当部署への聞き取り調査を実施した。

1)ヒアリング調査概要

ヒアリグ先	実施日時	聞き取り担当
福井市総務部未来づくり推進局 地域振興課	令和 7 年 2 月 13 日（木） 午後 3 時 30 分	（株）サンワコン 長谷川・内田

2)ヒアリング調査結果

○小規模自治会の合併促進の全体的な状況について

個別の話し合いを実施している市街地内の 5 世帯以下の 14 自治会（令和 4 年時点）		
湊地区：4 自治会	順化地区：3 自治会	足羽地区：2 自治会
旭地区：2 自治会	宝永地区：1 自治会	豊（みのり）地区：1 自治会
社南地区：1 自治会		

質問事項	回答
・令和 6 年度現在、14 自治会からの増減	湊地区：4 自治会　順化地区：4 自治会 足羽地区：4 自治会　旭地区：2 自治会 松本地区：1 自治会　豊（みのり）地区：1 自治会 社南地区：1 自治会 ※アンダーラインは増減ありを表す 計 17 自治会に対して合併に関する説明を実施済み。下記の合併済みの 2 自治会以外は、今のところ合併に向けた進展はない。
・合併に前向きに進んでいる自治会の割合。消極的な自治会の有無。	⇒R4 以降、対象となっていた 5 世帯以下を含む宝永地区 1 件（R5.1）と旭地区 1 件（R7.1）は近隣自治会と合併済み

○前向きに進んでいる自治会の特徴

質問事項	回答
・若い世代の有無や他出子の関り、隣接自治会の理解	⇒合併を果たした 2 自治会ともまちなかで高齢者が多い地区である。神社が一緒であるなど、そもそもの結びつきが強かったことが要因で、合併に至ったと思われる。 ⇒自治会長の任期が 1 年であっても、副会長が実質的な次期会長であるなど、継続的に取り組む体制があったり、自治会長や役員の熱意があったりすることが大きな要因となる。
・市からの働きかけの工夫、前向きになるきっかけ、など	⇒地域振興課の担当者が、5 世帯以下の自治会に対し、自治会の現状把握と希望する自治会には、合併の相談に伺う。 ⇒20 世帯以下の自治会に対し、毎年、市の自治会合併補助金に関する説明文書を送付している。 ⇒市は小規模自治会が合併について検討するきっかけづくり、合併補助金の説明を行い、合併に取り組むか否かは、各自治会の主体性に委ねている。

○消極的な自治会の特徴や対応策

質問事項	回答
・消極的な要因	⇒各自治会が保有している資産・財産（集会所・剰余金・預金など）の取扱い ⇒これまでの各自治会のルールの一元化
・合併以外のコミュニティ持続方策への関心、など	⇒自治会活動のデジタル化（電子回覧板ツールの導入など） ⇒市から合併について働きかけた小規模自治会には、活動の共同化などに取り組んでいる事例の情報はない。

○話し合いの進め方

質問事項	回答
・体制（全住民 or 世帯代表、学識者など第3者の関り・役割）	⇒よくあるケースとしては、旧・現・新会長などを交えて、話し合いをしながら、相手方となる自治会と協議を行ったうえで、各自治会の総会で合併の決議をとっていく。 学識者など第三者の関りはない。
・スケジュール感（会議の頻度、ゴールの設定（いつまでに合併））	⇒ゴールは次の年末として、年初に新自治会としてスタートできるようスケジュールを組む。会長が代わると振出しに戻りかねないので、1年以内に話をまとめるのが理想。
・会議資料の作成や記録の作成など、会議の進め方・役割	⇒各自治会にお任せしている。
・進め方などについて、市が決めて地元に伝えている事項の有無（スケジュールやゴールなど）	①それぞれの自治会において合併について住民の意見集約 ②合併を予定している自治会同士による協議・検討・合意 ・会則（規約）、事業計画書、予算書 ・役員の選出 ・合併の期日、合併による解散する自治会の解散の期日 ・財産、会計の処理方法等（それぞれの自治会において協議・検討状況の住民への説明と合意） ③総会による自治会合併の決定 ・自治会の名称・代表者等の決定 〈補助金申請する場合〉 ④合併補助金申請書を市へ提出 ・総会議事録、事業計画書（修正計画を含む）、世帯名簿等を添付 ※各文書のひな型は必要に応じて市から提供している。

○自治会合併補助金の利活用の状況

質問事項	回答
・利用件数	⇒直近の利用実績 R4 年度：2 件（足羽、宝永） R6 年度：3 件（順化、旭、足羽） ※宝永、旭は 5 世帯以下の自治会として市が働きかけた自治会を含む。 ⇒合併相手の規模はマチマチ。
・補助金の効果と課題	⇒補助金利用実績は増えており、合併のきっかけとして一定の効果があると評価している。（毎年のように活用実績がある）

○中山間地区への対応

質問事項	回答
・集落支援員などの登用状況（人数、地区、効果と課題）	・美山地区 6 人、殿下地区 4 人、越廼地区 1 人 計 11 人（地区住民＋地域精通度の高い近隣住民） ⇒集落支援員は地元からの推薦を受けて任命。コミュニティ活動支援が主な役割。仕事と両立させながら、支援員としての活動は月 1 回程度の方もいる。 ⇒効果：活動報告書による状況把握 ⇒課題：支援員の高齢化（半数以上は 70 歳代。40 歳代も一定程度いる）

○今後の市の方針

質問事項	回答
・市として今後も小規模自治会の合併を促進する（先行自治会の取り組みを踏まえて手引きを作成するなど)。	⇒今後も従来の取り組みや補助制度を継続することで、小規模自治会の合併を促していく。 ⇒働きかけの対象を 5 世帯以下よりも大きくすることは難しい（対象となる自治会数が大幅に増加し、対応できない)。
・小規模自治会になる前の段階で働きかけ、支援を行う（市自治会連合会と連携？）	⇒市自治会連合会と連携し、未加入世帯への加入勧奨チラシをポスティングや自治会標語の募集・ポスターの作製などを通じて、自治会加入促進活動を実施する。

○2019 年に解散した自治会（乾徳 10、東俣町）のその後の状況

質問事項	回答
・行政からの連絡・調整は、市と住民が直接に連絡・調整している？	⇒東俣町については、市広報誌や地区からのお知らせなどは、行政嘱託員から住民に連絡されている。乾徳 10 は行政嘱託員をおいていないため、各自がホームページやＬＩＮＥ等で配信される情報を入手していると思われる。
・その後に解散した自治会、今後、解散の可能性がある自治会の有無。	⇒その後、加入世帯の減少により解散したのは 3 自治会（いずれも市街地内）となっている。解散後は隣の自治会に加入する事例もある。 ⇒今後、解散する自治会は把握していないが、高齢化や加入減により、解散する自治会は増えると考えている。

○その他

・小規模自治会の合併は、あくまでもコミュニティの維持が目的。

・住民にとって自治会がないことのデメリットは感じにくい。イメージできるのはゴミステーションや防犯灯くらい。

・ふくい町内会サミット（県自治会連合会主催）のファシリテーターを務めた福井大学の田中准教授は、福井市の「まちづくりお助け隊派遣事業」のアドバイザーに登録いただいており、清明地区の「清明まちづくり委員会」は、同事業を活用して田中准教授を招いて、町内会への若者の参画について意見交換を行った。

（４）成果と課題

1)今年度の取り組みの成果

・第 6 地区において行政区が直面している現状や課題、行政区再編のメリット・デメリットについて共有し、話し合うことができました。

・各行政区で行政区再編に関するアンケート調査を実施し、各行政区で住民同士が行政区再編について話し合うきっかけとなりました。

・先行する取り組みを実施している福井市へのヒアリング調査を実施し、自治会合併の活動への補助制度が合併に取り組むきっかけの一つになっていることや、5 世帯以下の特に規模が小さな自治会については、行政からの現状や見通し、補助制度の説明だけでは合併に進展するケースが少ないことなどが分かりました。

2)今後の課題

・行政区再編は地域コミュニティの運営に関する事柄であることから、市（行政）は積極的な誘導は難しいため、大野地区地域課題解決検討会が地域コミュニティ組織の特性を活かし、伴走型で行政区の再編を促進しなければ、すでに規模が小さくなり人材不足気味となっている行政区の再編は難しい状況です。

・行政区の再編に取り組む必要性が高い行政区と個別に意見交換会・勉強会を開催するなど、第 6 地区区長会での話し合いから次の展開へと移行する必要があります。

・現区長だけでなく次期区長や前区長が参画するなど、現区長を補佐し負担を分かち合う体制で取り組む必要があります。

・行政区の再編に必要となる具体的な取り組み内容や負担の大きさが、漠然として見えないために踏み出せない側面があると想定されるため、具体的な調整事項（会費・財産の取扱い、各種の決まりごとの擦り合わせ）、行政への届出などの手続きの流れ、作成が必要な書類の様式など、やるべきことを具体的に見える化し、提示する必要があります。

・先行する福井市のように合併補助金の制度化を要望するなど、市と連携して行政区の再編に取り組む必要があります。

資料編

（１）令和６年度大野地区地域課題解決検討会役員名簿

役職	選出団体・役職名	氏名
会長	大野地区各種団体連絡協議会長 （大野地区区長会長・大野第３地区区長会長）	米村　博之
副会長	大野地区区長会副会長 （大野第１地区区長会長）	西本　廣行
副会長	大野地区区長会副会長 （大野第２地区区長会長）	徳山　孝晴
副会長	大野地区区長会副会長 （大野第５地区区長会長・大野地区まちづくり推進協議会長）	萩原　勢子
常任理事	大野第４地区区長会長・大野地区スポーツ協会長	松原　直樹
常任理事	大野第６地区区長会長	松田　数幸
常任理事	大野長生会長・大野地区社会福祉協議会長	清水　武正
常任理事	大野地区子ども会育成会連絡協議会長	松本　育倫
幹事	大野地区区長会担当理事（庶務）	篠島　喜惠子
幹事	大野地区区長会担当理事（会計）	斉藤　和明
監事	大野地区区長会監事	杉原　眞一
監事	大野地区区長会監事	尾﨑　正孝

（２）大野地区地域課題解決検討会会則

（名称等）

第１条　本会は、大野地区地域課題解決検討会といい、事務所を大野公民館に置く。

（目的）

第２条　本会は、大野地区における地域課題を把握し、その解決に向けた検討及び取り組みを進めることを目的とする。

（事業）

第３条　本会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

(1) 地域課題解決に向けた取組の調査、研究、計画、実践に関すること。

(2) 関係機関団体との連絡調整に関すること。

(3) その他目的達成に必要なこと。

（構成）

第４条　本会は、大野地区内の行政区の長及び大野地区各種団体連絡協議会に加盟する団体の役員で構成する。

（役員）

第５条　本会を運営するため、次の役員を置く。

(1) 会長　１人

(2) 副会長　３人

(3) 常任理事　若干人

(4) 幹事　２人

(5) 監事　２人

２　会長は、大野地区各種団体連絡協議会長をもって充てる。

３　副会長は、大野地区区長会副会長をもって充てる。

４　常任理事は、理事の互選によるものとし、大野地区内の地区区長会の会長及び各種団体連絡協議会に加盟する団体の会長をもって充てる。

５　幹事は、理事の互選によるものとし、各種団体連絡協議会に加盟する団体の庶務、会計の中から会長が委嘱する。

６　監事は、大野地区区長会監事をもって充てる。

（役員の任務）

第６条　会長は、本会を代表し、会務を統轄する。

２　副会長は、会長を補佐し、会長が事故あるときはその職を代行する。

３　常任理事は、予算の編成及び事業の計画並びに所属団体との連絡調整に当たる。

４　幹事は、事務局を担当し、会長の指示に従い、本会の庶務、会計をつかさどる。

５　監事は、本会の会計を監査する。

（役員の選出及び任期）

第７条　役員は、総会において選出する。

２　役員の任期は、２年又はそれぞれ所属する団体による任期とする。ただし、再任を妨げない。

３　欠員によって就任した役員の任期は、前任者の残任期間とする。

（理事）

第８条　本会に理事を置き、事業の企画運営及び所属団体における本会事業の周知啓発に当たる。

２　理事は、大野地区内の地区区長会の会長及び副会長並びに大野地区各種団体連絡協議会に加盟する団体の会長及び副会長をもって充てる。

３　理事の任期は、それぞれ所属する団体による任期に準ずる。

４　欠員によって就任した理事の任期は、前任者の残任期間とする。

（会議）

第９条　本会の会議は、総会、役員会及び理事会とする。

２　会議は、会長が招集する。

（総会）

第１０条　総会は、本会の最高決議機関とし、年１回以上、開催する。

２　総会に次の事項を付議する。

(1) 事業実績及び収支決算

(2) 事業計画及び収支予算

(3) 役員の選出

(4) 会則の改廃

(5) その他重要事項

（役員会及び理事会）

第１１条　役員会は、会長、副会長及び常任理事をもって構成し、会長が必要と認めたときに開くことができる。

２　役員会に次の事項を付議する。

(1) 事業及び収支に関する事項

(2) 総会に提案する事項及び総会から委任された事項

(3) その他事業の運営に関する事項

３　理事会は、理事をもって構成し、総会において決定された事項及び事業の推進に必要な事項を審議する。

４　役員会及び理事会の議長は、会長が務める。

（助言）

第１２条　会長は、事業達成のために関係する市職員等の助言を求め、会議に出席を求めることができる。

（プロジェクトチーム）

第１３条　会長は、事業達成のためにプロジェクトチームを構築することができる。

２　プロジェクトチームについては、これを別に定める。

（会計）

第１４条　本会の経費は、補助金及びその他の収入をもって、これに充てる。

２　本会の会計年度は、毎年４月１日に始まり、翌年３月３１日に終わる。

附則

この会則は、令和３年１２月２３日から施行する。